

# 学生便覧

2022

国際理工学科適用



国際高等専門学校

# KIT－IDEALS

## 「学園共同体が共有する価値」に基づく信条（行動規範）

この学園に集う私たちは、学園共同体として共有すべき価値を“KIT-IDEALS”としてまとめ、これらに基づく信条を次の通り決めました。これを学生、理事、教職員が常に意識し、尊重することによって学園共同体の向上発展を目指します。

<b>K</b> Kindness of Heart	<b>思いやりの心</b> 私たちは「素直、感謝、謙虚」の心を持つことに努め、明るく公正な学びの場を実現します。
<b>I</b> Intellectual Curiosity	<b>知的好奇心</b> 私たちは「情熱、自信、信念」を持つことに努め、精気に満ちた学びの場を実現します。
<b>T</b> Team Spirit	<b>共同と共創の精神</b> 私たちは「主体性、独創性、柔軟性」を持つことに努め、共同と共創による絶えざる改革を進め、前進します。
<b>I</b> Integrity	<b>誠実</b> 私たちは、誠実であることを大切にし、共に学ぶ喜びを実現します。
<b>D</b> Diligence	<b>勤勉</b> 私たちは、勤勉であることを大切にし、自らの向上に努力する人を応援します。
<b>E</b> Energy	<b>活力</b> 私たちは、活動的であることを大切にし、達成や発見の喜びを実現します。
<b>A</b> Autonomy	<b>自律</b> 私たちは、自分の行いを律し、1人ひとりを信頼し、尊敬します。
<b>L</b> Leadership	<b>リーダーシップ</b> 私たちは、チームワークを大切にし、自分の役割を自覚しつつ、責任を果たします。
<b>S</b> Self-Realization	<b>自己実現</b> 私たちは、自らが目標を持つことを大切にし、失敗に臆することなくさらに高い目標に向かって挑戦することに努めます。

## ●学生便覧・目次

令和4年度学年暦		P. 3
校章・校歌		P. 4
沿革		P. 5
建学綱領	理事長 泉屋 吉郎	P. 6
教育目標	校長 ルイス・バークスデール	P. 10
国際高等専門学校 <sup>の</sup> 教育		P. 12
学則・諸規則		P. 16
	国際高等専門学校学則／学習指導に関する実施規程／学生心得／生活規程／学生寮規程／ 学生寮・施設利用の手引き／学生会会則／課外活動細則／特別奨学金給付規程	
修学について		P. 42
	学年・学期・休業日について／授業について／試験について／成績について／ ポートフォリオについて／課題学修の単位認定について／進級・卒業について	
留学・海外研修について		P. 56
	ラーニングエクスペリエンス	
部活動について		P. 57
主な学校行事について		P. 60
事務局案内		P. 61
	学生証について／各種証明書・届出書／奨学制度について／学生の災害（ケガ）等について	
学校生活について		P. 66
	こころの相談（カウンセリングセンター）／キャンパス・ハラスメントについて／ 個人情報の保護について	
資格試験案内		P. 71
施設案内		P. 73
	ライブラリーセンター／情報処理サービスセンター／自己開発センター／ 数理工教育研究センター／夢考房／スポーツ考房（トレーニングルーム）／ 自然学苑・セミナーハウス／FM-N1／扇が丘診療所／金沢工業大学内簡易郵便局／ サービス施設／その他の施設	
キャンパスマップ		P. 90
	白山麓キャンパス校舎配置図／金沢キャンパス校舎配置図	
ティーチングスタッフ 2022		P. 97

# 令和4年度学年暦

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 金 入学式 1週	1 日 6週	1 水 創立記念日	1 金	1 月	1 木 補習期間(白山麓)(9/16まで)	1 土 グローバル入試	1 火	1 木	1 日 元日	1 水 ●後学期定期試験	1 水 終業式
2 土 オリエンテーション(白山麓)	2 月 授業なし(白山麓) 金曜日授業(金沢)	2 木	2 土 ●北陸地区高専体育大会	2 火 前学期定期試験(白山麓)	2 金	2 日 21週	2 水	2 金	2 月 振替休日	2 木 後学期定期試験(白山麓) 試験返却(金沢)	2 木 終業式 卒業式
3 日 2週	3 火 憲法記念日	3 金 水曜日授業	3 日 15週	3 水 ●前学期定期試験	3 土	3 月	3 木 文化の日	3 土 オンライン学校説明会	3 火	3 金 試験返却	3 金 入試準備 学年末休業開始
4 月 対面式・始業式 ●オリエンテーション	4 水 みどりの日	4 土	4 月	4 木 ●	4 日	4 火	4 金	4 日 30週	4 水	4 土 試験返却(白山麓)	4 土 自己推薦入試
5 火	5 木 こどもの日	5 日 11週	5 火	5 金 ●試験返却	5 月	5 水	5 土	5 月	5 木	5 日	5 日
6 水 ●3年OP授業開始	6 金	6 月	6 水	6 土 ●学校見学会	6 火 個別面談(4・5年)	6 木	6 日 学校見学会 26週	6 火	6 金	6 月 補習期間(2/10まで) 課外活動期間(白山麓)(3/1まで)	6 月
7 木	7 土	7 火	7 木	7 日 ●	7 水	7 金 中学校・塾教職員対象 オンライン学校説明会	7 月	7 水	7 土	7 火	7 火
8 金 前学期授業開始(白山麓) オリエンテーション(金沢)	8 日 7週	8 水	8 金	8 月 夏期休業開始	8 木 課外活動・集中講義期間(白山麓)(9/22まで)	8 土 オンライン学校説明会	8 火	8 木	8 日 34週	8 水	8 水
9 土	9 月	9 木	9 土 オンライン学校説明会	9 火	9 金	9 日 22週	9 水	9 金	9 月 成人の日	9 木	9 木
10 日 3週	10 火	10 金	10 日 16週	10 水	10 土 個別面談(4・5年)	10 日 スポーツの日	10 木	10 土 IELTS試験(1・2年) ●高専デザコン全国大会	10 火	10 金	10 金
11 月 前学期授業開始(金沢)	11 水	11 土 授業予備日	11 月	11 木 山の日	11 日	11 火 月曜日授業	11 金	11 日 ● 31週	11 水	11 土 建国記念の日 4・5年シンガポール修学旅行(2・16まで)中止	11 土
12 火	12 木	12 日 12週	12 火	12 金	12 月	12 水 金曜日授業	12 土 スポーツフェスティバル	12 月	12 木	12 日	12 日
13 水	13 金	13 月	13 水	13 土	13 火	13 木	13 日 27週	13 火	13 金 授業なし(金沢)	13 月 補習期間(白山麓)(2/16まで)	13 月
14 木	14 土	14 火	14 木	14 日	14 水	14 金 高専祭準備	14 月	14 水	14 土	14 火	14 火
15 金	15 日 8週	15 水	15 金 授業予備日(金沢) 火曜日授業(白山麓)	15 月	15 木	15 土 高専祭 ●高専プロコン本選	15 火	15 木	15 日 35週	15 水	15 水
16 土	16 月	16 木	16 土 ●KITオープンキャンパス	16 火	16 金	16 日 ● 23週	16 水	16 金	16 月 月曜日授業(白山麓) 金曜日授業(金沢)	16 木	16 木
17 日 4週	17 火	17 金	17 日 17週	17 水	17 土	17 日 振替休日 月曜日授業(白山麓) 授業なし(金沢)	17 木	17 土	17 火	17 金 入試準備	17 金
18 月	18 水	18 土 オンライン学校説明会	18 月	18 木 海の日	18 日 海外英語研修帰国	18 火	18 金	18 日 32週	18 水	18 土 一般入試B	18 土
19 火	19 木	19 日 13週	19 火 金曜日授業	19 金	19 月 敬老の日	19 水	19 土 授業予備日	19 月	19 木	19 日	19 日
20 水	20 金	20 月	20 水	20 土	20 火	20 木	20 日 28週	20 火	20 金	20 月	20 月
21 木	21 土	21 火	21 木	21 日 KITオンライン進学説明会	21 水	21 金	21 月	21 水	21 土 授業予備日	21 火	21 火 春分の日
22 金	22 日 9週	22 水	22 金	22 月 夏期補習期間(金沢)(9/16まで)	22 木	22 土	22 火	22 木	22 日 36週	22 日	22 水
23 土	23 月	23 木	23 土 グローバル入試	23 火	23 金 秋分の日	23 日 KITオープンキャンパス 24週 高専ロボコン地区大会	23 水 勤労感謝の日	23 金	23 月 天皇誕生日	23 木	23 木
24 日 5週	24 火	24 金	24 日 18週	24 水	24 土	24 月 授業なし(白山麓)	24 木	24 土 冬期休業開始(白山麓)(1/9まで)	24 火	24 金	24 金
25 月	25 水	25 土 高専プロコン予選	25 月	25 木	25 日 20週	25 火	25 金 水曜日授業	25 日 33週	25 水	25 土	25 土
26 火	26 木	26 日 14週	26 火	26 金	26 月 後学期授業開始	26 水	26 土 グローバル入試	26 月 授業なし(白山麓)	26 木	26 日	26 日
27 水	27 金	27 月	27 水	27 土 ●グローバル入試 海外英語研修出発中止	27 火	27 木	27 日 29週 高専ロボコン全国大会	27 火 冬期休業開始(金沢)(1/9まで)	27 金 金曜日授業 入試準備	27 月	27 月 教育成果発表会
28 木	28 土	28 火	28 木	28 日	28 水	28 金	28 月	28 水	28 土 ●一般入試A 高専英語プレコン 全国大会	28 火	28 火
29 金 昭和の日	29 日 10週	29 水	29 金	29 月	29 木	29 土 グローバル入試	29 火	29 木	29 日 37週	29 日	29 水
30 土	30 月	30 木	30 土 授業予備日	30 火	30 金	30 日 25週	30 水	30 金	30 月	30 日	30 木
	31 火		31 日 19週	31 水		31 月		31 土	31 日 ●後学期定期試験		31 金

※コロナウイルス感染拡大に伴い、スケジュールは変更する場合があります。



## 校章

この校章は、本学園の三大建学綱領、

●人間形成 ●技術革新 ●産学協同

三位一体の学園共同体、

●学生 ●理事 ●教職員

科学技術を学ぶ者への指針を示す、3つの“T”

●Truth ●Theory ●Technology

を、本学園のシンボルであるゴールデンイーグル(いぬ鷲)の翼をモチーフにデザインしたものです。

白山に棲息する天然記念物ゴールデンイーグルは、光に向かって進むとき頭部が金色に輝く特徴を持っており、鳥類の中では最も高空を飛翔する勇敢な鳥と言われます。そのゴールデンイーグルの力強いイメージの中に、勇気と信念を象徴しています。

## 校歌

力強く

1. お お ぎ が お か に そ び え た 一 つ  
2. か え つ が や ま に ひ い で た 一 る  
3. わ れ ら の め す る く に の は 一 え

い よ う か が や く ま な び や に  
し ら ね の せ い を う げ も ち て  
き け ん を こ ゆ る わ ざ す べ

*mf* *f*

せ い き の か ね は な り わ た り う ち ゆ う の し ん り き  
が く の り ろ ん を お く ふ か く さ く り す す 一 ま ん ま  
み が き き す か ん せ い し ゅ ん の つ き ん ち か ら は ひ

わ め ん と わ か き が く と の 一 ち は 一 お ど る  
ど の べ に き ぼ う の ひ か り 一 さ や 一 か な り  
と の よ に さ い わ い き よ う を 一 ひ ら 一 く な り

作詞 青山兵吉

作曲 山下成太郎

- 1 扇が丘に聳えたつ  
偉容輝く学び舎に  
世紀の鐘は鳴りわたり  
宇宙の真理究めんと  
若き学徒の血はおどる
- 2 加越の山に秀でたる  
白嶺の精を享けもちて  
学の理論を奥深く  
探り進まん窓の辺に  
希望の光りさやかなり
- 3 われらがめぐる国の榮  
気圏をこゆる技すべて  
磨き築かん青春の  
尽きぬ力は人の世に  
幸 境を拓くなり

## 沿革

- 昭和32年 6月 1日●北陸電波学校開校
- 昭和33年 4月 1日●北陸電波専門学校開校
- 昭和34年 4月 1日●北陸電波高等学校開校
- 昭和37年 4月 1日●金沢工業高等専門学校開校電気工学科設置（定員135名3学級）  
初代校長に青山兵吉就任
- 昭和38年 4月 1日●機械工学科増設（定員90名2学級）
- 昭和39年 9月28日●体育館完成
- 昭和40年 4月 1日●金沢工業大学開学
- 昭和40年12月 4日●金沢工業高等専門学校第二代校長に竹村重武就任
- 昭和42年10月18日●第2種電気主任技術者免状交付申請校に認定
- 昭和43年 3月 1日●第2級無線技術士予備試験の免除校に認定
- 昭和43年11月 5日●能登半島国定公園に穴水湾自然学苑開苑
- 昭和44年 1月16日●情報処理センター（現情報処理サービスセンター）開設
- 昭和44年 4月 1日●教育学研究所（現情報処理サービスセンター）開設
- 昭和48年 9月21日●扇が丘診療所開設
- 昭和52年 5月19日●天池自然学苑開苑
- 昭和53年 6月 1日●金沢工業高等専門学校第三代校長に新名健吉就任
- 昭和57年 6月 1日●ライブラリーセンター開館
- 昭和61年 4月 1日●金沢工業高等専門学校第四代校長に佐久間亘就任
- 昭和62年 8月13日●工事担任者試験（電気通信事業法による）の一部免除校に認定
- 昭和63年 4月 1日●電気工学科1学級増
- 平成 2年 4月26日●第2体育館完成
- 平成 3年 4月 1日●金沢市久安2丁目270番地にて新校舎完成
- 平成 5年 7月 8日●夢考房開設
- 平成 7年 4月 1日●金沢工業高等専門学校第五代校長に堀岡雅清就任
- 平成 7年 5月23日●シンガポール理工学院と協力協定調印
- 平成 7年 7月12日●セントマイケルズ大学と協力協定覚書調印
- 平成 8年 4月 1日●マルチメディア考房開設
- 平成 9年 4月 1日●創造技術教育研究所開設
- 平成10年12月14日●池の平セミナーハウス開設
- 平成14年12月17日●ニュージーランド国立オタゴポリテクニクと協力協定覚書調印
- 平成15年 4月 1日●電気工学科を電気情報工学科に名称変更（定員45名1学級）  
国際コミュニケーション情報工学科増設（定員45名1学級）
- 平成18年 4月 1日●金沢工業高等専門学校第六代校長に山田弘文就任
- 平成19年 4月 1日●地域連携教育センター開設
- 平成21年 4月 1日●電気情報工学科を電気電子工学科に名称変更（定員40名1学級）  
機械工学科募集定員変更（定員40名1学級）  
国際コミュニケーション情報工学科をグローバル情報工学科に名称変更（定員40名1学級）
- 平成22年12月 9日●世界的工学教育組織「CDIO イニシアチブ」に加盟
- 平成26年 4月 1日●金沢工業高等専門学校第七代校長にルイス・パークスデール就任
- 平成26年 6月30日●ホーチミン市工業大学と協力協定覚書調印
- 平成27年 4月 1日●グローバル情報学科増設（定員40名1学級）  
グローバル情報工学科学生募集停止
- 平成27年11月18日●マレーシア国立マラ工科大学と協力協定覚書調印
- 平成28年 4月13日●シンガポール工科大学と協力協定覚書調印
- 平成29年 3月 6日●ムハマディア大学ジョグジャカルタ校と協力協定覚書調印
- 平成30年 3月26日●白山麓キャンパス開設
- 平成30年 4月 1日●校名を国際高等専門学校に変更  
国際理工学科増設（定員90名2学級）  
電気電子工学科・機械工学科・グローバル情報学科学生募集停止
- 令和 2年 4月 1日●国際理工学科募集定員変更（定員45名1学級）
- 令和 3年 1月13日●ホーチミン市工業大学及び越日工業大学と協力協定覚書調印



# 建学綱領

学校法人金沢工業大学理事長

泉屋吉郎

## 本学園の使命

日本の学校教育法は「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。」「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と述べています。

また、アメリカの故ケネディ大統領は、1963年6月10日アメリカン大学の卒業式において『平和の戦略』と題する演説を行いました。この演説はあの有名なリンカーン大統領の『ゲチスバーク演説』に比すべき歴史的名演説といわれています。彼はその中で「この地上にあるもので大学ほど美しいものはないであろう。大学は無知を憎む人々が知ること努め、真理を知っている人々が、他の人々の眼を開かせようと努める場であるからである。」と、彼らしい格調の高い言葉を引用して大学の使命を語っています。

これら二つの表現において、学校教育法は学理的に、ケネディ大統領は高踏的に、それぞれ大学の使命を定義づけています。たしかに、大学は学術の中心であって、常に高度の教育実践と斬新な研究活動を行い、日本及び世界学術の進歩と国際文化の向上に寄与することを使命とし、高等専門学校は、産業日本の発展を担う優秀な技術者を育成することを使命としています。

## 教育原理の焦点

さらに、一般的教育とは、哲学者フィヒテの唱えるように、人間自身を形成することであり、人間を彼自身たらしめることでもあります。また、教育学者ナトルプのいうように人格を陶冶することでもあります。陶冶とは個人の完全なる形成を意味します。

それゆえ、学園の使命を具体的に挙げれば、人間形成、学術探究及び職業教育の三つの項目を数えることができます。この三つの項目は、いずれも重要な意義を持っていますが、窮極においては、人間形成に重点を置いているのであります。要するに、学術研究、職業教育によっても人間形成は可能ではありませんが、人間形成を除外して、学術探究も職業教育もありえないのであります。したがって、使命の本質は、最高の知能と深奥な教養のある指導的人間の育成の場であると断言してよいのであります。

このように、学園を人間形成の場として重視すれば、学生生活はただ単に教室、実験室及び図書館にのみあるのではなくて、その文化活動、体育奨励、寮生活の指導、厚生施設、衛生管理、生活相談及び就職斡旋などあらゆる部門、すなわち常住坐臥そのものが重要な意義を持つこととなります。

## 学園共同体の倫理

以上の観点に立てば、人間形成ということは、官学たると私学たるとを問わず、およそ共通の最大の使命であります。特に私学においては、教育の担当者は、ひとり教授のみならず、広く理事者及び職員をも含むべきことを理解せねばなりません。したがって、本学園においては理事、教職員及び学生の三位一体の学園共同体を築き上げることによって、真に人間形成の場となし、民主主義日本の期待する人間像の生まれ出る温床とすべきであります。

しかも、私学は官学に比較して、私立学校法によって一定の基準を守り、監督を受けねばならないとしても、複雑な法的規制や煩瑣な官僚統制を免れて、はるかに自由な立場にあります。戦前においては、私学に対する当局の監督統制は、今日よりは、はるかに厳格を極めていましたが、それにもかかわらず、私学は、それぞれ独自の伝統と堅実な学風を育て上げたのであります。

いずれの私学においても、その経営の企画と財政の確立のために多大の苦慮を払いながら、なおかつ香り高き矜持を失わないのは、実にこの自由の立場が存在するからであります。それゆえにこそ、本学園においては、技術時代に先駆する革新的な産学協同方策を高く旗標として掲げて、経営管理の最高責任者である理事会は、教育研究の直接担当者である教職員及び研学当事者である学生の全面的な協調を得て、その抱負経綸を実現するため、私学の特長を遺憾なく発揮して縦横自在な活動を行い、高邁な学風を築かんとするものであります。

見られよ。古き校史に彩られた私学の中には、その創設者の人格と識見によって建立され、長き歳月と烈しい風雪に耐えて鍛え上げられ、独自の伝統と質実な学風を誇っているものが数多く存在しているのであります。例えば早稲田大学における大隈精神、慶應義塾大学における福澤精神、また、同志社大学における新島精神のごときであります。本学園においても、ここに述べる建学綱領を基盤として日本の学界に垂範する崇敬に値する風格を樹立せねばなりません。

## われらの行く栄光の道

戦後におけるわが日本の経済的発展は、敗戦というおなじ運命を辿り、ともに復興の道を進んだ西ドイツの奇蹟的発展を、はるかに凌駕する神秘的発展を遂げたのであります。この偉大な成果は日本人の知能と技術と勤勉の総合的所産であります。

いまや、本学園はこの偉大な民族的栄光をバックボーンとして、郷土石川県、北陸三県、中部圏及び日本海沿岸地区の地域開発のための学術的母体と技術的基地の主役を演ずるとともに、さらに世界市場に挑戦する産業日本の要求する最優秀な技術者と最上級の経営者を養成すべき重責を双肩に担っているのであります。

進んで将来は、現代アメリカの科学技術の聖地ともいべきマサチューセッツ工科大学の運営方針に学んで、日本の宇宙開発より産業社会学に至るまで、最高水準を誇る第一流の学園たらしめんとする大志を実現して、民主主義日本の学界に偉大な栄光を捧げんとするものであります。われわれは、この国家的至上使命を遂行するために本学園のあらゆる機能を結集して、その共同的総力を挙げて精進する決意を持たなければなりません。

昭和 40 (1965) 年 2 月



## 三大建学旗標

金沢工業大学及び国際高等専門学校は、学生、理事、教職員が三位一体となり、学園共同体の理想とする工学アカデミアを形成し、学園創設理事である泉屋利吉翁が定めた三大建学旗標の具現化を目的とする卓越した教育と研究を実践し社会に貢献します。

**高邁な人間形成**：我が国の文化を探究し、高い道徳心と広い国際感覚を有する創造的で個性豊かな技術者・研究者を育成します。

**深遠な技術革新**：我が国の技術革新に寄与するとともに、将来の科学技術振興に柔軟に対応する技術者・研究者を育成します。

**雄大な産学協同**：我が国の産業界が求めるテーマを積極的に追究し、広く開かれた学園として地域社会に貢献します。

## 学園の学章

### 「三大建学旗標」

人間形成          技術革新          産学協同

### 三位一体の「学園共同体」

学生                  理事                  教職員

### 科学技術を学ぶ者への指針を示す「3つの“T”」

Truth                  Theory                  Technology

真理                  理論                  技術

以上の3つの要素を、学園のシンボルであるゴールデンイーグル（いぬ鷲）の翼をモチーフにデザインしたものです。

白山に棲息する天然記念物ゴールデンイーグルは、光に向かって進むとき頭部が金色に輝く特徴を持っており、鳥類の中では最も高空を飛翔する勇敢な鳥と言われます。そのゴールデンイーグルの力強いイメージは、勇気と信念を象徴しています。

## 「学園共同体が共有する価値」に基づく信条（行動規範）

この学園に集う私たちは、学園共同体として共有すべき価値を“KIT-IDEALS”としてまとめ、これらに基づく信条を定めました。これを学生、理事、教職員が常に意識し、尊重することによって学園共同体の向上発展を目指します。

※ “KIT-IDEALS” は表紙裏面に記載

## 学園共同体の理想

学園創設者の泉屋利吉翁は、学生・理事・教職員の三位一体で構成する学園共同体の理想を掲げ「工学アカデミア」の建設に全力を傾けました。学園創設期においては、学生を“**Young gentlemen**”と呼び、彼らの自律と自主的な活動を支援し、自由と活気ある学園の樹立に心がけました。特に、直接、その設立を企画した穴水湾自然学苑は、豊かな自然の中で教職員と学生が寝食を共にし、規律ある共同生活を送ることにより、お互いの信頼関係の構築と学園共同体の理想を実現せんとするものでありました。傍ら、教職員の資質向上を図るため、教職員の学内外への留学制度を構築し、全ての教職員に教育者としての自覚を強く求めました。

初代校長・学長の青山兵吉先生は“**Truth(真理)**”“**Theory(理論)**”“**Technology(技術)**”を当時の学園の記事に三つの“**T**”として込められ、学園を「知を求める場」「知を生産する場」とされ、本学園卒業生が我が国産業界において指導的役割を担う技術者・研究者として活躍することを強く念じ、また信じておられました。学術に生きる青山兵吉先生の純粋で崇高な願いと言動は、当時の教職員には忘れ難いものがあります。

第2代大学学長の京藤睦重先生は、学生の学力や資質を直視され、多年にわたる教育者としての信念に基づき、学園共同体の理想を「親切的な学園である」との言葉に込められ、学生との信頼関係を構築する軸として、基礎学力の向上を目的とする徹底した教育訓練を展開されました。特に、「努力すれば、必ず報われる」と学生に熱く語りかけておられた姿や「誠意をもって学生に対応すれば、学生は必ず応えてくれる」と自ら率先して学生と向き合う活力ある行動は、教職員を励ますのみならず、学外の多くの方々から支持されました。

私は、“**KIT IDEALS**”を標榜するにあたり、学園が組織として重視すべき価値と位置づけた“**Kindness of Heart**”（思いやりの心）は、京藤睦重先生の教育者としての学生を思う心を“**Intellectual Curiosity**”（知的好奇心）は、青山兵吉先生の学者としての純粋な崇高さを“**Team Spirit**”（共同と共創の精神）は、泉屋利吉翁の学園共同体の理想を追究する闘志に満ちた活動をそれぞれ想起し定めたものであります。

また、学園を構成する（学生、理事、教職員）個々人が重視すべき価値として位置づけた **Integrity**（誠実） **Diligence**（勤勉） **Energy**（活力） **Autonomy**（自律） **Leadership**（リーダーシップ） **Self-Realization**（自己実現）は、創設者を始めとして、歴代の学長・校長が話されたり、学生を諭された言葉の数々から、その思いを要約させていただいたものであります。

学園を構成する人々（学生、理事、教職員）が生涯にわたる「行動」を通して自己実現を目指され、学園共同体の理想実現に寄与されますことを念願するものであります。

平成 14 年 1 月

理事長 泉屋 利郎



# 教育目標

～グローバルイノベーターの育成～

国際高等専門学校校長

ルイス・パークスデール

## 1. 沿革

日本は終戦からわずか十数年で、世界が驚くほどの経済発展を実現させました。その中心的役割を果たしたのは、日本が世界に誇る「ものづくり」の根幹を成す「技術」であったことはいまでもありません。

その驚異的な日本の発展のはじまりを背景として、高専教育制度が誕生しました。技術立国としての地位を確立することを願い、社会はできるだけ多くの実践的な能力を備えた技術者の養成を求め、その願いは当時生まれたばかりの日本各地の高専に託されたのです。

そのような社会状況の下、昭和 37 年、本校は全国で最も早く創設されました。それから 58 年、今日まで 15 才からの徹底した先進的実学教育を実践し、地域に密着した私立高専として歩んできました。「人間形成」、「技術革新」、「産学協同」を建学綱領として、現在までに 6,000 名を超える卒業生を社会に送り出してきました。

## 2. イノベーション時代に生きる教育

この 50 数年の間に私たちを取り巻く社会情勢も大きく変化しました。社会、産業、職場においては変化のスピードが増し続け、この世界の解明を目指す「科学」(サイエンス)と、世界を変える能力ともいえるべき「技術」(テクノロジー)が急速に発展し、社会における機会とニーズも目まぐるしく変化していきます。そのような中で、今日の若者たちが将来、世界を舞台に活躍するために、どのような技術や心構え、知識が必要になるかを、私たちが前もって正確に予測することは不可能です。一定の知識とスキルさえ習得させれば、学生たちの一生のキャリアは保証され、彼らは変容する社会に対応していけるのでしょうか。答えは否です。すでにそのようなことを期待できる世中ではありません。今日の世界においては、学生たちは学び適応し、機会を追求し、挑戦し打ち勝ち、自分たちの住む社会を大きな像でとらえ、そこで自らの役割を見出す、といったさまざまな能力を得て卒業することが必要です。それゆえに、若者たちは一生続いていく自分自身の学びと成長の舵取りを担う能力を身につけなければならないのです。

社会では総じて言えることですが、職場においても新しいことや予期せぬことに対応するべく革新的な手段が必要となり、またチャレンジすべきことも増えるでしょう。社会で上手く機能した貢献していくために、課題やニーズを適切に分析し、革新的な独自の解決方法を見つけ出せるようになることが、本校の卒業生に求められるようになるでしょう。絶え間なく変化している世界では、イノベーション(革新)を求める声が常に存在しています。イノベーションというのは心構えとスキルの両方から成り立つものです。イノベーションには寛容さと探究心が必要であり、何事にも疑問を持ち批判する態度と失敗から学ぶ精神的強さが求められます。また、問題を認識し分析する能力、研究し学ぶ能力、共有し協働する能力、そして創造する能力も要求されます。本校における私たちの目的は、積極的な変化を起こす機会を最大限に利用しながら、常に変化から学び、またそれに応えられる革新者を卒業生として輩出することなのです。

本校は教育におけるイノベーター（革新者）として、1）創造性：Creativity、2）グローバル化：Globalization、3）やる気：Motivation、3つのキーとなる分野に焦点を絞っていきます。

### 1) 創造性：Creativity

私たちの生活の根本を支えている「技術」とは、「創造性」なのです。それは私たちの環境と相互に作用して社会を築き、生活していくための、重要な方法なのです。それは私たち人間を人間とし得る一部でもあります。エンジニアリング（工学）の基本的な過程への洞察と、エンジニアリングの社会におけるさまざまな側面との関わり合いを注視することは、すべての人々にとって不可欠です。創造性は、技術者として社会に貢献し、また技術者自身が活動的で充実した人生を送るために、ますます重要な要素となってきています。

本校では、創造性と「ものづくり」を通した価値観を養うため、デザイン手法、世界規模で進む革新的工学教育「CDIO」と連動した体験重視の工学教育、目標達成型プロジェクト、学生中心の研究活動、ロボットコンテストやプログラミングコンテスト、デザインコンペティションなどのコンテスト参加、そして豊かな心を育む一般教養教育を実施しています。

### 2) グローバル化：Globalization

現在の世界経済は、世界中のほとんどすべての職場が他の職場と結ばれているといっても過言ではありません。今やその結びつきは特定の地域だけにとどまらず、ものの見方や考え方を一国のみの基準ではかることは難しくなっています。他の国々の産業との交流や協働からもたらされる機会を見逃すことはできません。そして、世界での共通言語として日本語を使用することは現実的ではなく、私たちは世界の経済、文化が動く場で最も使用されている英語の習得を避けることはできません。

本校では、コミュニケーションの手段としての英語を身につける少人数英語教育、外国人教員と英語で専門科目を学習する工学・英語協同学習、アメリカへの海外英語研修、ニュージーランドへの1年間留学、シンガポール修学旅行、シンガポール・ポリテクニク生を迎えてのマイルプログラム、海外インターンシップ、東南アジアで現地の人々と生活をともにし、ものづくりやデザインに取り組むラーニングエクスペリエンスなど、グローバル化を体感できるさまざまな活動の機会を提供しています。

### 3) やる気：Motivation

価値あることを学ぶには何事も時間と労力を要します。学習する者にとっては、学習に対する個人的な強い関心が欠かせません。そのような関心は、学ぶ予定の知識やスキルの実用性を理解すること、価値のある目標に向かって進んでいる感覚、そして継続することで得られる達成感から生まれます。本校では、学習する者のやる気を育て、維持するようなさまざまな機会を設けています。豊かな自然の中での集団生活を通し、人間性を育む研修活動、夢や目標を叶えるためのキャリアデザイン、資格取得支援、地域社会に貢献するボランティア活動、インターンシップ、そして部活動など、教室や教科書、黒板などを越えた豊かで興味深い学習・活動が用意されています。

### 最後に：Innovation again

革新（Innovation）は今日の世界を、若者たちが知識やスキルで絶え間なく成長し発展する革新者（Innovator）として競い合える未来へと力強く導いていきます。私たち国際高専も、絶え間ない革新を通じて、急速に近づきつつあるさまざまな課題に立ち向かう準備ができています。

# 国際高等専門学校<sup>（仮称）</sup>の教育

## 国際高専の教育目標

グローバルイノベーターの育成

## 3つの方針について

本校は、教育目標を達成するために、次の3つのポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）を設定しています。

### 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

本校は教育目標を「グローバルイノベーターの育成」とし、学生・理事・教職員に対しては学園共同体が共有する価値に基づく信条である「KIT-IDEALS」を常に意識、尊重することを求め、自身及び学園共同体の向上発展を目指している。また、グローバルイノベーターの素養をしっかりと身につけるため、第1・2学年は全寮制教育により人間力の陶冶を行い、第3学年には1年間の海外留学を義務づけている。

本校は、上記理念及び教育方法に共感し、次のような特徴を持つ人を求めている。

- ①しっかりと基礎学力を持ち、科学技術やデザイン（課題の発見・解決）、イノベーション（新しい価値の創造）に興味を持つ人
- ②グローバル社会での活躍に強い関心と探究心を持ち、英語でのコミュニケーション能力を高めようとする人
- ③主体的に社会や地域に貢献する意欲を持ち、且つ行動する人

本校では、一般入試・自己推薦入試以外に、多様な学生を募集するためにグローバル入試・帰国生入試を実施する。また、すべての入学試験にて、主体性や協調性、高い向上心を持つ学生を選抜するために面接試験を行う。選考にあたっては、各入試区分で定められた試験及び出願書類により多面的・総合的に評価する。

### 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

本校は、グローバルイノベーターの素養をしっかりと身につけさせるために、下記を特色とする「CDIOイニシアチブ」の理念をカリキュラムに織り込み、学生の主体的な体験を重視するカリキュラムを編成する。また、学修成果の評価については、成果物や試験以外に、活動プロセスや協働状況を評価するためにLMS（学習管理システム）を活用する。

- ①課題発見・解決力を高める。  
高専入学時から、Open-ended、即ち決まった答えのない問題について解決策を探るプロジェクトを早い段階でスタートさせる。継続的にデザインシンキングを実践する機会を設けて、課題を発見・定義する経験を繰り返し、幅広い研究成果や調査技術を駆使し、課題の解決へと結びつける力を養っていく。
- ②科学的思考力、コミュニケーション能力を鍛える。  
他者と協働しながらアカデミックな探究の精神を養うこと、批判的・分析的思考の技術を磨くこと、ディスカッションやディベートを含む効果的なコミュニケーション能力を育成することに努める。
- ③よりよい社会づくりに積極的に参画する態度を養う。  
地域とのふれあいを意識し、地域社会や自然・環境を調査・研究対象としたプロジェクトを行い、地

域貢献を通じて社会の一員としての自覚を醸成する。

- ④グローバルに活躍できる英語力を培う。  
特に数学、科学、工学における教育伝達的手段として第1学年から英語を導入し、徐々に増やしていく。第3学年以降はほとんどの授業を英語で行う。
- ⑤異なる文化や、多様な価値観を持つ人々と協働する力を身につける。  
文学と芸術に触れる機会や、世界の人々と協働する体験を通じ、創造性と、自身や社会並びに世界に対する深い理解を育む。

## 卒業認定方針（ディプロマ・ポリシー）

本校は、グローバルに活躍するイノベーターの素養を身につけた実践的・創造的技術者を養成している。グローバルイノベーターとは、課題を発見する科学的思考力を持ち、最新の工学知識や洞察力を身につけ、創造的な解決策を用いて新しい価値を生み出す人材である。さらに、さまざまな分野の専門家たちと協働し、文化や価値観の多様性を受け入れ、グローバル社会で活躍する力を持ったプロフェSSIONナルでもある。新しい価値の発見者“イノベーター”は、工学原理、工学実践を幅広く理解していなければならない。つまり、工学教育改革を目指す国際的組織「CDIO イニシアチブ」の「Conceive、Design、Implement、Operate」というそれぞれの段階を理解し実践する者である。具体的には、次の能力及び行動規範を身につけることが求められる。

### I 社会に貢献するリーダーとしての人間力

- ①革新への挑戦  
信念(高い志・強靱な意志)を持って行動し、失敗に臆することなく粘り強く挑戦し続け、自身やチームを成功へと導くことができる。
- ②社会的使命感  
地域社会や自然環境に関心を持ち、社会的な課題の解決に使命感を持っている。
- ③リーダーとしての高潔  
グローバルな環境でリーダーシップを発揮する一方で、謙虚さや他者への尊敬、思いやりを持ち、信頼される人格を備えている。

### II グローバルに活躍できるコミュニケーション能力

- ①コラボレーション  
チームで目標を達成するために、自分の役割と提供できる価値を認識し、積極的に貢献する。
- ②多様性とアイデンティティ  
多様な文化や価値観を持つ人々と協働するための教養を備えつつ、自身の考えを持っている。
- ③心を動かす力  
自身の考えを論理的にまとめたうえで、相手の立場や気持ちを考慮しながら効果的に伝えることができる。

### III イノベーターに相応しい卓越した科学技術力

- ①価値創出  
幅広い学問領域の探求とデザイン思考の実践により、これまでにない価値を創出することができる。
- ②自然・社会・産業と結びつけた科学的思考  
科学技術を自然・社会・産業の面から理解・分析し、自分の考えを述べるができる。
- ③常に学び続ける姿勢  
科学・工学の基礎を土台として、常に新しい知識・技術を獲得する姿勢を持っている。

これらの認識の下、本校の教育理念と教育目的に沿って設定された授業科目や教育プログラムを履修し、基準となる単位数を取得することが卒業の要件である。

## 自己点検・評価の仕組み

本校は、教育の改善を図るために外部機関による評価を受けると共に、本校でも学生と教職員が一体となり、各種の方法で自己点検・評価を実施しています。

学生は、自ら学んだ学習内容（学習の到達度）を各科目の成績や修学状況から確認します（図9参照）。さらに、学生がICT授業アンケートやICT総合アンケートに答えることで、授業への取り組みの積極性や、成果、課外における活動の充実度を自己点検・評価することができます。

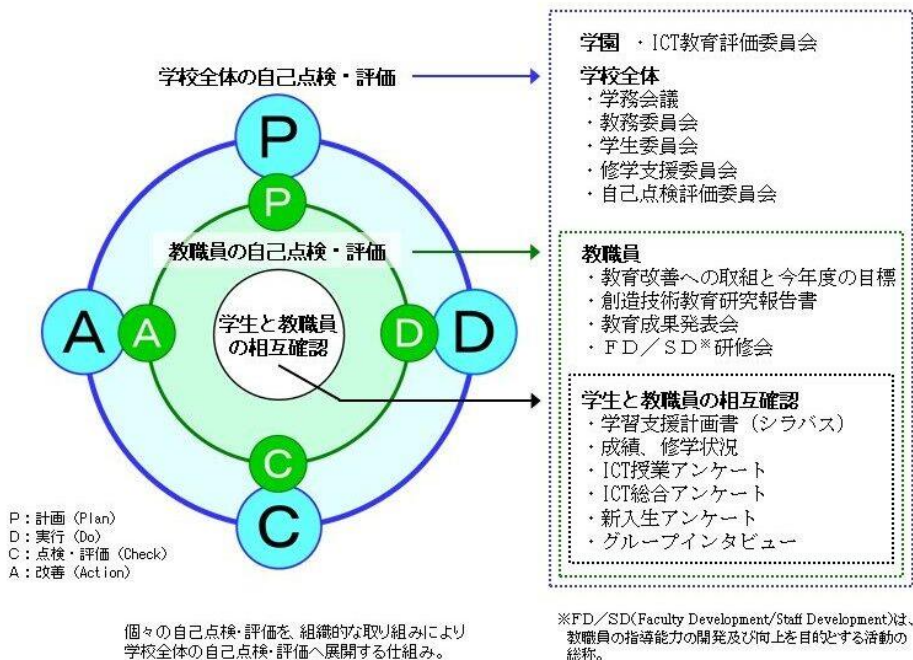


図9. 国際高専における自己点検・評価の概念図

これらの情報は教員にとって、また、本校全体にとって、教育改善のための重要な要素になります。学生と教員が相互確認した内容をベースに、各教員は、年度末に1年間の活動について自己点検・評価し、「今年度の教育改善成果に関する自己点検・評価」を校長に提出します。校長は、それを受けて個別面談を行い、各教員の活動状況全般を確認すると共に、次年度の改善目標について合意形成を図ります。その上で、「教育改善への取組と今年度の目標」を作成し、授業運営の観点から昨年度の実績とその評価および反省の上に立って今年度の授業改善に取り組んでいます。

一方、各教員が授業において実践した活動内容については、教育成果発表会や、創造技術教育研究所でまとめた教育に関する「創造技術教育」（研究報告書）によって全教員に公開され、個々の教員の優れた教育実践例のノウハウが共有されます。また、多年に亘り継続して行われているFD研修会は、授業の創意工夫を図るものとして定着しています。

本校の学事運営を行う組織として学務会議を中心に、教育、修学、進路、教育研究の観点から、「教務委員会」、「学生委員会」、「修学支援委員会」、「デザイン教育研究委員会」などが設置されています。多くの教員が教育活動の点検と学事運営に携わることで、各教員が行った教育実践や学事運営における自己点検の内容が、本校全体の改善活動の中で活かされる仕組みとなっています。さらに、「自己点検評価委員会」を設け本校の教育に関する取り組みを評価改善すると共に、ICT 教育評価委員会を通して学園理事会の諮問機関で第三者評価を行う「十年委員会」へ、教育・研究活動における取り組みの状況や計画などを報告しています。

このように、本校の自己点検のシステムは、個々の自己点検が組織的な取り組みへと展開される仕組みを有しており、校長のリーダーシップのもと、学生、教職員それぞれが学園の理念や本校の教育実践目標を理解し、さらに行動規範（KIT-IDEALS）に沿って、それぞれが行動することで「工学アカデミア」の実現を目指しています。



# 国際高等専門学校学則

## 第1章 目的及び使命

- 第1条** 国際高等専門学校(以下「本校」という。))は、学校法人金沢工業大学建学綱領に定める建学の精神に則り、教育基本法及び学校教育法に基づき、理学・工学の幅広い学芸を教授し、グローバルに活躍するイノベーターの素養を身につけた創造的・実践的技術者の養成を目的とする。
- 2 本校は、前項の目的を実現するための教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、地域社会及び国際社会の発展に寄与することを使命とする。
- 3 本校は、前2項の目的及び使命を達成するため、教育研究活動等の状況について点検及び評価を行うことに努めるものとする。
- 4 前項に関し、必要な事項は、別に定める。

## 第2章 修業年限、学年、学期及び休業日

- 第2条** 本校の修業年限は、5年とする。
- 第3条** 学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終る。
- 第4条** 学年を分けて、次の2学期とする。
- 前学期 4月1日から9月30日まで  
後学期 10月1日から翌年3月31日まで
- 2 前項に定める学期の開始日及び終了日については、国際高等専門学校校長(以下「校長」という。))は、臨時に変更することができる。
- 3 各学期の授業実施日等は、別に定める学年暦による。
- 第5条** 休業日は、次のとおり定める。ただし、特別の必要があるときは、校長は、これらの休業日を授業日に振り替えることができる。
- (1) 日曜日
  - (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に定める休日
  - (3) 創立記念日 6月1日
  - (4) 夏期休業
  - (5) 冬期休業
  - (6) 学年末休業
- 2 前項第4号から第6号の休業日は、学年暦による。
- 3 第1項各号に規定する休業日のほか、臨時の休業日は校長がその都度定める。

## 第3章 組織及び定員

- 第6条** 本校に次の学科を置く。
- 国際理工学科
- 2 学科は、教育上有益と認められるときには、適切なコースの学級を編成することができる。
- 3 前項に規定するコースの取り扱いについては、別に定める。
- 第6条の2** 国際理工学科は、グローバルに活躍するイノベーターの素養を身につけた創造的・実践的技術者の養成を目的とする。
- 2 コースの人材養成目的は、別に定める。
- 第7条** 国際理工学科の学級数及び収容定員は、次のとおりとする。

学 科	学級数	入学定員	収容定員
国際理工学科	1	45人	225人

## 第4章 教育課程等

- 第8条** 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。
- 第8条の2** 本校の授業科目は、その内容により、一般科目及び専門科目に分ける。
- 2 前項に定める授業科目のほか特別活動を実施する。
  - 3 1年次及び2年次は、全寮制による教育を行う。
- 第9条** 本校は、本校及び学科の教育目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。
- 2 教育課程は、各授業科目を各学年に配当して編成する。
  - 3 各授業科目の単位数と学年別配当は、別表第1のとおりとする。
  - 4 各授業科目の単位数は、30単位時間(1単位時間は標準50分とする。次項及び第8項において同じ。)の履修を1単位として計算するものとする。
  - 5 前項の規定にかかわらず、授業科目のうち別表第1に定める学修単位科目については、1単位の授業科目を45単位時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、1単位を15単位時間の授業をもって計算する。
  - 6 前項の規定により計算することのできる授業科目の単位数の合計は、60単位を超えないものとする。
  - 7 前3項の規定にかかわらず、インターンシップ及び課題学修については、その学修の成果を評価して単位の修得を認定することとし、その単位数については、別表第1による。
  - 8 特別活動を、卒業までに90単位時間以上実施するものとする。
  - 9 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が同学年の他コース専門科目を履修することを認めることができる。この場合において修得した単位は進級・卒業に必要な単位数に含めないものとする。
- 第9条の2** 授業は、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、教室等以外の場所で履修させることができる。
- 2 教員は、多様なメディアを高度に利用して、教室等以外から授業をすることができる。
  - 3 授業は、外国において履修させることができる。この場合において、前項に規定する授業方法による場合についても、同様とする。
  - 4 授業の一部は、文部科学大臣が定めるところにより、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。
  - 5 前3項に規定する授業方法により修得する単位数は、60単位まで卒業に要する単位数に含めることができる。
- 第10条** 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が他の高等専門学校において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 第11条** 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う大学における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本校における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。
- 2 前項により、認定することができる単位数は、前条により本校において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

3 第1項の規定は、学生が、外国の大学又は高等学校に留学する場合及び外国の大学が行う通信教育における授業科目を、我が国において履修する場合について準用する。この場合において認定することができる単位数の合計数は、前項により本校において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

4 校長は、第1項及び前項において修得を認定した単位が、別表第1の本校授業科目との互換が適切であると認めるときは、当該本校授業科目の単位を修得したものと認定することができる。

**第12条** 各学年の課程の修了及び卒業の認定は、学生の平素の学業成績のほか、特別活動の状況を併せて評価の上、校長が行う。

2 前項に規定する評価については、別に定める国際高等専門学校学習指導に関する実施規程による。

3 各学年の課程の修了又は卒業が認められなかった者は原学年に留める。

## 第5章 入学、転科、休学、退学、転学及び卒業

**第13条** 2学年以下において原学年に留められた場合は、当該学年の修得単位を無効とし、その学年の授業科目及び特別活動の全てを再履修しなければならない。ただし、原学年に留められた者が進路変更するために退学を希望する場合には、当該学年の修得単位を有効とする。

2 3年以上において原学年に留められた場合は、当該学年の修得単位を有効とし、当該学年における未修得科目を履修しなければならない。ただし、当該学年で修得した授業科目についても再履修することができるものとする。

3 前項の規定により再履修を行う場合は、履修を許可された時点で当該授業科目についての既修得単位と成績評価は取り消される。

**第14条** 本校に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 中学校若しくはこれに準ずる学校を卒業した者
- (2) 中等教育学校の前期課程を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における9年の課程を修了した者
- (4) 文部科学大臣の定めるところにより、前3号と同等以上の学力があると認められた者

**第15条** 入学を志願する者は、入学願書に第29条に定める検定料及び所定の書類を添えて願い出なければならない。

**第16条** 校長は、入学志願者について、別に定めるところにより入学者を選考し、合格者を決定する。

**第17条** 合格通知を受けた者は、指定の期日までに第29条に定める入学金を納付するとともに、在学中の保証人と連署した誓約書及び校長が定める書類を提出しなければならない。

2 校長は、前項の入学手続を完了した者に対して、入学を許可する。

**第18条** 1学年後学期以降に入学を希望する者があるときは、校長は、その者が相当年齢に達し、当該学年に在学する者と同等以上の学力があると認められ、かつ、定員に欠員がある場合に限り、相当学年に入学を許可することができる。

**第19条** 削除

**第20条** 病気その他やむを得ない理由により、休学しようとする者は、その事由を記して保証人と連署で休学を願い出て、校長の許可を受けなければならない。ただし、病気の場合には、願い書に医師の診断書を添付しなければならない。

2 休学は、原則として学期ごととし、休学の願い出は学期の始めまでに行わなければならない。

**第21条** 校長は、特殊の病気のため療養を要すると認められた者に対して、出席停止又は休学を命ずることができる。

2 校長は、伝染病にかかり、又はかかっている疑いがあると認められた者に対し、出席停止を命ずることができる。

**第22条** 休学期間は、通算して2年以内とする。

**第23条** 休学した者は、休学の理由がなくなったとき、校長の許可を受けて復学することができる。

**第24条** やむを得ない理由により退学しようとする者は、その理由を記して保証人と連署で願い出、校長の許可を受けなければならない。

2 前項の規定により退学した者で再入学を希望する者があるときは、校長は、選考の上、相当学年に入学を許可することができる。

**第25条** 他の学校に入学、転学又は編入学を志望しようとする者は、校長の許可を受けなければならない。

**第26条** 学生は、1学年及び2学年においては、学生寮に入寮する。

2 学生は、3学年においては、提携するニュージーランド国立オタゴポリテクニクに留学し、その授業科目を履修する。

3 前項に定める留学の期間は、原則として1年以内とする。

4 留学期間は、在学年数に算入する。

5 留学について必要な事項は、別に定める国際高等専門学校外国留学に関する規程による。

**第26条の2** 削除

**第27条** 校長は、卒業を認定した者（次項において「卒業生」という。）に卒業証書を授与する。

2 卒業生は、準学士(工学)と称することができる。

## 第6章 学校納入金

**第28条** 本学則において学校納入金とは、検定料、入学金、授業料及び在籍料をいう。

2 本学則に定めるもののほか、学校納入金の取扱いについては、学校法人金沢工業大学学校納入金収納取扱規程の定めるところによる。

**第29条** 検定料及び入学金は、次のとおりとする。

検定料 15,000円

入学金 200,000円

**第30条** 授業料は、学年ごとに別表第2に定めるとおりとする。

2 1学年及び2学年の授業料には、学生寮への入寮に伴う寄宿費（食費を含む。）を含む。

3 3学年における授業料とは別に、留学に係るニュージーランド国立オタゴポリテクニクの授業料、ホームステイ費用は別に徴収する。

**第31条** 休学を認められた者の当該休学期間に相当する学期の授業料は、これを徴収しない。ただし、休学期間に相当する学期の在籍料を納入しなければならない。

2 在籍料は、一学期につき3万円とする。

3 休学した者が復学するときの授業料は、その者の入学時に定められた当該学年の授業料の額とする。

**第32条** 授業料は、学期ごとに納入しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、年額を一括して納入することができる。

3 納入期限は、学校納入金明細書に記載する払込指定日とする。

**第32条の2** 納入された全ての学校納入金は、返還しない。

2 前項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、当該授業料を返還する。

- (1) 入学を許可された者が、所定の手続により4月1日までに入学辞退を申し出、かつ既に授業料を納入している場合
- (2) 休学を認められた者が、休学する学期の授業料を既に納入している場合
- (3) 退学又は除籍された者が、在籍しない学期の授業料を既に納入している場合

**第32条の3** 学期の途中で退学、休学、停学又は除籍された者の当該学期の授業料は、これを徴収する。

## 第7章 教職員

**第33条** 本校に、校長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務局長、事務職員及び技術職員（次項を含め次条において「教職員」という。）を置く。

2 前項に定めるほか、本校に副校長、学科長を置くことができる。

**第34条** 校長は、校務を掌り教職員を監督する。

- 2 副校長は、校長の職務を助ける。
- 3 学科長は、学科に関する校務を掌る。
- 4 教授、准教授及び助教は、学生を教授する。
- 5 講師は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する。
- 6 助手は、教育の円滑な実施に必要な業務に従事する。
- 7 事務局長は、校長を補佐し、学務に関する事務を統理する。
- 8 事務職員は、学務に関する事務に従事する。
- 9 技術職員は、技術に関する業務に従事する。

**第35条** 校長は、教授の中から教務主事、学生主事、修学支援主事、教育点検主事を任命する。

- 2 教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案、その他教務に関することを掌理する。
- 3 学生主事は、校長の命を受け、学生の生活・課外活動指導及び厚生補導に関することを掌理する。
- 4 修学支援主事は、校長の命を受け、学生の修学指導及び進路指導に関することを掌理する。
- 5 教育点検主事は、校長の命を受け、教育の実態把握、点検評価及び改善に関することを掌理する。
- 6 削除

## 第8章 賞罰及び除籍

**第36条** 校長は、学生として表彰に値する行為があるときには、表彰することができる。

**第37条** 校長は、学生が本校の規則に違反し、又はその本分に反する行為があるときは懲戒する。

**第38条** 前条に定める懲戒の種類は、訓告、謹慎、退学とする。

**第39条** 校長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して退学を命ずる。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由なく出席が常でない者
- (4) 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

- (5) 第12条第3項の規定により、原学年に留められた者で、再履修後も引続き進級できない者

**第40条** 校長は、次の各号のいずれかに該当する者を除籍する。

- (1) 学校納入金を滞納し、督促を受けても納入しない者
- (2) 在学期間が10年を超えた者
- (3) 第22条に規定する休学期間を超えた者
- (4) 長期間にわたり行方不明の者

## 第9章 外国人留学生

**第41条** 校長は、本校に留学を志願する外国人があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

**第42条** 削除

**第43条** 削除

## 第10章 研究生及び科目等履修生

**第44条** 校長は、本校学生以外の者で、本校の特定の専門事項について研究することを希望するものがあるときは、本校の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可することができる。

2 研究生について必要な事項は、別に定める国際高等専門学校研究生規程による。

**第45条** 削除

**第46条** 校長は、本校学生以外の者で、本校が開設する一又は複数の授業科目を履修することを希望するものがあるときは、本校の教育に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可することができる。

2 科目等履修生のうち、履修する授業科目についての単位の取得を希望しない者を聴講生という。

3 科目等履修生について必要な事項は、別に定める国際高等専門学校科目等履修生規程による。

**第47条** 削除

## 第11章 図書館等

**第48条** 本校に、図書館及びその他教育研究に必要な施設を置く。

**第49条** 削除

## 第12章 公開講座

**第50条** 本校に、公開講座を開設することができる。

**第51条** 削除

## 附 則

1 この学則は昭和37年4月1日から実施する。  
(中略)

50 この学則は、令和3年4月1日から改正施行する。

50 この学則は、令和4年4月1日から改正施行する。

## 別表第1 教育課程表

平成30年度以降入学生適用

## 一般科目（全コース共通）

授業科目	学 年	配当年次	単位数		学年別配当					備 考		
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	5年			
人文科学	国語表現ⅠA	1前	1		1							
	国語表現ⅠB	1後	1		1							
	国語表現ⅡA	2前	1			1						
	国語表現ⅡB	2後	1			1						
	英語表現ⅠA	1前	1		1					国語表現に替わる 留学生用の科目		
	英語表現ⅠB	1後	1		1							
	英語表現ⅡA	2前	1			1						
	英語表現ⅡB	2後	1			1						
	文学Ⅰ	1前		1	1					文学に替わる 留学生用の科目		
	文学Ⅱ	2後		1		1						
	世界文学Ⅰ	1前		1	1							
	世界文学Ⅱ	2後		1		1						
	アカデミックライティング	4前		1				1				
	歴史文化ⅠA	1前	1		1					歴史文化に替わる 留学生用の科目		
	歴史文化ⅠB	1後	1		1							
	歴史文化ⅡA	2前	1			1						
	歴史文化ⅡB	2後	1			1						
	歴史文化（英語）ⅠA	1前	1		1					歴史文化に替わる 留学生用の科目		
	歴史文化（英語）ⅠB	1後	1		1							
	歴史文化（英語）ⅡA	2前	1			1						
	歴史文化（英語）ⅡB	2後	1			1						
	グローバルスタディーズ	3前	2				2					
	社会科学	4前		2				2			学修単位	
	人文科学	4後		2				2			学修単位	
	心理学	5前		2					2		学修単位	
	生活と文化	3通	4					4				
	自然科学	解析基礎A	1前	2		2						
		解析基礎B	1後	2		2						
微分・積分A		2前	2			2						
微分・積分B		2後	2			2						
基礎数学A		1前	2		2							
基礎数学B		1後	2		2							
代数・幾何学A		2前	2			2						
代数・幾何学B		2後	2			2						
数理統計		4前	2					2			学修単位	
物理ⅠA		1前	1		1							
物理ⅠB		1後	2		2							
物理ⅡA		2前	2			2						
物理ⅡB		2後	2			2						
化学ⅠA		1前	1		1							
化学ⅠB		1後	2		2							
化学ⅡA		2前	2			2						
化学ⅡB		2後	2			2						
生物ⅠA		1前	1		1							
生物ⅠB	1後	1		1								
生物ⅡA	2前	1			1							
生物ⅡB	2後	1			1							

授業科目		学 年	配当年次	単位数		学年別配当					備 考
				必修	選択	1年	2年	3年	4年	5年	
一 般 科 目 (全 コ ー ス 共 通)	第 二 言 語	リーディング・ライティングⅠA	1前	1		1					
		リーディング・ライティングⅠB	1後	1		1					
		リーディング・ライティングⅡA	2前	1			1				
		リーディング・ライティングⅡB	2後	1			1				
		リスニング・スピーキングⅠA	1前	2		2					
		リスニング・スピーキングⅠB	1後	1		1					
		リスニング・スピーキングⅡA	2前	1			1				
		リスニング・スピーキングⅡB	2後	2			2				
		ブリッジングリッシュ	1前	2		2					
		日本語ⅠA	1前	5		5					リーディング・ライティング, リスニング・スピーキング, ブリッジングリッシュに替わる留学生用の科目
		日本語ⅠB	1後	2		2					
		日本語Ⅱ	2前	2			2				
		日本語コミュニケーション	2後	3			3				
		ファンクショナルイングリッシュ	3通	3				3			3年次留学先科目
	総合英語ⅠA	4前	1					1			
	総合英語ⅠB	4後	1					1			
	総合英語ⅡA	5前	1						1		
	総合英語ⅡB	5後	1					(1)	1	別表第1-2参照	
	テクニカルイングリッシュ	3通	4				4			3年次留学先科目	
	テクニカルコミュニケーション	4前		2				2		学修単位	
	海外英語研修	2休		4		4				卒業要件に含めない	
	保 健 体 育 ・ 他	保健体育ⅠA	1前	1		1					
		保健体育ⅠB	1後	1		1					
		保健体育ⅡA	2前	1			1				
		保健体育ⅡB	2後	1			1				
		保健体育ⅢA	4前	1				1			
保健体育ⅢB		4後	1				1				
ビジュアルアーツⅠ		1後		1	1						
ビジュアルアーツⅡ		2前		1		1					
パフォーマンスアーツⅠ	1後		1	1							
パフォーマンスアーツⅡ	2前		1		1						
一 般 科 目 合 計	必修科目修得単位数計			79	—	29	29	13	6	2	
	選択科目開設単位数計			—	19	3	7	0	7	2	
	選択科目修得最低単位数計			—	4	1	1	0	2		
	修得最低単位数合計			83		30	30	13	10		

## 専門科目

授業科目	学 年	配当年次	単位数		学年別配当					備 考	
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	5年		
全 コ ー ス 共 通 専 門 科 目	共 創 科 目	エンジニアリングデザインⅠA	1前	2		2					
		エンジニアリングデザインⅠB	1後	2		2					
		エンジニアリングデザインⅡA	2前	2			2				
		エンジニアリングデザインⅡB	2後	2			2				
		エンジニアリングデザインⅢ	3通	8				8			3年次留学先科目
		エンジニアリングデザインⅣA	4前	2					2		
		エンジニアリングデザインⅣB	4後	2					2		
		エンジニアリングデザインⅤA	5前	2						2	
		エンジニアリングデザインⅤB	5後	2						2	別表第1-2参照
		エンジニアリングコンテキストⅠA	1前	1		1					
		エンジニアリングコンテキストⅠB	1後	1		1					
		エンジニアリングコンテキストⅡA	2前	1			1				
		エンジニアリングコンテキストⅡB	2後	1			1				
		工学基礎実技	3通	3				3			3年次留学先科目
	インターンシップⅠ	4休		1				1			
	インターンシップⅡ	5休		1					1		
	アントレプレナーシップ	4後		1				1			
	I T リ テ ラ シ ー	コンピュータスキルズⅠA	1前	1		1					
		コンピュータスキルズⅠB	1後	1		1					
		コンピュータスキルズⅡA	2前	1			1				
コンピュータスキルズⅡB		2後	1			1					
AⅠ基礎		4後	1					1			
3 年 次 留 学 先 科 目	数理工学	3通	4				4			左記の5つの選択科目から2科目を履修できる。	
	電子工学	3通		4			4				
	工業力学	3通		4			4				
	材料科学	3通		4			4				
	コンピュータ工学基礎	3通		4			4				
	プログラミング基礎	3通		4			4				
必修科目修得単位数計			40	0	8	8	15	5	4		
選択科目開設単位数計			0	31	0	0	20	2	1		

授業科目		学 年	配当年次	単位数		学年別配当					備 考		
				必修	選択	1年	2年	3年	4年	5年			
専門科目・電気電子コース	専門基礎科目	数理工Ⅰ	4前	4				4		学修単位			
		数理工Ⅱ	4後	4				4		学修単位			
		応用数学Ⅰ	4前	2				2		学修単位			
		応用数学Ⅱ	4後	2				2		学修単位			
		制御数学	5前		2					2	学修単位		
		応用物理Ⅰ	5前	2						2	学修単位		
		応用物理Ⅱ	5後	2						2	学修単位		
		応用化学ⅠA	4前		2				2		学修単位		
		応用化学ⅠB	4後		2				2		学修単位		
		応用化学ⅡA	5前		2					2	学修単位		
		応用化学ⅡB	5後		2					2	学修単位		
	スペシャリストフォーカス	電気回路Ⅰ	4前	4				4		学修単位			
		電気回路Ⅱ	4後	2				2		学修単位			
		電気磁気学A	4前	4				4		学修単位			
		電気磁気学B	4後	2				2		学修単位			
		電気製図	4後		1				1				
		電子回路基礎	5前	4					4	学修単位			
		電子回路	5後	2					2	学修単位			
		電気電子材料	5前	2					2	学修単位			
		電気電子機器	5前	2					2	学修単位			
		電気電子計測工学	5後	2					2	学修単位			
		過渡現象	5後		2					2	学修単位		
		物性工学	5後		2					2	学修単位		
		コンピュータアーキテクチャ	4後	2					2	学修単位			
		プログラミングA	5前	2						2			
		プログラミングB	5後		2						2		
		課題学修										単位数は別に定める	
		必修科目修得単位数計				44	0	0	0	0	26	18	
		選択科目開設単位数計				0	17	0	0	0	5	12	

授業科目	学 年	配当年次	単位数		学年別配当					備 考	
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	5年		
専門科目・機械工学コース	専門基礎科目	数理工 I	4 前	4				4		学修単位	
		数理工 II	4 後	4				4		学修単位	
		応用数学 I	4 前	2				2		学修単位	
		応用数学 II	4 後	2				2		学修単位	
		制御数学	5 前		2					2	学修単位
		応用物理 I	5 前	2						2	学修単位
		応用物理 II	5 後	2						2	学修単位
		応用化学 I A	4 前		2				2		学修単位
		応用化学 I B	4 後		2				2		学修単位
		応用化学 II A	5 前		2					2	学修単位
		応用化学 II B	5 後		2					2	学修単位
	スペシャリストフォーカス	応用生物 I	4 前		2				2		学修単位
		機械工作	4 前	2				2		学修単位	
		機械製図	4 前	2				2		学修単位	
		ロボット基礎力学	4 前		2			2		学修単位	
		機械要素設計	4 後		2			2		学修単位	
		熱力学	4 後		2			2		学修単位	
		流体力学	4 後		2			2		学修単位	
		材料力学 I	5 前	2					2	学修単位	
		材料力学 II	5 後	2					2	学修単位	
		計測工学	5 後	2					2	学修単位	
		制御工学	5 後	2					2	学修単位	
		材料工学	5 前		2				2	学修単位	
		熱工学	5 前		2				2	学修単位	
		電子回路基礎	5 後		2				2	学修単位	
		コンピュータアーキテクチャ	4 後	2				2		学修単位	
		プログラミング A	5 前	2					2		
		プログラミング B	5 後		2					2	
		課題学修									単位数は別に定める
		必修科目修得単位計			32	0	0	0	0	18	14
	選択科目開設単位計			0	28	0	0	0	14	14	



授業科目	学 年	配当年次	単位数		学年別配当					備 考
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	5年	
専門基礎科目	数理工Ⅰ	4前	4					4		学修単位
	数理工Ⅱ	4後	4					4		学修単位
	応用数学Ⅰ	4前	2					2		学修単位
	応用数学Ⅱ	4後	2					2		学修単位
	制御数学	5前		2					2	学修単位
	応用物理Ⅰ	5前		2					2	学修単位
	応用物理Ⅱ	5後		2					2	学修単位
	応用化学ⅠA	4前		2				2		学修単位
	応用化学ⅠB	4後		2				2		学修単位
	応用生物Ⅰ	4前		2				2		学修単位
専門科目・情報フロンティアコース スペシャリストフォーカス	情報数学Ⅰ	4前	2					2		学修単位
	情報数学Ⅱ	4後	2					2		学修単位
	情報数学Ⅲ	5前	2						2	学修単位
	コンピュータシステムA	4前	2					2		学修単位
	コンピュータシステムB	4後	2					2		学修単位
	データ構造とアルゴリズム	4前	2					2		学修単位
	ソフトウェア工学	4後	2					2		学修単位
	プログラミング演習A	4前		2				2		学修単位
	プログラミング演習B	4後		2				2		学修単位
	データベース	5前	2						2	学修単位
	ソフトウェア工学演習	5前	2						2	学修単位
	メディア情報	5前		2					2	学修単位
	オペレーティングシステム	5後		2					2	学修単位。 別表第1-2参照
	ネットワークシステム演習	5後		2					2	学修単位。 別表第1-2参照
	ビジネス概論	4前	2					2		学修単位
	企業会計	5前	2						2	学修単位
	ビジネス特論	5後		2					2	学修単位。 別表第1-2参照
	コーオプロジェクト	5後	(8)						(8)	別表第1-2参照
課題学修										単位数は別に定める
必修科目修得単位数計			34	0	0	0	0	26	8	
選択科目開設単位数計			0	24	0	0	0	10	14	

授業科目		学 年	配当年次	単位数		学年別配当					備 考	
				必修	選択	1年	2年	3年	4年	5年		
専門科目・応用化学コース	専門基礎科目	数理工Ⅰ	4前	4				4		学修単位		
		数理工Ⅱ	4後	4				4		学修単位		
		応用数学Ⅰ	4前	2				2		学修単位		
		応用数学Ⅱ	4後	2				2		学修単位		
		制御数学	5前		2					2	学修単位	
		応用化学ⅠA	4前	2				2		学修単位		
		応用化学ⅠB	4後	2				2		学修単位		
		応用化学ⅡA	5前	2					2	学修単位		
		応用化学ⅡB	5後	2					2	学修単位		
		応用生物Ⅰ	4前	2				2		学修単位		
	応用生物Ⅱ	5後	2					2	学修単位			
	スペシャリストフォーカス	化学と安全	4前	2				2		学修単位		
		物質の状態と反応	4前	2				2		学修単位		
		化学工学	4後	2				2		学修単位		
		分析化学	4後	2				2		学修単位		
		エネルギー電気化学	4後		2			2		学修単位		
		応用化学実験・演習A	5前	3					3	学修単位		
		応用化学実験・演習B	5後	3					3	学修単位		
		高分子化学	5後	2					2	学修単位		
		材料工学	5前		2				2	学修単位		
		電気電子材料	5前		2				2	学修単位		
		環境化学	5前		2				2	学修単位		
		物性工学	5後		2				2	学修単位		
		コンピュータアーキテクチャ	4後	2				2		学修単位		
	プログラミングA	5前	2					2				
	プログラミングB	5後		2					2			
	課題学修									単位数は別に定める		
	必修科目修得単位数計				44	0	0	0	0	28	16	
	選択科目開設単位数計				0	14	0	0	0	2	12	

修得最低単位数		学 年	単位数	学年別配当					備 考
				1年	2年	3年	4年	5年	
合 計	一般科目修得最低単位数		8 3	30	30	13	10		
	専門科目修得最低単位数		8 4	8	8	15	53		
	修得最低単位数		1 6 7	38	38	28	63		
	特別活動		○	90 単位時間以上実施					

## 別表第1-2 コーオププロジェクトの履修

情報フロンティアコースの5年次後学期の授業科目の履修は、下表のA欄またはB欄のいずれかを選択することとする。ただし、A欄を選択する場合は、5年次前学期終了時にコーオププロジェクトを除き卒業に必要な単位をすべて修得していなければならない。その場合に、一般科目の総合英語II Bについては5年次前学期に履修し単位を修得すること。

	科目名	単位数		科目区分
		必修	選択	
A欄	コーオププロジェクト	8		専門科目・情報
B欄	エンジニアリングデザインVB	2		専門科目・共創
	オペレーティングシステム		2	専門科目・情報
	ネットワークシステム演習		2	専門科目・情報
	ビジネス概論		2	専門科目・情報

## 別表第2 学校納入金

## 授業料

(単位：円)

	1年	2年	3年	4年	5年
前学期	1,500,000	1,500,000	125,000	800,000	800,000
後学期	1,500,000	1,500,000	125,000	800,000	800,000

# 学習指導に関する実施規程

## (趣旨)

**第1条** この規程は、国際高等専門学校学則（以下「学則」という。）第12条第2項の規定に基づき、国際高等専門学校（以下「本校」という。）における学業成績の評価、進級及び卒業の認定に必要な事項について定めるほか、授業科目の履修、授業科目の出欠等について定める。

## (科目の履修)

**第2条** 学生は学則第9条別表第1教育課程表に基づき、授業科目を履修する。

2 各授業科目とも、当該年度に開講した授業時間数の5分の4以上出席した者は、当該科目の履修を修了したものとする。

## (履修の制限)

**第3条** 1年間に履修することができる授業科目の単位数の上限は、次の各号に掲げる授業科目を除き48単位とする。

- (1) 課題学修
- (2) 校長が認めた科目

## (履修制限の特例)

**第4条** 前条の規定にかかわらず、次の各号に掲げる者は、履修科目の単位数の上限を超えて授業科目を履修することができる。

- (1) 別表第1の学業成績の評価に定めるGPAの累積が3.00以上の者
- (2) 相当な理由により、校長が特に認めた者

## (再履修)

**第5条** 原学年に留められた場合の再履修等の取扱いについては、学則第13条の規定による。

## (欠席等)

**第6条** 欠席等は次の各号に掲げる場合をいう。

- (1) 欠席とは、出席すべき日に登校しない場合
- (2) 欠課とは、各授業時間に不在であった場合
- (3) 遅刻とは、各授業時間の開始に遅れた場合
- (4) 早退とは、各授業時間の途中で退出し、戻らない場合

## (公認欠席等の取扱い)

**第7条** 前条に定める欠席等が、次の各号に掲げるいずれかの理由によるものであるときは、出席として取り扱う。

- (1) 天災又は交通機関の事故等、本人の責任によらないことが明らかなきとき。
  - (2) 校長が認めた資格試験又は就職試験を受験するとき。
  - (3) 校長が認めた対外試合、対外行事に参加するとき。
  - (4) 忌引のとき。
  - (5) 親族の慶弔事に出席するとき。
  - (6) 学校保健安全法に定める伝染病又はそれに類する病気の発症等により、校長が出席停止の必要を認めたとき。
  - (7) その他校長が認めたとき。
- 2 前項第4号に定める忌引により出席として取り扱うことができる日数は、次のとおりとする。
- (1) 父母 7日
  - (2) 祖父母、兄弟、姉妹 3日
  - (3) 曾祖父母、伯父、伯母、叔父、叔母、従兄弟、従姉妹 1日
  - (4) その他校長が特に認めたもの 1日

3 第1項第5号に定める親族の慶弔事により出席として取り扱うことができる日数は、次のとおりとする。

- (1) 兄弟、姉妹の結婚式 1日
- (2) 父母、兄弟、姉妹の慶弔事で校長が特に認めたもの 1日

4 第1項第1号から第3号、第6号及び、第7号により出席として取り扱うことができる授業科目の時間数又は日数は、その都度校長が定める。

## (試験の種別と実施)

**第8条** 試験の種別は、定期試験、追試験、再試験、単位追認試験及びその他の試験とし、その実施は次の各号に定めるところによる。

- (1) 定期試験は、各学期末に行う。
- (2) 追試験は、やむを得ない理由により定期試験を受けることができなかった者について行うことができる。
- (3) 再試験は、定期試験を実施した授業科目の評点が不合格であった者について行うことができる。
- (4) 単位追認試験は、進級が認められた者のうち、当該学年までに取得すべき授業科目の単位を取得できなかった者について行うことができる。
- (5) その他の試験は、科目担当者が必要と認めた場合に適宜行うものとする。

## (試験の欠席)

**第9条** 正当な理由なく定期試験を欠席した者、又は懲戒処分のため定期試験を欠席した者については、当該授業科目の試験の成績を0点とする。

## (不正行為の取扱い)

**第10条** 定期試験において不正行為を行った者については、当該試験期間に行われるすべての授業科目の試験の成績を0点とする。

2 不正行為により試験の成績を0点とした者には、追試験、再試験等の試験は実施しない。

## (成績の判定方法)

**第11条** 各授業科目の成績は、試験の成績、平素の学習状況、出席状況等を勘案して、学習支援計画書の評価方法に則り、総合的に判定する。

2 試験以外の方法によって成績を評価し得る授業科目については、前項の規定にかかわらず、試験を行わない場合がある。

## (成績評価)

**第12条** 各授業科目の成績は、前条の判定結果に基づき点数化し、100点を満点とする評点により評価する。

- 2 授業科目の成績は、当該年度に開講した授業時間数の5分の4以上出席している者について評価するものとする。出席が5分の4に満たない者は出席不良とし、評点を0点とする。
- 3 追試験により再評価する授業科目の評点は、元の定期試験の評価に準ずるものとする。
- 4 再試験による再評価で合格とする授業科目の評点は、前条の規定にかかわらず、第3学年は50点、その他の学年は60点とする。
- 5 単位追認試験等により、前年度以前に履修し未修得であった単位を取得した場合の当該授業科目の評点は、前条の規定にかかわらず、第3学年は50点、その他の学年は60点とする。

**(成績の評定)**

**第13条** 各授業科目の成績の評定は、別表第1の1及び別表第1の2の学業成績の評価によるものとする。

**(単位修得の認定)**

**第14条** 第12条の規定による成績の評点が第3学年は50点以上、その他の学年は60点以上の場合、当該授業科目の単位を修得したものと認定する。

2 前項の基準に満たなかった授業科目においては未修得科目とし、当該授業科目の単位を翌年度以降に修得した場合には、原学年において履修したものとして取り扱う。

3 出席不良のため未修得となった授業科目の単位の修得には、不足授業数の補講を受講しなければならない。

**(成績への異議申し立て)**

**第15条** 定期試験終了後、学生は科目担当教員に成績を問い合わせ、通知された成績の内容に疑義がある場合、科目担当教員に異議を申し立てることができる。

2 前項の異議申し立ての期間は、年度ごとに学務会議の議を経て、決定する。

**(進級又は卒業の要件)**

**第16条** 校長は、次の各号のすべてを満たす者について、進級又は卒業を認め、当該学年の修了を認定することができる。

- (1) 進級又は卒業の要件となるすべての授業科目の単位が認定されていること。
- (2) 平成29年度以前入学生にあつては、当該学年の特別活動の単位が認定されていること。
- (3) 平成30年度以降入学生にあつては、卒業までに特別活動に90時間以上参加していること。
- (4) 当該学年における欠席日数が、出席すべき日数の5分の1未満であること。

**(進級の特例)**

**第17条** 校長は、前条第1号に規定する要件のみを満たすことができなかった者のうち、次の各号すべての要件を満たす者に限り、進級を認め、当該学年の修了を認定することができる。

- (1) 第1学年から第4学年にあつては、別表第2の1及び別表第2の2の当該学年修了に必須となる授業科目の単位が認定されていること。
- (2) 第1学年から第4学年にあつては、修得単位数が、別表第3の1及び別表第3の2の進級に必須となる累積単位数を満たしていること。
- (3) 第4学年にあつては、第1学年から第3学年までの必修科目の単位がすべて認定されていること。

2 省略

**(在学制限)**

**第18条** 同一学年に2年を超えて在学することはできない。ただし、休学による場合は、この限りでない。

**(進級又は卒業の認定)**

**第19条** 進級又は卒業の認定は、学務会議の議を経て、校長が行う。

**附 則**

1 本実施規程に必要な内規は、別に定める。

(中略)

11 この規程は、令和2年4月1日から改正施行する。

12 この規程は、令和2年12月1日から改正施行する。

**別表第1の1 学業成績の評価 第1・2・4・5学年**  
 (第13条関係)

評 点	評 定	評価ポイント
90～100	S (秀)	4
80～ 89	A (優)	3
70～ 79	B (良)	2
60～ 69	C (可)	1
0～ 59	D (成績不可)	0
0	F (出席不良)	0

$$GPA = \frac{(\text{評価ポイント} \times \text{単位数}) \text{の総和}}{\text{履修科目の総単位数}}$$

GPA (Grade Point Average) とは、個々の科目の成績評価に基づき、全履修科目における1単位当たりの成績評価の平均値を表すものである。GPAによる成績評価は、今後の修学指導における基礎資料とするばかりでなく、就職指導や大学への進学指導(大学への編入学推薦出願資格)における基礎資料とする。なお、GPAは、計算結果の小数点以下3桁目を四捨五入し、小数点以下2桁までとする。

**別表第1の2 学業成績の評価 第3学年**  
 (第13条関係)

評 点	評 定	評価ポイント
90～100	S (秀)	4
80～ 89	A (優)	3
65～ 79	B (良)	2
50～ 64	C (可)	1
0～ 49	D (成績不可)	0
0	F (出席不良)	0

$$GPA = \frac{(\text{評価ポイント} \times \text{単位数}) \text{の総和}}{\text{履修科目の総単位数}}$$

GPA (Grade Point Average) とは、個々の科目の成績評価に基づき、全履修科目における1単位当たりの成績評価の平均値を表すものである。GPAによる成績評価は、今後の修学指導における基礎資料とするばかりでなく、就職指導や大学への進学指導(大学への編入学推薦出願資格)における基礎資料とする。なお、GPAは、計算結果の小数点以下3桁目を四捨五入し、小数点以下2桁までとする。

# 学生心得

## 別表第2の1 当該学年修了に必須となる授業科目 (第17条関係)

学科		国際理工学科
科目	1年	エンジニアリングデザインⅠA及びⅠB
	2年	エンジニアリングデザインⅡA及びⅡB

## 別表第2の2 省略

## 別表第3の1 進級又は卒業に必須となる累積単位数 (平成30年度から令和元年度入学生適用、第17条関係)

学年	学科	国際理工学科
1年		26 (38)
2年		72 (76)
3年		96 (104)
4年		135 (143 <sup>※</sup> )
5年		167 (167)

注1) ( )は修得最低単位数合計

注2) 累積単位数には「海外英語研修」及び「課題学修」の単位数を含めない。

※標準となる修得単位数を表示

## 別表第3の2 進級又は卒業に必須となる累積単位数 (令和2年度以降入学生適用、第17条関係)

学年	学科	国際理工学科
1年		26 (38)
2年		74 (76)
3年		96 (104)
4年		135 (143 <sup>※</sup> )
5年		167 (167)

注1) ( )は修得最低単位数合計

注2) 累積単位数には「海外英語研修」及び「課題学修」の単位数を含めない。

注3) 2学年にあつては、1、2学年の卒業の要件となる授業科目76単位の内、2学年の必修科目2単位分を除く74単位が認定されていること。

※標準となる修得単位数を表示

## 別表第3の3 省略

## 第1章 総則

**第1条** この心得は、国際高等専門学校学則並びに行動規範「KIT IDEALS」に基づき、学生が守るべき事項等について定めるものである。

## 第2章 言語及び態度

**第2条** 学生は、徳性を涵養し、知性を錬磨し、良識ある行動をとり、修学目標とするグローバルリーダーとなるべく努めなければならない。

**第3条** 学生は、国際高等専門学校（以下「本校」という。）の学生としての品位と誇りをもって行動しなければならない。

**第4条** 学生は、礼儀をわきまえ、互いに人格を尊重し、助け合い、親しみ合わなければならない。

**第5条** 学生は、言語と動作はその人間を表すことをわきまえ、常に謙虚に振る舞い、正しい言葉遣いを身につけなければならない。

## 第3章 服装及び所持品

**第6条** 学生は、本校学生としての品位を損なわぬ服装を着用することを心がけなければならない。

2 教員が服装を指定する場合は、それに従わなければならない。

**第7条** 学生は、学生証を常に所持しなければならない。

## 第4章 諸届願

**第8条** 学生は、欠席、欠課、遅刻又は早退をするとき、その届け出をしなければならない。

**第9条** 学生は、校外で行われる競技会、文化関係行事、その他会合等に参加するときは、順次、クラブ顧問及び学生主事の承認を経て、校長の許可を得なければならない。

**第10条** アルバイトをするときは、保護者の同意を得なければならない。

2 学生が、学校が指定する地域連携活動に参加するときは、クラス担任の承認を経て、校長の許可を得なければならない。

**第11条** 改姓、改名、その他学生の戸籍上の身分が異動したときは、住民票記載事項証明書を添えて、事務局に届け出なければならない。

**第12条** 学生の住所が変更になったときは、直ちに事務局に届け出なければならない。

**第13条** 学生は、自身の保護者等に変更があったときは、速やかに事務局に届け出なければならない。

## 第5章 生活態度

**第14条** 学生は、日常生活においては別に定める国際高等専門学校生活規程を守らなければならない。

**第15条** 学生は、校外においては本校学生としての品位を保つよう行動しなければならない。

**第16条** 学生は、校地、校舎、教室、実験室、体育館及び寮棟等の美化清掃に積極的に協力しなければならない。

**第17条** 学生は、設備備品等の取扱いや整理整頓に十分配慮をなし、その異状を発見したときは、速やかに教職員に申し出なければならない。

**第18条** 学生は、災害が起こったときは、慌てず、騒がず、自らの命を最優先に行動しなければならない。

# 生活規程

## 附 則

- 1 この心得は昭和37年4月1日より施行する。  
(中略)
- 8 この学生心得は令和2年4月1日から改正施行する。
- 9 この学生心得は令和4年4月1日から改正施行する。

## 第1章 総則

- 第1条** この生活規程は、国際高等専門学校学生心得に基づき、学校生活において学生が守るべき事項について定めるものである。
- 第2条** 学生は、規則正しい生活をし、日ごろから健康管理に努め、欠席、欠課、遅刻、早退をしない。

## 第2章 交通

- 第3条** 1、2年生は、原動機付自転車(50cc以下のモーターバイク)及び自動二輪車の運転免許は取得してはならない。
- 第4条** 原動機付自転車及び自動二輪車で通学する者は、校長の許可を受けなければならない。
- 2 通学に自転車、原動機付自転車及び自動二輪車を使用する場合は、任意保険に加入していなければならない。
- 第5条** 原動機付自転車及び自動二輪車による通学者は、次のことを守らなければならない。
- (1) 道路交通法を遵守し、事故に遭わない運転を心がけること。
  - (2) ヘルメット(フルフェイス型に限る。)を運転時には常に着用すること。
- 第6条** 原動機付自転車又は自動二輪車での通学が認められた者であっても、法令違反又は整備不良が判明した場合は、その者の原動機付自転車及び自動二輪車での通学許可を取り消す。
- 第7条** 自動車による通学はしてはならない。

## 第3章 その他

- 第8条** アルバイトを行う場合は、保護者の同意を得なければならない。
- 2 国際理工学科の学生に対し、学校が指定する地域連携活動に参加したことにより支払われる報酬については、保護者の同意と、校長の許可を得た上で学生本人が受け取ることができる。
- 第9条** 学生は、国際高等専門学校の誇り得る学生となるために、次の各号を遵守しなければならない。
- (1) 校内の美化や清掃に協力し、ゴミは所定のゴミ箱に捨てること。
  - (2) 物を大切に扱い、貴重品は十分に管理して盗難、紛失を避けること。
  - (3) 放課後、教室及びロッカー内には教科書等を置かないこと。
  - (4) 学生として相応しくない場所に入出入りしないこと。
- 第10条** その他、学校生活において学生が守るべき事項の細部については教職員の指導に従わなければならない。

## 附 則

- 1 この生活規程は昭和41年4月1日から施行する。  
(中略)
- 10 この生活規程は令和2年4月1日から改正施行する。
- 11 この生活規程は令和4年4月1日から改正施行する。

# 学生寮規程

## 第1章 総則

### (趣旨)

**第1条** この規程は、国際高等専門学校（以下「本校」という。）の白山麓キャンパス学生寮（以下「学生寮」という。）の管理運営等について必要な事項を定め、もって学生寮の円滑かつ適正な運用を図るとともに、次条の目的を達成するために定める。

### (学生寮の目的)

**第2条** 学生寮は、国際高等専門学校学則第48条に基づき設置する本校の教育施設であって、学生に対して学校生活への適応を促進するとともに、共同生活を営むことにより友情、互助、寛容等の精神を養い、人間的成長を助長することを目的とする。

## 第2章 学生寮の管理運営

### (管理運営責任者)

**第3条** 学生寮の管理運営責任者は、国際高等専門学校校長（以下「校長」という。）とする。ただし、施設部の所掌に係る事項は除く。

2 校長は、管理運営責任者の職務を学生主事に行わせることができる。

### (管理運営実施者)

**第4条** 学生寮の日常的な管理運営の実施に当たるため、管理運営責任者の統括のもとに管理運営実施者を置く。

2 管理運営実施者は、白山麓高専事務室長をもって充てる。

### (学生寮委員会)

**第5条** 学生寮の管理運営を含む全般的事項を審議するため、本校に国際高等専門学校学生寮委員会（以下「学生寮委員会」という。）を置く。

2 学生寮委員会は、次に掲げる者を委員として構成する。

校長、副校長、学生主事、高専事務局長、白山麓高専事務室長、施設部部長、安全衛生委員会委員長

3 学生寮委員会の委員長は、校長とする。

4 学生寮委員会は、委員長が必要に応じて随時に招集する。

5 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を学生寮委員会に招請し、意見を聴くことができる。

### (教職員の配置)

**第6条** 学生寮の管理運営、学生の教育及び生活指導等を行うため、学生寮に次の各号に掲げる業務を担当する教職員のほか、必要に応じその他の教職員を配置する。

(1) ラーニング・メンター（LM）は、学生寮における学生の夜間学習指導を担当する。

(2) レジデント・アドバイザー（RA）は、学生寮における学生の生活指導を担当する。

## 第3章 学生寮生活

### (入寮)

**第7条** 本校の1年次学生及び2年次学生（以下「寮生」という。）は、学生寮に入寮しなければならない。

2 入寮に当たっては、定められた期限までに、指定された書類を校長に提出しなければならない。

3 校長は、入寮を許可した者が前項の手続きを完了しないとき、又は虚偽の記載が判明したときは、入寮許可を取り消すことができる。

### (順守義務)

**第8条** 入寮した1年次学生及び2年次学生は、本校が定める諸規則、学生寮利用の手引き、寮生心得等を順守するほか、教職員の指示に基づき行動しなければならない。

### (退寮)

**第9条** 校長は、寮生が次に掲げる各号の一に該当したときは、当該寮生に対し一次的な又は完全な退寮を命ずることができる。

(1) 国際高等専門学校学則、その他本校が定める諸規則に違反したとき。

(2) 疾病その他の事由により保健衛生上、共同生活に適しないと認めるとき。

(3) 休学を許可されたとき、又は退学（除籍を含む。）若しくは停学を命ぜられたとき。

(4) 共同生活の秩序又は風紀を乱す行為があったとき。

(5) その他学生寮の管理運営上、著しく支障をきたす行為があったとき。

2 退寮に当たっては、居室を原状復帰し、レジデント・アドバイザーの検認を受けなければならない。

### (学生寮における教育)

**第10条** 寮生は、在学期間中、学生寮においても教育を受けるものとする。

### (授業期間外の諸経費)

**第11条** 授業期間外においても学生寮に在寮するときは、食費その他生活に必要な経費は、寮生の負担とする。

2 寮生は、授業期間外の諸経費について、本校が定める額を本校が指定する方法で所定の期日までに納めなければならない。

### (ユニット・リーダー)

**第12条** 学生寮には、寮生から選考したユニット・リーダー（UL）を置く。

2 ユニット・リーダーはレジデント・アドバイザーを補佐する。

3 ユニット・リーダーの選考、任期等については別に定める。

### (集会等)

**第13条** 寮生が学生寮内又は学生寮外において集会・催し物等（以下「集会等」という。）を行おうとするときは、レジデント・アドバイザーの許可を受けなければならない。

2 集会等責任者は、集会等終了後速やかにレジデント・アドバイザーに経過を報告しなければならない。

3 集会等の内容が本校の教育方針に反する場合、又は一般的な社会通念に反すると思われる等の場合は、レジデント・アドバイザーは集会等を中止させることができる。

### (掲示物)

**第14条** 寮生が学生寮内に掲示物を掲示しようとするときは、レジデント・アドバイザーの許可を受けなければならない。

2 掲示の場所、期間、様式等については、レジデント・アドバイザーの指示に従わなければならない。

3 掲示責任者は、掲示期間満了後速やかに掲示物を撤去しなければならない。

4 寮生以外の者が学生寮内に掲示物の掲示を希望するときは、レジデント・アドバイザーの許可を受け、その指示に従わなければならない。



**(施設等の保全)**

- 第15条** 寮生は、居室、ユニット、共同施設その他学生寮の施設、設備及び備品を常に正常な状態に保全するよう努めなければならない。
- 2 寮生は、故意又は過失により施設、設備及び備品を減失、破損又は汚染したときは、その原状回復を図り、又は原状回復に要する経費を弁済しなければならない。

**(所持品)**

- 第16条** 寮生は、定められたもの以外のものを学生寮に持ち込んで서는ならない。
- 2 寮生は、所持品の自己管理を徹底しなければならない。

**(盗難・事故)**

- 第17条** 寮生は、盗難その他事故の発生防止に努めなければならない。
- 2 寮生は、盗難その他事故の発生を知ったときは、速やかにレジデント・アドバイザーに通報しなければならない。

**(災害防止)**

- 第18条** 寮生は、火災その他の災害防止について、常に細心の注意を払わなければならない。
- 2 寮生は、本校が行う防火訓練、その他の災害防止対策に積極的に参加しなければならない。

**(健康の維持・増進)**

- 第19条** 寮生は、自身の健康の維持・増進を図るよう努めなければならない。
- 2 校長は、必要があると認めるときは、寮生に対する健康診断又は予防接種を実施するものとする。

**(環境整備)**

- 第20条** 寮生は、学生寮内外の清掃を実施し、清潔整頓を旨として、快適な環境の保持に努めなければならない。

**(生活区域)**

- 第21条** 寮生は、相互に異性の学生寮生活区域に立ち入ってはならない。
- 2 寮生が、前項に掲げる区域に立ち入る必要が生じたときは、レジデント・アドバイザーに申し出て、その指示に従わなければならない。

**(居室立入)**

- 第22条** 教職員は、学生指導又は管理運営上の必要があるとき、又は緊急やむを得ないとき等の場合は、寮生の居室に入室することができる。

**(閉寮)**

- 第23条** 校長は、夏期休業、冬期休業等の長期休業期間に学生寮を閉寮する期間を設けることができる。
- 2 寮生は、校長が許可したときを除いて、閉寮期間中は学生寮に立ち入ることができない。

**第4章 雑則****(寮外者の立入)**

- 第24条** 寮生との面会、施設の見学等のため学生寮内への立ち入りを希望する者は、レジデント・アドバイザーの許可を受け、その指示に従わなければならない。

**(寮外者による施設等の利用)**

- 第25条** 寮生以外の者が、学生寮の施設、設備及び備品の利用を希望するときは、校長の許可を受け、レジデント・アドバイザーの指示に従わなければならない。

**(事務担当)**

- 第26条** 学生寮に関する事務は、白山麓高専事務室が担当する。

**(その他の事項)**

- 第27条** この規程に定めるもののほか、学生寮に関し必要な事項は、別に定める。

**附 則**

- 1 この規程は、平成30年4月1日から施行する。

# 学生寮・施設利用の手引き

## I 学生寮運営の基本方針

本校では、以下の基本方針のもと人間形成の場（教育寮）として学生寮を運営します。

### 1. 学生寮とは

本校の学生寮は教育寮であり、「学園共同体が共有するKIT IDEALS」を行動規範とし、様々な価値観を持つ人々を尊重し互いの成長と学びを支え合う教育施設です。

学生寮は、「Antares」「Regulus」「Aldebaran」「Fomalhaut」の4棟で構成されており、男女は棟により分けられています。棟の名称となっている4つの星は、幸運を呼ぶ星“ロイヤルスター”と呼ばれており、方角・位置を表しています。学生生活を送る学生達には白山麓の夜空を楽しみ、自身も輝いて欲しいという願いが込められています。

### 2. 学生寮の運営体制

寮生の安全確保と規律ある生活維持に向け、教職員や警備員を配置しています。各寮の玄関には、防犯カメラの他、カード認証による防犯装置を設置し、寮生の安全に配慮しています。警備員はキャンパス内を24時間見回り、警備します。指導または管理上必要な場合、教職員、警備員が居室に立入る場合があります。また、学生寮での生活を安全・安心・快適に過ごすため、寮生自らが寮の運営に携わります。

#### 【レジデント・アドバイザー（RA）の役割について】

RAは学生主事と綿密な連携のもと、寮生の生活指導、支援、アドバイスを行います。日常生活を安全に送るうえで寮生からの様々な活動報告を受ける窓口となりますので、分からないことや困ったことがあれば、相談してください。

### 3. 寮での生活指導等

規律ある生活習慣を身につけ、自主・自立及び自律の精神を培うことを指導方針とします。また、多様な価値観、文化の中で、互いの役割と自分の役割を認識し、主体的に行動できるようガイダンスや生活指導を必要に応じて行います。また、主体的な生活態度を育成するため、寮行事の創造・活性化を通して全ての寮生の自律・責任意識の向上を図ります。

### 4. 寮則違反等の対応

本校の規則、学生寮規程、この手引き等に従えない寮生で、指導等によって改善が見込まれない場合は退学等の処分を行います。

## II 学生寮での生活

寮室内のリビングを共有する個室で形成される空間をユニットと呼びます。ユニット・メンバー（UM）の中から1名のユニット・リーダー（UL）を決め、ULはUMの安全・安心・快適な生活の確保に努めます。

### 1. 学生生活の日課

#### (1) Roll Call（点呼）

寮生の所在と安全確認のため、寮生は定められた時間および場所にてルールに則りRoll Call（点呼）を行います。状況に応じて、検温する場合があります。

#### (2) 食事

レストラン「Golden Eagle Cafeteria」にて、定められた時間内に食事をしてください。時間を過ぎると食事を提供できない場合があります。なお、食事の時間や形態は、学校行事等により変更する場合があります。

朝食（平日：7:30～8:30、土曜・日曜・祝日：8:00～9:00）

昼食（平日：11:50～12:40、土曜・日曜・祝日：12:00～13:00）

夕食（18:30～19:30）

#### (3) KIOSK 利用時間（食事時間と同じ）

「Golden Eagle Cafeteria」横の「KIOSK」では、簡易な生活日用品や文房具などを購入することができます。

#### (4) ラーニングセッション（19:30～21:30）

ラーニングセッションの時間は、全員が必修とするアクティブラーニングの時間です。あらかじめ指定された時間・場所に集まり、当日の振り返り、翌日以降の学習準備のほか、チーム学習などを行います。LMが必要に応じてサポートします。確実な学習の定着、能力獲得に向け、有効に利用してください。

#### (5) シャワー・入浴

各ユニット内にシャワールームが設置されています。UMの迷惑にならないよう、消灯までに済ませてください。

入浴を希望する場合は、キャンパス内にある天然温泉「はくさん比咩の湯温泉」を無料で利用することができます。受付で学生証を提示し、施設の利用規定を守り利用してください。

#### (6) 消灯と就寝

自室以外は23:00消灯です。消灯後も勉強を続けたい場合は、各自の居室で行ってください。睡眠は健康上とても重要であることから、翌日に影響が出ないように心掛けるとともに、UMの就寝を妨げないようにしてください。

#### (7) 外出・外出延長・外泊

帰寮時間は19:30を厳守してください。定められた範囲を超える場所への外出や、帰寮時間を超えての外出のほか、寮を離れ外泊する場合は、所定の手続きを行い学校の許可を受けなければいけません。急なトラブルで帰寮できない場合には、必ず白山麓キャンパスへ連絡し、事情を説明してください。

#### (8) 清掃

自室はもちろん、ユニット内の共有スペースや、洗面所・脱衣所、トイレ、その他共有キッチンやランドリールームなど、寮生が利用するスペースは寮生自身で清掃するとともに、整理・整頓のうえ、清潔に使用しなければなりません。

#### (9) 当番

学生寮では寮生が種々の役割を分担します。寮生活の円滑な進行をするために係りを設け、当番制で役割を担います。

#### (10) 寮関連の諸行事

寮生が主体となり、催し物を計画・実行することができます。実施するには、内容・詳細をもとにRAの許可を得てください。

## 2. 寮への持込品

- (1) 個人の持込品は、各自の物であることが分かるようにしておいてください。
- (2) 集団生活の場であることを考えて、大型のものや他人の迷惑になるもの、設置や取り付けに工事が必要となるもの、高価なもの、生活家電製品のほか、発熱・火災の心配のあるものなどは持ち込まないでください。また、自動二輪、原動機付自転車も持ち込みできません。持ち込み不可と判断されたものは、各自で自宅などへ送るか、処分するなど、費用が発生する場合がありますので、持込可否の不明な物品については、必ず事前に白山麓高専事務室へ確認してください。

### 【持込禁止品（例）】

- ① 原動機付自転車及び自動二輪車。
  - ② 家電製品（テレビ、冷蔵庫、洗濯機、大型のオーディオ製品）。
  - ③ 熱を発生する家電製品（炊飯器、オーブントースター、電気ポット、コーヒーマーカー、コタツ、ストーブ、足温器、電気毛布、布団乾燥機、アイロン等）。
  - ④ ナイフ等の人に危害を加える恐れのあるもの。
  - ⑤ ガソリン、シンナー等の引火性のある薬品類、お香や花火など。
  - ⑥ その他上記以外に、周囲の人、施設・設備等に災害・危険が生じると判断されるもの。
- (3) 現金

現金等は、紛失事故等を未然に防ぐために、現金は必要などときに必要最小限の金額を最寄りの郵便局等のATMで引出し、自己管理を徹底してください。

尾口郵便局 石川県白山市瀬戸申27-1

※銀行ATMは、近隣にはありません。

### (4) 貴重品の管理

財布や保険証などの貴重品は、施錠できる引き出しに入れ、必ず施錠して保管してください。また、自室を離れる場合は必ず施錠を行うなど、各自で管理してください。

## 3. 宅配便について

学生寮に届いた荷物は、掲示または個別に連絡しますので、本人が事務室に申し出て受け取ってください。なお、代引き、着払い等、受け取りの際に料金の支払いが発生するものは原則として取り扱いません。

## 4. 病気・ケガ等の緊急時について

病気、ケガなどの場合は、RA・警備室に連絡してください。医療機関にかかる場合には保険証が必要になります。

## III 寮の施設・設備とその利用法

### 1. 居室の使用について

自室内のワードローブやベッドの配置を変えないでください。備え付けの物品は大切に使用し、万一破損や、汚損、紛失したときは直ちにRAに報告してください。

前学期と後学期の部屋替えや退寮時には自室を元の状態に戻してください。

入居時に、自室の破損・汚損状況を確認し、破損・汚損箇所があれば、速やかにRAに申し出てください。

自室には本人以外を宿泊させることはできません。また、寮生であっても、23:00以降に他の居室やユニットへの出入りはできません。

自室の鍵は、本人のみが所有し、各自で管理するとともに、紛失した場合は速やかにRAに申し出てください。また、鍵の複製も禁止です。

### 2. インターネットの利用について

寮内ではインターネットの利用ができます。利用に際しては、情報倫理に関する学習「INFOSS」を受講し合格する必要があります。関連する法律、ルール、マナーを守り利用してください。

他の利用者へ迷惑となる利用や、ルールを守れない場合は、インターネットの利用制限や利用禁止の対象となります。なお、ネットワークセキュリティ確保のため、インターネット接続には制限があります。

### 3. 寮生活での共同設備等の利用について

#### (1) 共用ホール、共用キッチン

寮生は、各棟各階のコミュニケーションスペースに設置された、テレビ、テーブル、椅子、調理コーナーを利用することができます。

#### (2) ランドリールーム

各棟には洗濯機と乾燥機が設置されています。洗濯物の放置は他の利用者の迷惑になるので、洗濯が済んだ後は速やかに引き上げてください。

#### (3) 靴箱

靴箱は各ユニット玄関にあります。ユニット内は土足禁止となっているので、室内用のスリッパに必ず履き替えてください。

#### (4) ごみ庫

「Regulus」棟1階に設置されています。ごみは、指定の分別方法に従い各自で出してください。粗大ごみを処分する場合は、RAに申し出てください。

#### (5) リネン庫

「Regulus」棟1階に設置されています。シーツ類は毎週月曜日に回収します。毎週末に各自で交換してください。

#### (6) 自転車置場

「Regulus」棟1階に自転車置き場があり、貸出用自転車があります。利用後は必ず施錠し返却してください。

#### (7) 保健室

保健室は、イノベーションハブの1階にあります。看護師の在室時間は平日7:00～18:30、土曜8:30～13:00です。

#### (8) カウンセリングセンター高専分室

イノベーションハブ1階の保健室隣にカウンセリングルームがあります。

# 学生会会則

## (9) ボルダリングウォール

ボルダリングウォールは、イノベーションハブ1階にあります。利用案内をよく読んで安全に利用してください。

## (10) 各施設の利用時間について

校舎棟及び体育館の利用時間は6:00~22:30です。校舎棟・寮棟及び体育館への入退館には学生証によるカード認証が必要です。ただし、セキュリティ上カード認証されない時間帯もあります。学生証を持参していない場合や、カード認証時間外により通行できなくなった場合は、イノベーションハブ1階警備室へ申し出てください。

## 4. 閉寮期間について

夏期休業期間、冬期休業期間などの長期休業期間に閉寮期間が設定されます。閉寮期間は学生寮への立ち入りができません。

## IV 費用について

### 1. 授業料に含まれる寮生活に関する費用等について

- ・授業期間中における学生の居住費
- ・授業期間中における学生の食費
- ・学生が寮生活を送るうえで必要となる電気、水道などの光熱費

### 2. その他、別途必要となる費用等について

#### (1) 休業期間中の食費

休業期間中の食事は有料です。所定の期日までに、事前に申請をしてください。詳細については、別途ご連絡いたします。

#### (2) 保護者が来訪した際の食事について

保護者が来訪した際に、食事が必要となる場合は、有料にて準備することが可能です。1週間以上前にお問合せください。

#### (3) 欠食（食事をとらなかった場合）について

授業期間中の欠食は、返金しません。ただし、休業期間中の申請済み食事については、所定の日までに欠食を届け出た場合に限り、返金対応をします。

## (名称)

**第1条** 本会は国際高等専門学校学生会と称する。

## (目的)

**第2条** 本会は国際高等専門学校（以下「本校」という。）の指導のもとに本校の学生が自発的な活動を行い、それを通して自治的精神の向上を図り、人格を陶冶し、高等専門教育の目的達成に資することを目的とする。

## (構成)

**第3条** 本会は、本校の全学生（以下「会員」という。）をもって構成する。

## (役員)

**第4条** 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名 第4学年又は第5学年
- (2) 副会長 2名 第4学年又は第5学年から1名、及び第1学年又は第2学年から1名
- (3) 書記 1名 第4学年又は第5学年
- (4) 会計 2名 第4学年又は第5学年から1名、及び第1学年又は第2学年から1名
- (5) 監査委員 2名 第4学年及び第5学年から各1名

## (役員を選出)

**第5条** 役員は、会員による選挙により選出する。

- 2 役員は、立候補した会員（以下「立候補者」という。）の中から選出する。
- 3 立候補者が1名の場合は、信任投票を行う。
- 4 立候補者がいない場合、又は前項に基づく信任投票の結果立候補者が信任されなかったときは、役員は学級委員から信任投票により選出する。
- 5 前項に基づき学級委員が役員に選出されたときは、当該役員は学級委員を辞任しなければならない。

## (役員任期)

**第6条** 役員任期は、4月1日から翌年3月31日までの1年とする。ただし、補充された役員任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 役員は、任期満了後も次期役員が就任するまでは、なおその職務を続けなければならない。

## (役員解任と退任)

**第7条** 役員（監査委員を除く。）は、第10条に定める学生会議会の総議員（欠員を含む。以下同じ。）の3分の2以上の議決により解任することができる。

- 2 役員（監査委員を含む。）は、病気その他の理由により職務を遂行できなくなったときは、退任しなければならない。
- 3 役員に欠員が生じた場合は、2週間以内に学級委員から選出するものとする。

## (役員職務)

**第8条** 役員職務は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、会務を総理する。ただし、会務を総理するに当たっては、学生主事の指導承認を受けなければならない。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
- (3) 書記は、本会の記録書類の整備保管及び庶務的事務を行い、学生会議会の書記を兼任する。

- (4) 会計は、本会の会計に関する事務を行い、学生主事の指導のもとに本会の財務管理に当たり、出納については本校の事務局長に委任する。
- (5) 監査委員は、本会の会計及び部室の管理状況、設備、備品の監査を行う。

#### (選挙管理委員会)

**第9条** 本会に、役員選挙の管理に当たる選挙管理委員会を置く。

- 2 選挙管理委員会は、各学級（留学中の第3学年を除く。）から選出する2名の委員をもって組織する。
- 3 選挙管理委員会には、委員の互選により選出する委員長1名、副委員長1名を置く。

#### (学生会議会)

**第10条** 本会に、最高議決機関として学生会議会（以下「議会」という。）を置く。

- 2 議会は、役員、各学級から選出された学級委員2名及び第17条第5項に定める専門委員会の委員長をもって議員とし、これを組織する。ただし、第3学年が留学中であるときは、当該第3学年の学級委員は除く。
- 3 議会の議決権は議員のみが有する。
- 4 学級委員が専門委員会委員長を兼務する場合は、専門委員会委員長としての議決権を有しない。
- 5 議員は、議会を欠席する場合は、委任状を提出しなければならない。
- 6 議会は、総議員の3分の2以上の出席により成立する。
- 7 議会の議事は、出席議員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長がこれを決する。
- 8 議員は、議会で行った演説、討論又は表決について議会外で責任を問われない。
- 9 第18条第2項に定めるクラブの代表は、必要に応じて議会に出席し、発言することができる。

#### (議員の任期)

**第11条** 議員の任期は4月1日から翌年3月31日までの1年とする。

#### (議会の開会)

**第12条** 議会は、定例議会と臨時議会とし、会長が招集する。

- 2 会長は、議会の招集日時、場所、議題、その他必要な事項を議会開会の3日以前に公示しなければならない。ただし、臨時議会の場合はこの限りでない。
- 3 定例議会は、毎年5月及び11月に開会する。

#### (臨時議会の開会)

**第13条** 臨時議会は、次のいずれかの場合に開会しなければならない。

- (1) 第16条に定める執行委員会が開会の必要を認めたとき。
- (2) 総議員の3分の2以上から開会要求があったとき。

#### (議長)

**第14条** 議会の議長は、定例議会ごとに出席議員の互選により選出する。

- 2 議長は副議長を指名しなければならない。

#### (議長及び副議長の任期)

**第15条** 議長及び副議長の任期は、定例議会における議長選出のときから、次期定例議会における議長選出のときまでとする。

#### (執行委員会)

**第16条** 本会に、最高執行機関として執行委員会を置く。

- 2 執行委員会は、役員（監査委員を除く。）及び次条第5項に定める専門委員会の委員長をもって組織する。
- 3 執行委員会は、本会に必要な事項の原案を作り議会に提出する。
- 4 執行委員会は、議会の決議事項を執行する。

#### (専門委員会)

**第17条** 本会に、執行委員会の職務を補佐するために、次の各号に定める専門委員会を置き、当該各号に定める学級及びクラブから選出する委員をもって構成する。

- (1) 学級委員会 各学級2名
- (2) 文化・体育委員会 各学級2名
- (3) クラブ活動委員会 各クラブ1名

- 2 学級委員会は、学級委員によって組織し、本会の運営に協力するとともに第22条に定める学生会顧問の指導のもとに校紀校風の醸成向上に当たる。
- 3 文化・体育委員会は、文化・体育委員によって組織し、本校行事の運営に協力する。
- 4 クラブ活動委員会は、次条第2項に定めるクラブの部長によって組織し、各クラブの健全な活動向上にあたる。
- 5 各専門委員会には、委員の互選により選出された委員長1名、副委員長1名を置く。
- 6 副委員長は、委員長よりも下級学年の者であることが望ましい。
- 7 本会は、必要に応じ議会の承認を得てその他の専門委員会を置くことができる。

#### (クラブ)

**第18条** 本会に、会員の健全な趣味、豊富な教養、強健な体力を養うとともに集団協力の態度を培うため、別表に掲げるクラブを置く。

- 2 クラブには、クラブを代表する部長を置かなければならない。
- 3 クラブの新設、合併及び廃部は、次の各号に定める手続きを経て議会で協議可決し、校長の承認を得なければならない。
- (1) クラブを新設する場合は、代表者が賛同者5名を集め、申請書を議会に提出しなければならない。
- (2) クラブを合併する場合は、合併後の代表者が申請書を議会に提出しなければならない。
- (3) クラブを廃止する場合は、部長が廃部届を議会に提出しなければならない。
- 4 クラブ活動等については、別に定める。

#### (クラブ顧問)

**第19条** 各クラブには、校長が任命するクラブ顧問を置かなければならない。

#### (会計)

**第20条** 本会の会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

- 2 本会の経費は、会費、寄付金、その他をもってこれに当てる。
- 3 本会の予算、決算は、議会の承認を受けなければならない。

#### (最高顧問)

**第21条** 本会に最高顧問を置き、本校の校長がこれに当たる。

- 2 最高顧問は、本会の議決が学校行政や学生指導に障害を及ぼし、若しくは校長の法的責任を侵すと認めるときは、これを拒否することができる。

# 課外活動細則

- 3 最高顧問は、本会の会員数が著しく少ない等によって本会運営が困難と認められた場合は、本会会長と協議の上、この会則に定める役員等の人数を調整することができる。

## (学生会顧問)

**第22条** 本会に、校長によって任命された学生会顧問を置く。

- 2 学生会顧問は、最高顧問、クラブ顧問及び学生主事と連携し、本会が第2条に定める目的を達成することができるよう、本会の運営をサポートする。

## (改廃)

**第23条** この会則の改廃は、議会において総議員の3分の2以上の賛成で議決し、校長の承認を得て施行する。

## 附 則

- 1 本会の運営に必要な事項は細則で定める。

(中略)

- 7 この会則は、平成30年4月1日から改正施行する。  
8 この会則は、令和4年4月1日から改正施行する。

## 別表

国際高等専門学校学生会クラブ一覧

陸上競技
卓球
バドミントン
水泳
吹奏楽
電子計算機
ハンズオン
バスケットボール
野球
サッカー
ハンドボール
テニス
放送・無線
写真
美術
バレーボール
ソフトテニス
剣道
柔道
スキー
囲碁・将棋
ネイチャー&アドベンチャー
ランゲージ&カルチャー
デザイン&ファブリケーション

## (目的)

**第1条** この細則は、国際高等専門学校学生会会則（以下「学生会会則」という。）第18条第4項に基づき、クラブの活動等について必要な事項を定めることを目的とする。

## (クラブ)

**第2条** クラブは、国際高等専門学校（以下「本校」という。）の学生であって、同様な趣味、特技、目的をもった有志によって構成され、入退部は自由とする。

## (部長)

**第3条** クラブに代表者として部長1名を置き、当該者名を学生会会長及び学生会顧問に報告しなければならない。部長に変更があったときも同様とする。

2 部長はクラブを統轄し、学生会会則第17条第1項第3号に定めるクラブ活動委員会に出席する。

3 部長は、クラブの事務、会計、部室管理の任務を行う。

4 部長は、前項の任務を補佐させるため主務を置くことができる。

## (イベントへの参加・終了報告)

**第4条** クラブは、次の各号に定めるイベント等に参加し、又は実施するときは、イベント参加・実施許可願を提出し、順次、クラブ顧問及び校長の承認を得なければならない。

(1) 学外イベントに参加するとき。

(2) 合宿又は休暇中(休日、祝祭日を含む。)に練習をするとき。

(3) 練習試合(交歓会等を含む。)を実施するとき。

(4) その他学内外において活動を実施するとき。

2 クラブは、イベント等の参加・実施が終了したときは、終了後10日以内に報告書を提出しなければならない。

## (イベント参加・実施許可願)

**第5条** イベント参加・実施許可願は、本校事務局から所定用紙の交付を受けて必要事項を記入し、提出に当たってはイベント等の要項、計画書、日程表、費用請求伝票等を添付しなければならない。

2 イベント参加・実施許可願は、原則としてイベント等の参加・実施日の2週間前までに提出するものとする。ただし、費用を要しないイベント等の場合は、1週間前までの提出とする。

## (ポスターの掲示)

**第6条** クラブは、学内外に印刷物を掲示する場合は、学生会顧問の許可及び掲示場所の指定を受けなければならない。

## (部員名簿の提出)

**第7条** クラブは、4月30日及び10月31日現在の部員名簿を所定用紙により作成し、年2回、学生会及び学生会顧問に各1部提出しなければならない。

## (活動記録簿)

**第8条** クラブは、年度始めに学生会から活動記録簿を受領し、必要事項を記入して年度末に返納しなければならない。

## (予算の申請・支出)

**第9条** クラブは、翌年度のクラブ予算について、所定用紙により行幸計画書を作成の上、12月中に学生会に申請しなければならない。

2 学生会は、提出期限を過ぎた申請、又は所定用紙によらない申請は、これを受け付けない。

3 クラブの予算執行は、原則として学生会議会における予算成立後で行なければならない。

- 4 クラブの予算の収入及び支出は、すべて学生会会計がその任に当たる。
- 5 クラブの経費支出は、所定の請求書に必要事項を記入し、順次、クラブ顧問、学生会会計及び学生主事の承認を得て、本校事務局に提出する。
- 6 前項に定める請求書には、必ず請求の事由、計画書及び日程表を添付しなければならない。
- 7 クラブは、予算額を超えて支出してはならない。ただし、学生会議会の承認を得た場合は、この限りでない。
- 8 クラブは、学生会議会の承認を得ることなく予算額を超えて支出した場合は、当該会計年度内に、部長及び主事は責任をもってその超過額を学生会会長を通じ返済しなければならない。

#### (予算使途の制限)

**第10条** 予算は、次の各号に定める使途に支出してはならない。

- (1) 個人的な物品を購入すること。
- (2) クラブの活動に不必要なものを購入すること。
- (3) 部員相互の親睦経費に流用すること。
- (4) 予算申請した以外のものに使用すること。

#### (予算の返納等)

**第11条** 予算が概算払いされている場合は、イベント、遠征等の終了後10日以内に支出明細書に領収書を添えて学生会会計に提出し、残金が生じた場合は、学生会会計を通じて返納しなければならない。

- 2 クラブが解散又は廃部した場合における部費の残額は、当該会計年度の育成費に繰り入れるものとする。
- 3 クラブが合併した場合における新規予算額は、合併時会計年度に承認済みの各合併クラブの予算額の合計額とする。

#### (監査)

**第12条** クラブは、活動記録簿を作成し、クラブ予算の使途、クラブ活動費の出納、備品の管理状況等について、学生会の監査に応じなければならない。

#### (入・退部金及び活動費の徴収禁止)

**第13条** クラブは、入部金・退部金を徴収してはならない。

- 2 部員からの活動費の徴収は、原則として禁止する。ただし、特別な理由により徴収の必要があるときは、クラブ顧問及び学生会顧問の承認を受け、その指示に従うこととし、徴収したときは活動費の使途を明確にしなければならない。

#### (部室及び設備の管理)

**第14条** クラブが部室又は部室に設備を必要とするときは、クラブ活動委員会委員長が学生主事に願い出るものとする。

- 2 部室はクラブの活動目的以外に使用してはならない。
- 3 部室の管理責任者は部長とする。
- 4 部室の設備を変更しようとするときは、クラブ活動委員会委員長を経て学生会会長及び学生会顧問の承認を得なければならない。
- 5 クラブ活動委員会委員長及び学生会会長は、部室の設備、備品をクラブの活動目的以外に使用して滅失、破損したときは、管理使用するクラブに弁償を求めることができる。
- 6 クラブ活動委員会委員長又は学生会顧問は、クラブによる部室の管理使用が不当・不適切であると認めるときは、部室の使用を禁止することができる。

7 監査委員及び学生会顧問は、監査担当者を指定して部室の管理使用状況、設備及び備品の監査を行うことができる。

8 その他部室の管理使用に関する権限は、学生会会長及び学生会顧問に委ねる。

#### (遠征)

**第15条** 遠征とは、校長が認めた公式の対外行事に本校代表として参加することをいう。

#### (連盟加入費及び大会参加費)

**第16条** 連盟加入費及び大会参加費は、原則としてその全額を学生会経費から支出するものとする。

#### (遠征費の補助)

**第17条** 遠征費の補助は、次の各号に定める基準により行う。

- (1) 補助対象は、交通費及び宿泊費のみとすること。
  - (2) 補助額は、必要最小限とすること。
  - (3) 他から補助がある場合は、当該補助額を控除して補助すること。
- 2 遠征費の補助は、本校事務局に提出されたイベント参加・実施許可願及び次条から第21条までの規定に基づき、学生会及び学生会顧問が算定する。

#### (交通費の補助)

**第18条** 交通費の補助額は、次の各号に定める基準により算定する。

- (1) 本校と開催地間の距離及び料金が最短かつ最低となる行程であること。
  - (2) 学割、団体割引が利用可能な交通機関においてはこれを利用すること。
  - (3) 特急料金の補助は、原則として北陸三県以外の地に遠征するときとすること。
  - (4) 船の利用は、鉄道が利用できないときに限ること。
  - (5) バスの利用は、原則として鉄道が利用できないときに限ること。
  - (6) 前各号に該当しない場合は、補助の要否及び補助額は学生主事が決定すること。
- 2 交通費の補助額は、前条の規定に基づくほか次の各号に定める基準により決定する。

- (1) 全国高等専門学校連合会が主催する大会、国体及び全国大会に地区代表として参加する場合は、交通費の全額を補助する。
- (2) 前号に該当しない大会等に参加する場合は、交通費の半額を補助する。
- (3) 前2号に該当しない場合は、その都度、学生会顧問が決定する。

#### (宿泊費の補助)

**第19条** 前条第2項第1号に該当する大会に参加する場合は、宿泊費は全額を補助する。

2 前条第2項第2号に該当する大会等に参加する場合は、宿泊費は半額を補助することを原則とし、その都度、学生会顧問が決定する。

#### (宿泊の要否)

**第20条** 県内大会への参加は、日帰りを原則とする。

2 県外大会において宿泊を要するときは、宿泊日は大会開始の前日から大会終了の前日までを原則とする。

#### (補助の対象者数)

**第21条** 交通費及び宿泊費の全額が補助の対象となる大会等における補助の対象者数は、大会等の要項に基づく正式エントリーの人数とする。

# 特別奨学金給付規程

2 大会等への主務の参加を要する場合は、補助の対象者数は主務を加えた人数とする。

3 主務が選手を兼ねて正式エントリー数に含まれる場合は、1名に限り追加して補助の対象者にすることができる。

## (クラブの解散)

**第22条** クラブが次の各号のいずれかに該当する場合は、執行委員会の調査結果に基づき、クラブ活動委員会の過半数の議決、学生会議会の出席議員の過半数の議決により、学生会はクラブに解散を命じることができる。

- (1) 部員が5名を下回ったとき。
- (2) 活動状況に活発性又は健全性が認められないとき。
- (3) 活動状況の連絡、報告が明確でないとき。

2 校長は、次の各号に該当するクラブの解散を学生会に命じることができる。

- (1) 本校学生としての本分を逸脱する行為が部員個人又はクラブにあったとき。
- (2) 本校の名誉を著しく傷つける行為があったとき。

## (改廃)

**第23条** この細則の改廃は、学生会議会において総議員の3分の2以上の賛成で議決し、校長の承認を得て施行する。

## 附 則

1 この細則は、昭和44年4月1日から施行する。

(中略)

7 この細則は、平成30年4月1日から改正施行する。

8 この細則は、令和4年4月1日から改正施行する。

## (趣旨)

**第1条** この規程は、学校法人金沢工業大学特別奨学金規則第5条の規定に基づき、国際高等専門学校（以下「本校」という。）に配分された特別奨学金の給付に関して必要な事項を定める。

## (対象)

**第2条** 本校は、本校の新たな教育研究ブランド力の向上を目指した、グローバルリーダーの養成に資する「ICT リーダーシップアワード奨学金制度」を実施するため、学生のうち多様な活動においてリーダーシップを発揮し、学業成績が優秀で、他の学生の模範となる行動をしている者を特別奨学生とし、特別奨学金を給付するものとする。

## (期間)

**第3条** 特別奨学生として特別奨学金を給付する期間は1年とする。ただし、年度ごとの評価及び選考により、継続して給付することを妨げない。

## (特別奨学金の種別と給付条件)

**第4条** 特別奨学金の種別は、次の各号のとおりとし、当該各号に定める条件を満たす者から選考により給付する。

### (1) リーダーシップアワード Golden Eagle 奨学金

第1学年から第2学年までの取り組みを評価し、次の条件を全て満たす者

- ① 本校が定める SDGs スタートアッププロジェクトに継続的に参画していること。
- ② 2年間を通じた修学でGPAが3.0以上、TOEFL(iBT)70点以上又はIELTS5.5以上、若しくは英検準1級以上のいずれかを有していること。
- ③ 自身が取り組むプロジェクトを通じた状況や成果を、自身の成長に関して、本校が認める方法で学内外に発信していること。
- ④ 他の学生の模範となる行動をしていること。

### (2) リーダーシップアワード Gold 奨学金

学年ごとに1年間の取り組みを評価し、次の①、②及び③の条件を全て満たし、かつ④又は⑤の条件のいずれかを満たす者

- ① 受講する全ての科目の成績の平均値がGPA3.0以上であること。
- ② 修学生活、寮生活等を通じて、自身の成長に関して、本校が認める方法で学内外に発信していること。
- ③ 他の学生の模範となる行動をしていること。
- ④ 学内外のプログラムに参加し、積極的なリーダーシップを発揮していること。
- ⑤ 各種活動を通じて培った知識やスキルを活用し、地域社会に貢献していること。

### (3) リーダーシップアワード Silver 奨学金

学年ごとに1年間の取り組みを評価し、次の①、②及び③の条件を全て満たし、かつ④又は⑤の条件のいずれかを満たす者

- ① 受講する全ての科目の成績の平均値がGPA2.5以上であること。
- ② 修学生活、寮生活等を通じて、自身の成長に関して、本校が認める方法で学内外に発信していること。
- ③ 他の学生の模範となる行動をしていること。
- ④ 学内外のプログラムに参加し、積極的なリーダーシップを発揮していること。
- ⑤ 各種活動を通じて培った知識やスキルを活用し、地域社会に貢献していること。



## (4) CWIE 海外コーオペ教育奨学金

第5学年において、本校が定める海外インターンシップ (Global Cooperative Education Program) に参加し、かつ次の全ての条件を満たす者

- ① 前年度までの修学で GPA が 2.5 以上、TOEFL (iBT) 80 点以上又は IELTS 6.0 以上、若しくは英検準 1 級以上のいずれかを有していること。
- ② 世界産学連携教育協会 (WACE) が定める革新的思考を養成するための共創教育 (CWIE) の趣旨を理解し、企業での課題に積極的に取り組んでいること。
- ③ 他の学生の模範となる行動をすることが期待できること。

**(特別奨学金の給付額等)**

**第5条** 特別給付金は、授業料等に充当するものとし、給付額 (一人当たり年額)、給付人数及び給付金充当費目は、前条に定める種別ごとに次の各号に定めるとおとする。

## (1) リーダーシップアワード Golden Eagle 奨学金

1,400,000 円、 2名以内の者、 第3学年の留学先授業料に充当

## (2) リーダーシップアワード Gold 奨学金

300,000 円、 各学年5名以内の者、 次年度の授業料に充当 (特別奨学生候補者が第5学年の場合は、次年度の金沢工業大学編入時の授業料に充当)

## (3) リーダーシップアワード Silver 奨学金

250,000 円、 各学年5名以内の者、 次年度の授業料に充当 (特別奨学生候補者が第5学年の場合は、次年度の金沢工業大学編入時の授業料に充当)

## (4) CWIE 海外コーオペ教育奨学金

300,000 円、 2名以内の者、 受入先授業料に充当

2 特別奨学金の給付額は、為替レートの変動等に応じ変更することができる。

**(選考委員会)**

**第6条** 特別奨学生を選考するため、校長を委員長とする国際高等専門学校特別奨学生選考委員会 (以下「選考委員会」という。)を設置する。

2 選考委員会の委員は、教務主事、学生主事、修学支援主事、教育点検主事、学科長とする。

3 選考委員会の委員長は、選考委員会の選考結果について速やかに理事長に報告しなければならない。

**(特別奨学生の決定)**

**第7条** 理事長は、選考委員会の委員長から報告があった選考結果に基づき、特別奨学生を決定する。

**(資格の喪失)**

**第8条** 校長は、特別奨学生が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、直ちにその資格を取り消すものとする。

- (1) 学則に違反し又は学生としての本分に反する行為があったとき。
- (2) その他特別奨学生として不適当であると認められたとき。

**(給付金の返還)**

**第9条** 前条に定める事由により、特別奨学生の資格が取り消された者は、既に給付された当該年度の給付金を返還するものとし、第5条各号に定める給付金充当費目 (授業料等) を支払わなければならない。

**(事務)**

**第10条** この規程に関する事務は、国際高等専門学校事務局が行う。

**附 則**

- 1 この規程は、平成 30 年 6 月 1 日から施行する。ただし、平成 30 年 4 月 1 日以後に入学し在学する者について、その効力を有する。
- 2 この規程は、令和元年 5 月 1 日から改正施行する。ただし、改正後の第5条第1項各号に定める給付人数は、令和2年度入学生から適用し、令和2年3月31日現在において現に在学する者については、なお改正前の第5条第1項各号に定める給付人数を適用する。
- 3 この規定は、令和3年4月1日から改正施行する。
- 4 この規定は、令和4年4月1日から改正施行する。

.

# 修学について

## 学年・学期・休業日について

### 学年・学期

学年は4月1日から3月31日までをいい、前学期、後学期に分けられています。  
また、1年間の授業を行う期間は、定期試験の期間を含め、35週にわたることが原則として定められています。

### 授業日・休業日

本年度の授業日・休業日は次のとおりです。

前学期授業日	令和4年4月1日から9月25日まで
後学期授業日	令和4年9月26日から令和5年3月31日まで
夏期休業日	8月8日から9月7日まで(第1・2学年) 8月8日から9月25日まで(第4・5学年)
冬期休業日	12月27日から1月9日まで
学年末休業日	3月3日から3月31日まで

なお、上記休業日中に集中講義・補講などを実施することがあります。

### 緊急の変更に関する連絡方法について

台風、地震、大雪その他の理由により緊急に臨時休業あるいは授業開始時刻・終了時刻を変更する場合は、本校のホームページおよびメール配信にて連絡します。

#### 【ホームページ】

<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/k.html>  
(QRコード読み込みも可能です)



状況により、ホームページの更新ができない場合もありますので、承知おきください。

#### 【メール配信】

入学時にメールアドレスをお知らせいただいております。変更が生じましたら速やかに事務局までご連絡ください。

# 授業について

## 授業時間

授業は各学級ごとに編成されている授業時間割に従い、1週間を区切りとして行われます。

第1・2学年

時限	時間帯
第1限	8：40～10：20
第2限	10：30～12：10
昼	食
第3限	13：00～14：40
第4限	14：50～16：30
ラーニングセッション	19：30～21：30

第4・5学年

時限	時間帯
第1限	8：40～10：20
第2限	10：35～12：15
昼	食
第3限	13：15～14：55
第4限	15：10～16：50

## ラーニングセッション

ラーニングセッションの時間は、全員が必修とするアクティブラーニングの時間です。「Library and Work Commons」に集まり、ラーニング・メンターが当日の振り返り、翌日以降の学習準備のほか、寮生同士のチーム学習などを必要に応じてサポートします。確実な学習の定着、能力獲得に向け、有効に利用してください。

## 授業時間割の変更

授業時間割に変更があるときは、その都度伝達します。

## 欠席・欠課の届け

単位を修得するためには、授業に出席することが前提となります。やむを得ない事情がある場合でも、欠課が定められた授業時間数の5分の1を超えた場合は単位が与えられません。各授業開始時刻より後に入室する場合は遅刻、各授業終了時刻より前に退室する場合は早退とします。

## 出席扱い

下記に該当する欠席、欠課は出席扱いとなりますので、担任に申し出てください。

### 慶弔による出席扱い

兄弟・姉妹の結婚	1日
父母、兄弟・姉妹の法要	1日
父母の忌引	7日
祖父母、兄弟・姉妹の忌引	3日
祖々父母、伯叔父母、従兄弟・従姉妹の忌引	1日
その他の家族の忌引	1日

### その他の理由による出席扱い

天災および交通機関の事故によるもの

校長が認めた資格試験・就職試験の受験によるもの

校長が認めた対外活動によるもの

上記以外に校長が認めたもの

## 出席停止および出席停止期間の基準

本校では、学校保健安全法に基づき下記の感染症に罹患した場合は授業に出席できないことになっていきます（出席停止扱いとなり、欠席にはなりません）。医師の指示に従い療養され、医師より登校の許可が出てから、本校所定の「病欠証明書」（本校事務局にて配付）に医師が記入したもの、または医療機関発行の「診断書」を持参し、学級担任に提出してください。

分類	特徴	該当する感染症	出席停止期間
第1種	発生は稀だが重大な感染症	エボラ出血熱、クリミア、コンゴ熱、痘瘡、南米出血熱、ペスト、マールブルグ熱、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1型）、新型コロナウイルス感染症、指定感染症、新感染症、新型インフルエンザなど感染症	治癒するまで。
第2種	飛沫感染し流行拡大の恐れがある感染症	インフルエンザ （鳥インフルエンザ（H5N1型）を除く）	発症した後（発熱の翌日を1日目として）5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで。
		百日咳	特有の咳が消失するまで、または5日間の適切な抗菌薬療法が終了するまで。
		麻疹	発疹を伴う発熱が解熱した後3日を経過するまで。
		流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日間を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで。
		風疹	発疹が消失するまで。
		水痘	すべての発疹が痂皮化するまで。
		咽頭結膜熱	主要症状が消退したあと2日を経過するまで。
		結核	病状により学校医その他医師において感染の恐れがないと認めるまで（目安として、異なった日の喀痰塗末検査の結果が連続して3回陰性となるまで）。
第3種	飛沫感染が主体ではないが流行性拡大の恐れがある感染症	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、急性流行性角結膜炎	病状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認めるまで。
		その他の感染症 ノロウイルス・ロタウイルス感染症、マイコプラズマ感染症 他	校長が学校医の意見を聞き期間を決定する。本校では発症後5日を原則とするが、症状により延長する場合もある。

# 試験について

授業科目の履修状況进行评估し、単位を認定するための資料として試験が行われます。試験の種類には定期試験（学期末試験）、再試験、追試験、単位追認試験、その他の試験があります。

正当な理由なく試験を欠席した場合、または懲戒処分のため試験を欠席した場合、当該科目の試験の成績を0点とします。

なお、試験中不正行為をした者は、当該試験期間に行われるすべての科目の試験の成績が0点となります。不正行為により試験の成績を0点とした場合は、追試験、再試験の対象にはなりません。

## 定期試験

定期試験は、各学期末に行われます。

令和4年度の定期試験日程は、次のとおりです。

前学期定期試験 8月2日から8月4日まで(第1・2学年)

8月3日から8月4日まで(第4・5学年)

後学期定期試験 1月31日から2月2日まで(第1・2学年)

1月31日から2月1日まで(第4・5学年)

## 再試験

再試験は、定期試験を実施した科目の評点が不合格であった者について実施することがあります。

## 追試験

追試験は、法定伝染病の罹患や部活動による対外試合など、やむを得ない事由によって定期試験を受けることのできなかつた者に対して実施することがあります。

## 単位追認試験

単位追認試験は、進級が認められた者で、当該学年までに取得しているべき単位を取得できなかった科目について実施することがあります。

## その他の試験

その他の試験は、中間テストや小テスト、成績不振者を対象とした補習テストなど、科目担当者が必要と認めた場合に実施することがあります。

# 成績について

## 単位

教育課程表には、各授業科目の授業時間数に対応する量を「単位」として表示してあります。原則として、50分の授業を30回行うと1単位として計算します。この様な方法で計算される単位を「履修単位」と呼びます。なお、一部の科目については50分の学習45回で1単位と計算します。その45回のうち30回分の学習は予習・復習など授業時間外で行い、授業は15回行うことを標準とします。このような方法で計算された単位を「学修単位」とよび、一般に大学で用いられています。

## 単位認定と成績評価

各授業科目の成績評価は、試験の成績、平素の学習状況、出席状況を勘案して、学習支援計画書（シラバス）の評価基準に従って行います。

各科目の成績はそれぞれの科目担当教員が評価します。授業時間数の5分の4以上出席している者について、その科目の履修を終了したものと認め、100点を満点とする評点により評価し、第1・2・4・5学年は評点が60点以上の科目について、第3学年は50点以上の科目について、その科目の単位を修得したものと認定します。この評点は下表の区分により評定され、指導要録および成績証明書などに記載されます。

再試験又は単位追認により単位を修得した場合の当該科目の評点は第1・2・4・5学年は60点、第3学年は50点とします。

## 学業成績の評価

### 第1・2・4・5学年

評点	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0	0
評定	S (秀)	A (優)	B (良)	C (可)	D (成績不可)	F (出席不良)
評価	4	3	2	1	0	0

### 第3学年

評点	100～90	89～80	79～65	64～50	49～0	0
評定	S (秀)	A (優)	B (良)	C (可)	D (成績不可)	F (出席不良)
評価	4	3	2	1	0	0



## GPA について

GPA (Grade Point Average) とは、個々の科目の成績評価に基づき、全履修科目における1単位当たりの成績評価の平均値を表すものです。これにより、全体的な成績評価として各学期終了時点での成績状況を確認できます。

個々の科目の成績評価が高ければ当然 GPA も高くなりますが、全履修科目を対象としていますので、履修許可を受けた科目は、確実に履修し単位修得に努める必要があります。

また、GPA による成績評価は、今後の修学指導における基礎資料となるばかりでなく、就職指導や大学への進学指導（大学への編入学推薦出願資格）における基礎資料ともなりますので、日々の学習に努力してください。

### 成績評価と GPA の算出方法

評定	評価ポイント
S (秀)	4 ポイント
A (優)	3 ポイント
B (良)	2 ポイント
C (可)	1 ポイント
D (成績不良)	0 ポイント
F (出席不良)	0 ポイント

$$\text{GPA} = \frac{(\text{評価ポイント} \times \text{単位数}) \text{の総和}}{\text{履修科目の総単位数}}$$

(注) GPA は、計算結果の小数点以下3桁目を四捨五入し、小数点以下2桁までとします。

## 成績通知

成績通知表は学期ごとに保護者あてに郵送します。

また、成績などで懇談の必要のある場合は、保護者にご連絡することがあります。

# ポートフォリオについて

The screenshot shows the manaba LMS interface for the course 'リーディング・ライティング I A'. The page title is '小テスト管理' (Quiz Management). The interface includes navigation tabs for 'マイページ', 'コース', 'メモ一覧', and 'English'. The course name is 'リーディング・ライティング I A' and the instructor is '2018 前期'. The page shows a list of quizzes with columns for No., Title, Prerequisite, Status, Period, Public/Private, Submission, and Management.

No.	タイトル	前提条件	状態	期間	公開/非公開	提出	管理
1	自動採点 <HW: 速読> W3: Lesson 5 / 6	-	受付終了	2018-04-20 12:00~ 2018-04-26 12:00	公開中	10名	
2	自動採点 <HW: 速読> W4: Lesson 7 / 8	-	受付終了	2018-04-27 12:00~ 2018-05-03 12:00	公開中	6名	
3	自動採点 <HW: 速読> W5: Lesson 9 / 10	-	受付終了	2018-05-11 12:00~ 2018-05-17 12:00	公開中	10名	
4	自動採点 <HW: 速読> W1: Lesson 1 / 2	-	受付終了	2018-04-13 10:00~ 2018-04-19 12:00	公開中	11名	
5	自動採点 <HW: 速読> W2: Lesson 3 / 4	-	受付終了	2018-04-13 12:00~ 2018-04-19 12:00	公開中	11名	
6	自動採点 <HW: 速読> W6: Lesson 11 / 12	-	受付終了	2018-05-18 12:00~ 2018-05-24 12:00	公開中	10名	
7	自動採点 <HW: 速読> W7: Lesson 13 / 14	-	受付終了	2018-05-25 12:00~ 2018-06-01 12:00	公開中	11名	
8	自動採点 <HW: 速読> W8: Lesson 15 / 16	-	受付終了	2018-06-06 12:00~ 2018-06-14 12:00	公開中	10名	
9	自動採点 <HW: 速読> W9: Lesson 17 / 18	-	受付終了	2018-06-15 12:00~ 2018-06-21 12:00	公開中	10名	

## 学習支援システム manaba について

第1～3学年の学生は日々の学習や自己分析に、クラウド型学習支援システム manaba を活用しています。manaba は国内の高等教育機関で導入されているシステムです。学生は科目ごとに設定されているレポート提出や小テストを manaba で教員へ提出しています。また、自己分析などのキャリア形成にも活用され、ポートフォリオとして本校での歩みを記録しています。スマートフォンからもアクセス可能なので、学生はいつでもどこでも日々の学習状況や自己成長を見直すことができます。

URL : <https://manaba.ict-kanazawa.ac.jp/ct/login>

## 学修支援システム e シラバスについて

金沢工業大学との共創活動を行っていく第4・5学年の学生は、金沢工業大学で運用されている学修支援システム e シラバスを利用することになります。これは学習支援計画書（シラバス）を電子化したもので、学生のアクティブラーニングの実施を容易にし、科目間や教員と学生をつなぐ双方向的な役割を担うことをめざしたものです。e シラバスには、以下のような機能が実装されています。

- ・授業資料、動画、音声等のデジタルデータの配信、外部サイトへのハイパーリンク付与
- ・レポート課題の提示とレポートの受理
- ・小テスト、アンケートの実施

こうした機能を利用し、予習・復習を目的とした授業資料や動画の配信、学生からのレポート提出受付などに活用されています。全教員、全学生が利用することができるシステムで、manaba と同様ポートフォリオとしての役割も担っています。学内のネットワーク（VPN を利用したアクセスを含む）からアクセスすることができます。

URL : <https://navi.mars.kanazawa-it.ac.jp/portal/ICTStudent>

# 課題学修の単位認定について

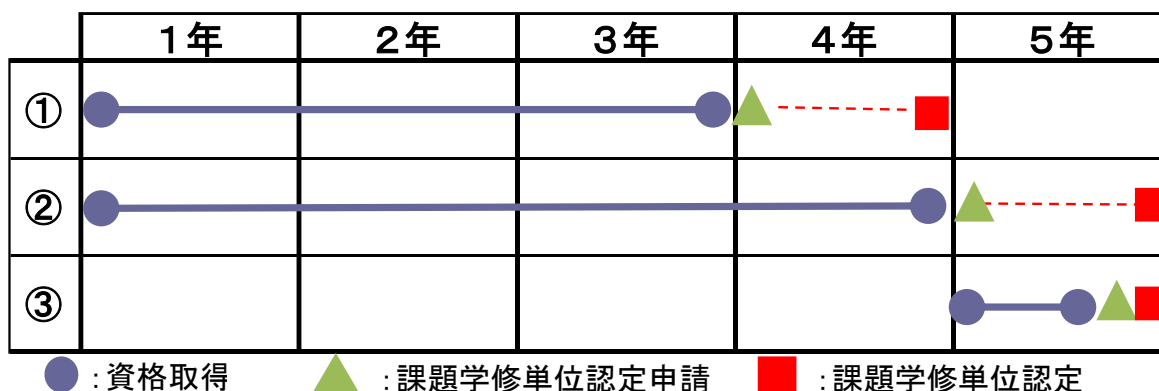
教育課程表に示される課題学修の単位は、通常の授業以外の資格試験取得や別に指定されたコンテスト、地域連携活動などのプロジェクト活動によって認定される専門の選択科目単位です。所定の申請書に必要事項を記入して申請し、承認を受けると申請年度の単位として認定されます。

## 認定単位数

各資格取得に対する認定単位数は別表1「課題学修による単位の認定数－資格試験関係－」（以下「別表1」という。）に示されています。指定されたコンテストでの成果に対する認定単位数は別表2「課題学修による単位の認定数－コンテスト関係－」（以下「別表2」という。）に示されています。また、別表3「課題学修による単位の認定数－プロジェクト活動関係－」（以下「別表3」という。）にあるような、地域連携やボランティア活動などの課外プロジェクト活動は、審議を経て単位認定及び単位数が決定されます。

課題学修の単位認定には次の規則があります。

- 専門の選択科目であるため、第4・5学年の単位修得とする。
- 第4・5学年の各学年で認定する単位数は資格試験・コンテスト・プロジェクト活動を併せて3単位までとする。
- 課題学修の単位は、卒業又は進級に必須となる累積単位数に含めない。
- 本校入学から第3学年3月末までに課題学修の条件を満たし、第4学年4月に単位認定申請がされた資格は、審査を経て問題がなければ第4学年の課題学修単位として認める。（下図①）
- 本校入学から第4学年3月末までに課題学修の条件を満たし、第5学年4月に単位認定申請がされた資格は、審査を経て問題がなければ第5学年の課題学修単位として認める。（下図②）ただし、第4学年4月に単位認定申請がされた資格については除く。
- 第5学年4月以降11月末までに課題学修の条件を満たし、同年度12月の所定の期日までに単位認定申請がされた資格は、審査を経て問題がなければ第5学年の課題学修単位として認める。（下図③）



(資格試験関係の規則)

- 同一学年において級が異なる同種の試験に合格した場合は、上級の資格のみ対象とする。
- 第4学年に単位が認められた資格試験の上級の試験に第5学年に合格した場合は、差分の単位数のみ認定する。

(コンテスト関係の規則)

- 原則、正選手（出場選手）を対象とする。ただし、出場チームに正式に所属し、出場選手枠のために出場できなかったがチームへの貢献が大きい者に関しては、指導教員の推薦があり、審議で承認された場合は出場選手と同等に扱う。
- 申請時には、大会及び活動の概要、出場メンバー、成果などが分かる資料を添付すること。

(プロジェクト活動関係の規則)

- 申請時には、活動の概要、参加者の役割分担、取り組み時間、成果などが分かる資料を添付すること。

## 単位認定の手続き

課題学修による単位認定を希望する場合は、当該年度の申請期日までに次の手続きを完了してください。

- ①クラス担任から「課題学修単位認定申請書」をもらい、所定事項を記入してください。
- ②申請書に当該資格試験の合格通知書・免状などの原本とコピー（コンテスト・プロジェクト活動の場合は関係資料）を添えて、クラス担任の確認を受け、確認印をもらってください。（原本は返却してもらって下さい。）
- ③クラス担任は申請書と添付書類を教務主事へ提出して下さい。

別表1 課題学修による単位の認定数 —資格試験関係— (令和4年度)

資格名	認定単位数	備考
実用英語技能検定 (英検)	準1級	1
	1級	2
IELTS	6.0~6.5	1
	7.0以上	2
技術英語能力検定	準プロフェッショナル	1
	プロフェッショナル	2
TOEIC® Listening & Reading Test	700~899	1
	900以上	2
TOEFL iBT	80~99	1
	100以上	2
日本語能力試験	N2	1
	N1	2
		留学生課程の学生の み認定
実用数学技能検定	準1級	1
	1級	2
実用理科技能検定	理検 STEP (物理検定1級)	1
	理検 STEP (化学検定1級)	1
	理検 STEP (生物検定1級)	1
CAD利用技術者試験	2次元CAD利用技術者試験基礎	1
	2次元CAD利用技術者試験2級	2
	2次元CAD利用技術者試験1級(機械)	3
	3次元CAD利用技術者2級	2
	3次元CAD利用技術者準1級	3
	3次元CAD利用技術者1級	3
機械設計技術者	3級	2
ドットコムマスターアドバンス	シングルスター	1
	ダブルスター	2
CGクリエイター検定	エキスパート	2
CGエンジニア検定	エキスパート	2
マルチメディア検定	エキスパート	2
情報処理技術者	ITパスポート	1
	基本情報技術者	2
	その他情報処理技術者試験	2
デジタル技術検定	2級情報	1
	2級制御	1
	1級情報	2
	1級制御	2
電気通信設備工事担任者	A I 2種	1
	第1級アナログ通信	2
	DD 2種	1
	第1級デジタル通信	2
	総合通信	3
電気工事士	2種	1
	1種	2

資格名	認定単位数	備考
電気通信主任技術者	伝送交換主任	2
	線路主任	2
陸上無線技術士	2級	2
	1級	3
電気主任技術者	3種	2
	2種	3
危険物取扱者	乙種 (6類全て)	1
	甲種	1

別表2 課題学修による単位の認定数 -コンテスト関係- (令和4年度)

コンテスト名		認定単位数	
アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト	全国大会出場	2	
	全国大会入賞	3	
全国高等専門学校プログラミングコンテスト	競技部門	準々決勝進出	2
		入賞	3
		その他特例※	1
	競技部門以外	本選に出場	1
		何らかの賞を受賞 (敢闘賞を除く)	2
		最優秀・優秀賞	3
全国高等専門学校デザインコンペティション	プレデザコン (3部門)	何らかの賞を受賞	1
		予選のある部門での本戦出場	1
	デザコン (4部門)	何らかの賞を受賞	2
		最優秀・優秀賞	3
全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト	シングル部門	全国大会出場	1
		全国大会入賞	2
	チーム部門	全国大会出場	1
		全国大会入賞	2
その他のコンテスト	顧問、指導教員から推薦があった場合、国際理工学科、教務委員会および学務会議で審議し決定する		

※ なお、全国大会に出場し、指導教員により準々決勝進出相当の努力が認められ推薦があった場合には、審議で単位認定を承認する場合がある。

別表3 課題学修による単位の認定数 -プロジェクト活動関係- (令和4年度)

プロジェクト活動	認定単位数
地域連携活動、ボランティア活動などの課外プロジェクト活動	教員から推薦があった場合、国際理工学科、教務委員会および学務会議で審議し決定する

# 進級・卒業について

## 進級の要件

次の条件を満たしている者については、第1学年から第4学年までは、その学年の課程を修了したものと認定し、次学年に進級できます。

- (1) 学則に定める学年の修得最低単位数を修得していること。  
(修得最低単位については教育課程表、単位認定については成績について (p. 47) を参照)
- (2) 当該学年における欠席日数が出席すべき日数の5分の1未満であること。

## 進級の特例

進級の要件の第1号のみを満たすことのできなかった者のうち、第1学年から第3学年までは、次の第1号及び第2号、第4学年にあつては、次の各号すべての要件を満たす者に限り、当該学年の修了したものと認定し、次学年に進級できます。

- (1) 別表第1に掲げる当該学年修了に必須となる授業科目の単位が認定されていること。
- (2) 修得単位数が、別表第2に掲げる進級に必須となる累積単位数を満たしていること。
- (3) 第1学年から第3学年までの必修科目の単位をすべて取得していること。

別表第1 当該学年修了に必須となる授業科目

学科	科目	
	第1学年	第2学年
国際理工学科	エンジニアリング デザインⅠA及び ⅠB	エンジニアリン グデザインⅡA 及びⅡB

別表第2の1 進級又は卒業に必須となる累積単位数（平成30年度から令和元年度入学制適用）

学科	学年				
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
国際理工学科	26 (38)	72 (76)	96 (104)	135 (143*)	167 (167)

注1) 下段 ( ) は修得最低単位合計

注2) 累積単位数には「海外英語研修」及び「課題学修」の単位数を含めない。

※ 標準となる修得単位数を表示

別表第2の2 進級又は卒業に必須となる累積単位数（令和2年度以降入学制適用）

学科	学年				
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
国際理工学科	26 (38)	74 (76)	96 (104)	135 (143*)	167 (167)

注1) 下段（ ）は修得最低単位数合計

注2) 累積単位数には「海外英語研修」及び「課題学修」の単位数を含めない。

注3) 第2学年にあつては、第1・2学年の卒業の要件となる授業科目76単位の内、第2学年の必修科目2単位分を除く74単位数が認定されていること。

※ 標準となる修得単位数を表示

## 同一学年再履修の制限

同一学年の再履修は、1回を超えてはなりません。

## 卒業の要件

次の条件を満たしている者については、本校の課程を修了し卒業を認定します。

- (1) 学則に定める修得最低単位数を修得していること。  
(修得最低単位数については教育課程表、単位認定については成績について (p.47) を参照)
- (2) 卒業までに特別活動に90時間以上参加していること。
- (3) 該当学年における欠席日数が、出席すべき日数の5分の1未満であること。

本校の教育理念と教育目的に沿って設定された授業科目や教育プログラムを履修し、基準となる単位数を取得し、卒業を認められた者には、卒業証書を授与し、準学士（工学）の称号が付与されます。



# 留学・海外研修について

## ラーニングエクスプレス(3週間)

国際高等専門学校では、Global Learning Experiences in Engineering (GLEE) として、体験重視型の工学教育のグローバル展開を図り、国際的に活躍できる、実践的なエンジニアの育成をめざしています。GLEEの一貫である「ラーニングエクスプレス」は、国際高等専門学校の提携校であるシンガポール理工学院と共同で実施されるプロジェクトです。グローバル人材を育成する試みとして、異なる国の学生達が、発展途上国や地域を訪問し、フィールドワークを通して、地域発展、環境問題、持続可能な社会などの観点からの問題発見、問題解決策を提案し実施するという、国際的ソーシャルイノベーションプロジェクトです。日本、シンガポールをはじめとするアジアの国の学生と一緒に村々を訪問し「デザインシンキング」の手法を用い、村人達へのインタビューや観察を通して必要なものを見出し、発案、プロトタイプ製作を行い、村人たちと新たな可能性を共有します。

# 部活動について

## 部活動の意義と活動のすすめ

正課の授業による人間形成は意義あるものですが、一方部活動は教室では得ることが出来ない大切な一面を有し、大きな教育的効果が期待できます。

部活動は、自主的な集団活動により、心身ともに健全な学生を育成する極めて重要な教育活動です。学級や学年の枠を越え、しかも縦・横の人間関係の体験、部員としてリーダーとしての体験、また指導教員の人間性に触れていくことによって、全人格形成を目指すことができ、一層充実した学生生活にすることができます。

以上の意義により、本校では部活動をおおいに奨励し、特に第1、2学年においては全員がクラブ活動に参加しなければいけません。

## 活動の活性化と部の所属について

部活動は、自主的、自律的な精神に満ちた人間形成の場であり、運動部では試合、練習試合を多くすることによって、また、文化部では、展示会、発表会を催したり、コンテストなどに出場することによって活動を活性化できます。

しかし、部活動は集団活動であるので、部員数が部活の存続に直接影響を与えます。一つの部活に部員が集中しすぎたり、逆に少なくとも活動に支障をきたします。この弊害を解消するため、新入生の部活の所属については、新入生に所属したいクラブの希望をとり、顧問教員の要望も考慮して決定しています。

## 部活動・プロジェクトに関する行事

### 全国高等専門学校体育大会（全国高等専門学校体育大会、東海・北陸地区代表決定戦、北陸地区高等専門学校体育大会）

高専教育の一環として、学生にひろくスポーツ実践の機会を与え、技能の向上とアマチュアスポーツ精神の高揚を図り、心身ともに健康な学生を育成することを目的に、毎年8月に行われています。全国を8地区のブロックに分け、8地区からの代表が全国大会に出場することになっています。本校は東海・北陸地区のブロックに所属しており、この代表権を得るための北陸地区高等専門学校体育大会が、富山、石川、福井、本校の各高専が参加して、毎年7月に行われています。

### 全国高等学校体育大会（石川県高等学校体育大会）

第1、2、3学年の運動部員は高等学校体育大会への参加が可能であり、多くの部が春と秋の大会に出場しています。

### 文化部の発表

毎年10月、高専祭の一環として各文化部の発表が行われています。

### 高専ロボットコンテスト

高等専門学校の学生たちが同じ課題のロボット製作に取り組み、その成果を競い合う「アイデア対決ロボットコンテスト」に毎年出場し、ユニークな「発想力」と「独創性」を養っています。

### 高専プログラミングコンテスト

情報処理技術において、優れたアイデアと実現力を競う「高等専門学校プログラミングコンテスト」に毎年出場し、成果をあげています。

## 部活動名、顧問教員および監督コーチ（注：\*は兼務）

部	顧問名	監督・コーチ
陸上競技	○谷口 萌未	
卓球	○袖 美樹子	
バドミントン	○小間 徹也	
水泳	○藤澤 武	
吹奏楽	○テイラー・ジェームス	
電子計算機	○藤澤 武*	
ハンズオン	○伊藤 恒平	
ネイチャー&アドベンチャー	○山崎 俊太郎、瀧辺 豊、ケザウ・フィリップ	
ランゲージ&カルチャー	○ベアード・ポーリン、 スティーブソン・イアン、松下 臣仁	
デザイン&ファブ리케이션	○久島 康嘉、伊藤 周	

バスケットボール部、野球部、サッカー部、ハンドボール部、バレーボール部、ソフトテニス部、テニス部、剣道部、柔道部、スキー部、放送・無線部、写真部、美術部、囲碁・将棋部を休部とする。  
○印は主任顧問

## プロジェクト

プロジェクト	顧問名
創造系コンテスト (ロボコン、プロコン、デザコン他)	○林 道大、伊藤 周*、藤澤 武*、 ソングー・ロバート、 ウォルファース・ブランドン、 久島 康嘉*、ハン・ジャスティン、 若松 大暉
英語プレゼンテーション	○津田 明洋、スティーブソン・イアン*、 テイラー・ジェームス*

## 特別講座

講座	顧問名	講師
華道講座	○宇都宮 隆子、黒田 譜美、ハン・ジャスティン、 レノルズ・ステファニー	南川穂和

# 主な学校行事について

## オリエンテーション

本校学生としての生活のあり方や目標を定めるためのオリエンテーション（勉学の方法、教育課程、部活動、学生会などの説明）を行います。これにより意義ある学生生活を期待します。

## スポーツフェスティバル

スポーツフェスティバルは、体力と気力を養うと共に友情を培うことを目的に実施されるイベントです。

## 全国高等専門学校体育大会

全国の高専におけるスポーツの振興と心身の健全な発達を図るとともに、高専相互の親睦を図ることを目的として行われます。毎年8月、全国高等専門学校連合会主催で、全国57校を8ブロックに分け、各ブロックの予選での上位入賞者で全国大会が行われます。

本校は富山、石川、福井の各高専とともに北陸地区のブロックに属し、北陸地区高等専門学校体育大会に出場します。

## 高専祭

学生行事で一番大きなイベントが、10月に行われる文化の祭典である高専祭です。工業立国日本の将来の担い手として、日夜研鑽を重ねている学習などの成果を、学校外に公開する年1回の行事です。内容は卒業研究紹介、実験・実習、各種展示、文化部活動の紹介、模擬店などを盛大に一般公開します。

## 海外修学旅行

第4学年の後学期（令和4年度は第4、5学年）に実施される1週間のシンガポール修学旅行では、本校の協定校であるシンガポール・ポリテクニクとの交歓をはじめとする盛りだくさんの日程を通して視野を広め、新時代を担うエンジニアとしてのセンスを養います。

# 事務局案内

事務局は学生諸君の学修や生活を支え、安心して快適な学生生活を送っていただくために必要な事項についての業務を取り扱っています。例えば、証明書類が必要なとき、各種の届け出をしたいとき、各種の問合せや相談、さらに悩みごとや困りごとに対する対応など、何でも引き受ける強い味方です。いつでも気軽に訪ねてください。

## 学生証について

学生証は、諸君が国際高等専門学校<sup>（仮称）</sup>の学生であることを証明するものです。常に携帯し、校舎へ入るとき、LCを利用するときや、各種証明書の発行を受けるときにも必要です。本校教職員または他の関係者が必要上請求したときは、いつでも提示しなければなりません。学生証は、絶対に他人に貸与または譲渡してはなりません。

また、学生証にはICチップが内蔵されており、曲げたり、圧力を加えると破損することがあります。大切に取扱いましょう。

### **[学生証の交付]**

第1学年始めに校長より交付されます。

### **[学生証の再交付について]**

学生証を、盗難・紛失または汚損した時は、直ちに学級担任を経て事務局に届け出て、学生証再発行願を提出し再交付を受けてください。汚損した学生証は発行願提出時に返却してください。

なお、盗難・紛失の学生証が出てきた場合は直ちに事務局に返却してください。

### **[学生証の返却・無効]**

学生証の有効期間は第1学年～第5学年までの5年間です。有効期間を経過したとき、卒業・退学・除籍などで本校に籍がなくなったときは、直ちに事務局に返却してください。また、学生証の記入事項を、勝手に訂正または改変したものは無効となります。

学生証を、盗難または紛失すると思いがけない迷惑をこうむることがあります。したがって、その取り扱いには常に注意してください。

# 各種証明書・届出書

## 各種証明書・届出書

種類	どういうとき	書類受取先	提出先
証明書発行願	在学証明書、成績証明書、卒業見込証明書、学生証（再交付）などを要するとき	事務局	事務局
学生証再発行願	学生証を紛失したとき	事務局	クラス担任→学生主事→事務局
自転車通学届	自転車で通学したいとき	クラス担任	クラス担任→事務局
原動機付自転車・自動二輪通学許可申請書	原動機付自転車・自動二輪で通学したいとき	クラス担任	クラス担任→事務局
通学証明書	通学定期の学割を受けたいとき（JR・北鉄など）	事務局	事務局
遅刻・早退届	早退・遅刻などをしたとき	事務局	授業担当者（クラス担任）
災害報告書 医療等の届け	学校の管理下でけがをした時	事務局	引率者→学生主事→安全委員長→事務局
校外生活願	旅行やその他校外で生活したいとき	事務局	クラス担任→学生主事→事務局
外出延長届	帰寮時間を超えて外出したいとき	クラス担任	クラス担任→学生主事→事務局
外泊届	寮を離れ外泊したいとき	クラス担任	クラス担任→学生主事→事務局 ※クラス担任への申請は7日前までに行うこと ※クラス担任提出前にクラブ顧問に許可をもらうこと
身上変更届	身上（学生本人の氏名等）が変更になったとき	事務局	クラス担任→事務局
住所変更届	保護者や学生の住所が変わったとき	事務局	クラス担任→事務局
保護者及び授業料支払者変更届	保護者・授業料支払者が変わったとき	事務局	クラス担任→事務局
病欠証明書	該当する感染症（授業について「出席停止および出席停止期間の基準」参照）にかかった時	事務局	クラス担任
留学願	留学しようとするとき	英語教員	英語教員
留学終了届	留学が終了したとき	英語教員	英語教員
休学願	休学しようとするとき	クラス担任	クラス担任
復学願	復学しようとするとき	クラス担任	クラス担任
退学願	退学しようとするとき	クラス担任	クラス担任

【手順】「学生証再発行願」の場合

学生本人が事務局へ書類を取りに行き、①クラス担任→②学生主事→③事務局の順で、承認を得て下さい。

# 奨学制度について

## 奨学制度

奨学制度は、優秀で経済的理由のため修学困難な者に学資を貸与する制度で、独立行政法人日本学生支援機構、地方公共団体、財団法人などがあります。

### 【独立行政法人日本学生支援機構】

独立行政法人 日本学生支援機構ホームページ

<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/index.html>

#### ●学力

第1学年は中学校最終学年の成績の平均が 3.5 以上の者、第2学年以上は本校での成績が学科の平均水準以上の者。

#### ●家計

家計支持者の年収・所得金額から、規程で定められた特別控除額を差し引いた金額が、機構で定めた収入基準額以下である者。

#### ●校長が推薦し、日本学生支援機構が採否を決定します。

#### ●家計急変により修学困難な学生に対する緊急採用制度もあります。

### 【石川県】

月額 30,000 円（第4学年より 44,000 円）が次の者に貸与されます。

#### ●（第1～3学年）保護者が石川県内に現に居住している者。

#### ●（第4～5学年）保護者が石川県内に現に引き続き3年以上居住している者。

#### ●勉強意欲があり、かつ学費の支弁が困難な者。

#### ●独立行政法人日本学生支援機構の奨学金貸与を受けていない者。

#### ●校長が推薦し、石川県が採否を決定します。

奨学制度は、本人が直接手続きするところが多いです。学校の証明を必要とする時は、事務局へ申し出てください。

詳細は事務局へお尋ねください。



# ICTリーダーシップアワード奨学金制度について

ICTは「誰一人取り残さない」世界の実現に向けてイノベーションにチャレンジする学生を支援します。



SDGs (Sustainable Development Goals) は、「誰一人取り残さない」という理念のもとに、国連全加盟国が合意した、世界を変えるための17の目標のことで、ICT (国際高等専門学校) では併設校KIT (金沢工業大学) と連携して、このSDGs達成に貢献するため、身近な社会課題と地球規模課題を結びつけた社会実装型の教育研究プロジェクトを推進します。この教育研究プロジェクトにおいて、卓越したリーダーシップを発揮する学生を支援するのがICTリーダーシップアワード奨学金制度です。

ICTではグローバルイノベーターの養成を目指し、4種の「ICTリーダーシップアワード奨学金制度」を設け、多様な活動においてリーダーシップを発揮し得る人材を支援します。

**詳細は、特別奨学金給付規程をご参照ください。**

# 学生の災害（ケガ）等について

## 独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度

独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度は、学校の管理下における学生の災害に対して必要な給付を行うことを目的とした制度で、多くの幼、小、中、高、高専が加入しています。本校でも、学生全員が加入することになっています。

### 【医療費の支給】

学校の管理下でケガをした場合の医療費は、各種の健康保険が70%をカバーし、残りの30%が自己負担となります。独立行政法人日本スポーツ振興センターは、この自己負担分を給付します。

すなわち、健康保険と独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度により、かかった医療費の全額をカバーできます。

### 【学校の管理下の範囲】

授業、部活動、休憩時間、登校・下校

### 【掛金】

令和4年度共済掛金額 1人当年額1,945円

### 【手続き】

ケガをした場合は、できるだけ早く学校（事務局）へ届け出て給付申請の手続きをとってください。なお、給付を受けるにあたってはいくつかの制限があります。詳細は事務局へお尋ねください。

# 学校生活について

## こころの相談（カウンセリングセンター）

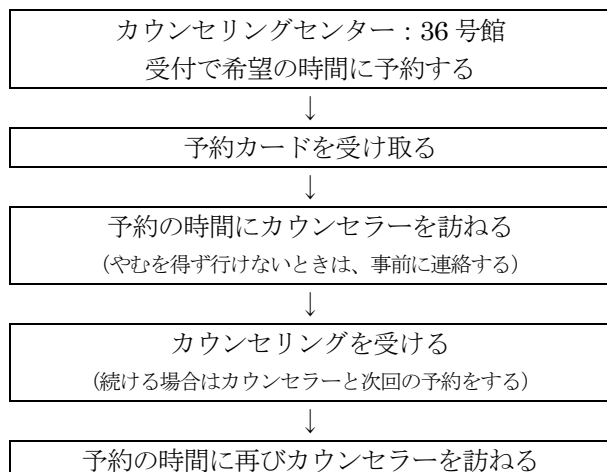
### KIT カウンセリングセンター（金沢キャンパス）

本校では、みなさんが有意義な学生生活を送れるようにカウンセリングセンターを設け、学生生活をサポートしています。みなさんが日常生活を送るうえで、いろいろな悩み、不安、困ったことが生じたとき、専門のカウンセラーの先生が相談に応じてくれます。悩みだけではなく、もっとポジティブな人生を歩みたい、より充実した学生生活を送りたいといった幅広い相談にも応じています。

「こんなことを相談してもいいのだろうか」とためらわず、気軽に相談してください。相談内容については、秘密が守られています。

受付と相談は、36号館（下図参照）で行っています。必要に応じて本校校舎内での相談も可能です。

#### カウンセラーと話すまでの方法



#### ■カウンセリング予約受付時間

月曜日～金曜日…12：00～17：00

※原則予約制です。

#### ■カウンセリングを受けられる時間

月曜日～金曜日…13：00～19：00

(木曜日……………13：00～17：00)

土曜日…………… 8：30～13：00

※休祭日はお休みします。土曜日はあらかじめ休館日が決まっています。

※学園行事などにより、開館日および時間に変更になる場合があります。

※長期休業中のカウンセリング受付についてはお問い合わせください。

#### ■カウンセリングについてのお問い合わせ

国際高専事務局 電話 076 - 248 - 1080

## 白山麓キャンパスでのカウンセリングについて

国際高専白山麓キャンパスには「カウンセリングセンター高専分室」があり、カウンセラーがキャンパスに来ています。カウンセリングを受けたい場合は、KIT Innovation Hub 1階の保健室（clinic）隣にある、Counseling Room にお越しください。

特別活動の「Career Design with Positive Psychology（ポジティブ心理学によるキャリアデザイン）」の内容をもっと詳しく知りたい時や、自分にもっとあったエクササイズの方法を考えたい時にも利用できます。

開室予定日やカウンセラーへの連絡の仕方などは、Counseling Room 前の掲示板をご確認ください。

## 相談フォームからのご相談について

相談に行く前に、カウンセラーと一度話してみたいときや、利用の方法がわからないときは、学生ポータル相談フォームからカウンセラーにご連絡ください（ただし、継続したフォーム上でのカウンセリングはできません）。また、KIT カウンセリングセンター（金沢キャンパス）の休館中は、返信ができませんのでご注意ください。

# キャンパス・ハラスメントについて

教育や研究、業務における教職員や学生の不適切な発言・行動で、精神面を含めて、された側の勉学や研究に支障を生じたり、その環境を悪化させることを、「キャンパス・ハラスメント」と言います。性差別や性的嫌悪感が元になるいわゆるセクシャル・ハラスメント、教育・研究に関連して生じるアカデミック・ハラスメントと呼ばれるものもこれに含まれます。単位の認定や成績評価、あるいは研究指導、就職の斡旋などにおいて、地位を利用するなどして相手に不利益や逆に不当な利益を与える対価型と、勉学や研究開発を悪化させる発言や行動をする環境型とがあります。

## 【対価型】

例えば…

- 個人的な欲求から、学生の利益または不利益を感じさせるような状況で性的なことを要求する。
- 学生に、本来の範囲を超えて勉学や研究を強要したり、不必要に相手を拘束する。
- 指導に従わない学生に暴言や暴力的な行為、意図的な無視をする。
- ことさらに威圧的、権威的、威嚇的な言動（電話やメールを含む）を行う。

## 【環境型】

例えば…

- 学生の気持ちに反し、プライベートについての質問や発言をする。
- 学生の個人的能力や身体的機能、性的指向などへ配慮を欠いた発言をする。
- 特定の学生を傷つける発言をしたり、故意に噂を流す。
- 性の商品化を助長するような絵や写真を見せたりする。
- 教室や研究室で不必要に学生の身体に触る。
- 性的または下品な冗談を言ったり、性的な服従を迫る。

## これって、キャンパスハラスメント？

### ケース① 授業中に先生が、いかがわしい冗談をいった。

周囲に合わせて笑っていたとしても、内心で嫌悪している場合は、キャンパス・ハラスメントに当たります。また、「部活でメンバーが必要以上に身体に触ってくる」などの、学生同士の間で発生するケースも含まれます。

### ケース② 「男は家庭を背負う立場。しっかり勉強しろ」と言われた。

学問研究や、教育の立場においての誤った観点による性差別発言や行動である、「アカデミック・ハラスメント」の典型といわれるケースです。これは男性・女性どちらからでも、また同性間であっても対象になります。

### ケース③ 先生の指示に従わなかったら以後、助言してくれない。

指導に従わない学生に対しての意図的な無視や暴言もハラスメントにあたります。学生にことさら威圧的、権威的な言動をとったり、暴力的な行為、相手の人格もしくは身体を傷つける行為に至るケースも含まれます。

### ケース④ 私生活のことをしつこく尋ねられた。

相手の意に反し、もしくは同意なしにプライバシーについての質問や発言をする。一見、気づきにくい例かもしれませんが、これもハラスメントになります。特定の相手を誹謗・中傷したり、風評を流すことも含んでいます。

### **ひとりで悩まないこと。それが解決の近道です。**

もしあなたが、学生生活を送るうえで、誰かの言動を「ハラスメントだ」と感じたら、その気持ちを言葉と態度ではっきり伝えてください。そして「ノー」と言えなくても、決してひとりで悩みを抱え込まないでください。国際高専には専属のカウンセラーがいます。あなたの悩みを親身に聞き、解決するための方法を一緒に考えていきます。

### **あなたが安心して学べる環境をつくるために。**

自分ひとりで相談するのは不安。そんな時は親しい友人といっしょに相談しても、第三者や代理人でも大丈夫です。相談員はあなたのプライバシーをしっかりと守り、相談員以外への情報提供が必要な場合は、必ずあなたの承諾を得たうえでそれを行います。相談だけで解決しない場合は、必要な調停や措置をとり、安心して学べる環境を取り戻します。

### **ハラスメントについての相談は下記へお越し下さい。**

金沢キャンパス : 1階 事務局

白山麓キャンパス : 1階 事務室

# 個人情報保護について

情報通信技術の著しい発展は、社会一般に急速なインターネットの普及をもたらし、新たな技術や知の創造に大きく貢献しています。社会は、情報を基盤とした高度情報化が進み、大量の情報の流通と瞬時の処理が当然の事象となっています。

今般の高度情報化社会において、情報の重要性がことさらの高まりを見せるなか、特に、在学生をはじめとしてその保護者や卒業生、受験生、教職員などにかかわる個人情報を適正に取り扱うことは、本法人および本法人が設置する金沢工業大学および国際高等専門学校（以下「本学園」という。）にとって極めて重要と認識しており、それら個人情報の適切な利用と保護は当然の社会的責務と受け止めております。

については、高度情報通信社会における個人情報保護の重要性に鑑み、以下の方針に基づき個人情報の保護に努めることを宣言します。

1. 本学園は、個人情報の取扱いにおいて、個人情報の保護に関する法律その他関係法令を遵守します。  
また、「学校法人金沢工業大学個人情報の保護に関する規則」「学校法人金沢工業大学情報セキュリティ・ポリシー」を定め、これを、本学園すべての教職員及び関係者に周知徹底して遵守し、継続的な改善に努めます。
2. 本学園は、個人情報を適法かつ公正な手段によって取得します。
3. 本学園は、個人情報の取得に際し明示した利用目的に沿って、適切に個人情報を取り扱います。
4. 本学園は、個人情報を第三者との間で共同利用し、又は個人情報の取扱いを第三者に委託する場合には、当該第三者につき厳正な調査を行ったうえ、秘密保持のために適正な監督を行います。
5. 本学園は、法令等に定めるものを除き、事前に本人の同意なく個人情報を第三者に提供しません。
6. 本学園は、個人情報を安全かつ正確に管理するため、個人情報への不正アクセス、コンピュータウイルス等に対する適正な情報セキュリティ対策を講じ、個人情報の紛失、破壊、漏えい、改ざんなどを防止します。
7. 本学園は、本人から自己の個人情報についての開示、訂正、利用停止、削除等の要求があった場合には、速やかに対応し適正な措置を講じます。

## 【個人情報の取り扱いに関する問い合わせ先】

国際高専事務局

電話 076 - 248 - 1080

# 資格試験案内

## 2022年度資格試験スケジュール

年	月	資格	試験日	学内受付期間	備考
2022年	5月	MOS (Microsoft Office Specialist) ●Excel/Word他 (第1回)	7日(土)	4月中旬	
		工事担任者 ●一級/総合通信他 (第1回)	15日(日)	1月下旬	二級はCBT※で実施
		MOS (Microsoft Office Specialist) ●Excel/Word他 (第2回)	28日(土)	5月中旬	
		TOEIC ●Listening&Reading (第1回)	29日(日)午前	3月下旬	
		TOEIC ●Listening&Reading (第2回)	29日(日)午後	4月上旬	
		★電気工事士 ●第二種 (上期)	29日(日) 技能試験 7月24日(日)	3月下旬	
	6月	実用英語技能検定 ●2級~3級 (第1回)	4日(土) 二次 7月10日(日)	4月上旬 ~ 中旬	
		2級施工管理技術検定 ●管工事(一次のみ) (第1回)	5日(日)	2月下旬 ~ 3月上旬	事前に願書予約を行い各自で出願する
		映像音響処理技術者資格認定	5日(日)	4月上旬 ~ 中旬	
		2級施工管理技術検定 ●電気工事/建築(一次のみ) (第1回)	12日(日)	1月下旬	事前に願書予約を行い各自で出願する
		日商簿記検定 ●1級~3級 (第1回)	12日(日)	4月下旬	
		秘書技能検定 ●準1級~3級 (第1回)	18日(土)	4月中旬 ~ 下旬	
		実用数学技能検定 ●準1級~3級 (第1回)	18日(土)	4月中旬 ~ 下旬	
		消防設備士 ●甲種/乙種 (第1回)	19日(日)	3月下旬 ~ 4月上旬	
		MOS (Microsoft Office Specialist) ●Excel/Word他 (第3回)	25日(土)	6月上旬	
		デジタル技術検定 ●2級~4級 (第1回)	26日(日)	4月中旬 ~ 下旬	
		TOEIC ●Listening&Reading (第3回)	26日(日)午前	4月下旬 ~ 5月上旬	
		TOEIC ●Listening&Reading (第4回)	26日(日)午後	5月中旬	
	7月	日本漢字能力検定 ●2級~3級	2日(土)	4月中旬 ~ 下旬	申込人数により日時、試験方式を変更する場合あり
		危険物取扱者 ●甲種/乙種 (第1回)	3日(日)	4月下旬 ~ 5月中旬	
		CAD利用技術者 ●2級	9日(土)	6月中旬	IBT※で実施
		3次元CAD利用技術者 ●2級	9日(土)	6月中旬	IBT※で実施
		CG-ARTS検定 ●エキスパート/ベーシック (第1回)	10日(日)	4月下旬	
		知的財産管理技能検定 ●2級~3級 (第1回)	10日(日)	4月中旬	
		MOS (Microsoft Office Specialist) ●Excel/Word他 (第4回)	30日(土)	7月上旬	
	8月	電気主任技術者 ●第一種/第二種	20日(土) 二次試験 11月13日(日)	5月中旬	
		★電気主任技術者 ●第三種 (上期)	21日(日)	5月中旬	
	9月	TOEIC ●Listening&Reading (第5回)	11日(日)午前	7月中旬	
TOEIC ●Listening&Reading (第6回)		11日(日)午後	7月下旬		
MOS (Microsoft Office Specialist) ●Excel/Word他 (第5回)		20日(火)	8月上旬		
生物分類技能検定 ●2級~3級		9月中旬 ~ 10月中旬 (予定)	5月中旬	試験実施期間中、任意の日時を選択して各自で申込	
10月	電気工事士 ●第一種	2日(日) 技能試験 12月11日(日)	6月中旬		
	公害防止管理者 ●大気/水質/騒音・振動/主任管理者 他	2日(日) (予定)	7月上旬 ~ 中旬		
	実用英語技能検定 ●2級~3級 (第2回)	8日(土) 二次 11月13日(日)	7月下旬 ~ 8月上旬		
	消防設備士 ●甲種/乙種 (第2回)	16日(日)	8月上旬 ~ 下旬		
	★宅地建物取引士	16日(日)	7月上旬 ~ 中旬		
	MOS (Microsoft Office Specialist) ●Excel/Word他 (第6回)	29日(土)	10月上旬		
	★危険物取扱者 ●甲種/乙種 (第2回)	30日(日)	7月下旬 ~ 8月上旬		
	★電気工事士 ●第二種 (下期)	30日(日) 技能試験 12月25日(日)	8月下旬		



## 資格取得について／

情報処理技術者や電気工事士、機械設計技術者などさまざまな資格を持っていると、社会に出たときに非常にプラスになります。本校では多くの学生が資格取得できるように、自己開発センターで講座を開講している資格もあります。

(※実施にあたり日程を一部変更する場合があります)

年	月	資格	試験日	学内受付期間	備考
2022年	11月	知的財産管理技能検定 ●2級～3級 (第2回)	6日(日) (予定)	8月上旬～下旬	
		秘書技能検定 ●準1級～3級 (第2回)	12日(土)	9月下旬	
		実用数学技能検定 ●準1級～3級 (第2回)	12日(土)	9月下旬～10月上旬	
		2級施工管理技術検定 ●電気工事/建築 (第2回)	13日(日)	6月下旬～7月上旬	事前に願書予約を行い各自で出願する
		2級施工管理技術検定 ●管工事 (第2回)	20日(日)	6月下旬～7月上旬	事前に願書予約を行い各自で出願する
		日商簿記検定 ●1級～3級 (第2回)	20日(日)	9月下旬～10月上旬	
		★機械設計技術者 ●3級	20日(日)	7月下旬～8月上旬	
		TOEIC ●Listening&Reading (第7回)	20日(日)午前 (予定)	9月下旬	
		TOEIC ●Listening&Reading (第8回)	20日(日)午後 (予定)	10月上旬	
		技術士補 ●技術士一次試験	27日(日)	6月中旬	願書を受け取り各自で出願する
		工事担任者 ●一級/総合通信他 (第2回)	27日(日)	7月下旬～8月上旬	二級はCBT※で実施
		デジタル技術検定 ●1級～4級 (第2回)	27日(日)	9月下旬～10月上旬	
		CG-ARTS検定 ●エキスパート/ベーシック (第2回)	27日(日)	9月下旬～10月上旬	
		電気取扱業務安全衛生特別教育 ●認定講習会	11月下旬 (予定)	10月上旬～下旬	
		12月	MOS (Microsoft Office Specialist) ●Excel/Word他 (第7回)	10日(土)	11月上旬
	TOEIC ●Listening&Reading (第9回)		18日(日)午前	10月下旬	
	TOEIC ●Listening&Reading (第10回)		18日(日)午後	10月下旬～11月上旬	
	IELTS		12月上旬 (予定)	7月上旬～下旬	
2023年	1月	実用英語技能検定 ●2級～3級 (第3回)	21日(土) 二次 2月26日(日)	11月下旬～12月上旬	
		MOS (Microsoft Office Specialist) ●Excel/Word他 (第8回)	28日(土)	12月中旬	
	2月	秘書技能検定 ●2級～3級 (第3回)	5日(日)	12月中旬	
		実用数学技能検定 ●準1級～3級 (第3回)	18日(土)	12月中旬	
		消防設備士 ●甲種/乙種 (第3回)	19日(日)	11月下旬～12月上旬	
		MOS (Microsoft Office Specialist) ●Excel/Word他 (第9回)	25日(土)	2月上旬	
		日商簿記検定 ●2級～3級 (第3回)	26日(日)	12月下旬～1月中旬	
		危険物取扱者 ●甲種/乙種 (第3回)	21日(火)	12月中旬	
	3月	ボイラー技士 ●2級	2月中旬 (予定)	12月上旬	
		知的財産管理技能検定 ●2級～3級 (第3回)	12日(日) (予定)	1月中旬	
		TOEIC ●Listening&Reading (第11回)	19日(日)午前	1月下旬	
		TOEIC ●Listening&Reading (第12回)	19日(日)午後	1月下旬	
★電気主任技術者 ●第三種 (下期)	26日(日)	11月中旬			
	カラーコーディネーター検定 ●アドバンス/スタンダード	公式ホームページで確認 <a href="https://www.kentei.org/color/">https://www.kentei.org/color/</a>	個人で申込(電子申請のみ) IBT※で実施		
	特殊無線技士 ●陸上/航空/海上	公式ホームページで確認 <a href="https://www.nichimu.or.jp/">https://www.nichimu.or.jp/</a>	個人で申込(電子申請のみ)		
	陸上無線技術士 ●1級～2級	公式ホームページで確認 <a href="https://www.nichimu.or.jp/">https://www.nichimu.or.jp/</a>	個人で申込(電子申請のみ)		
	電気通信主任技術者 ●伝送交換/線路	公式ホームページで確認 <a href="https://www.shiken.dekyo.or.jp/chief/">https://www.shiken.dekyo.or.jp/chief/</a>	個人で申込(電子申請のみ)		
	情報処理技術者 ●応用情報他、高度試験のみ (第1回)	公式ホームページで確認 <a href="https://www.jitec.ipa.go.jp/">https://www.jitec.ipa.go.jp/</a>	個人で申込(電子申請のみ) 基本情報はCBT※で実施予定		

※CBT(Computer Based Testing)/IBT(Internet Based Testing)とは、コンピュータやインターネットを利用して実施する試験方式です。

※★マークの付いた資格試験は講習会を開催予定です。

※備考欄に受付場所の記載がない限り、すべて自己開発センターで受付します。

※学内願書受付期間は事務手続きに日程を要するため、主催者側の締切日より早くなっています。試験日程や受付期間をよく確認し申し込みをしてください。

※この予定表は2022年1月現在のものです。今後の情勢により、試験日や受付期間、受付方法等が変更となる場合があります。

# 施設案内

ライブラリーセンター

情報処理サービスセンター

自己開発センター

数理工教育研究センター

夢考房

スポーツ考房（トレーニングルーム）

自然学苑・セミナーハウス

FM—N1

扇が丘診療所

金沢工業大学内簡易郵便局

サービス施設

その他の施設

※各施設の場所は、キャンパスマップに載っています

# ライブラリーセンター

KIT-LC

## ライブラリーセンターを

## 「遊び」こなそう！

ライブラリーセンター（LC）では、予習や復習、レポート課題などの課外学習を充実させるため、図書や雑誌、電子書籍などの情報を準備しています。求める情報がうまく見つからないときは、学習支援デスクを訪ねてください。大学・高専の教員が、サブジェクトライブラリアン（SL）となって、相談を受け付けています。その他、レファレンスカウンターでは所蔵情報や学術情報の検索方法、ライティングセンターでは文章作成についての相談も受け付けています。

### 開館時間

月曜日～金曜日… 8：30～22：00

土曜日…………… 8：30～17：00

日・祝日……………10：00～17：00

※学園事情により変更する場合があります。LC ウェブサイトで確認してください。

### 入館

KIT-LC CARD（学生証の裏面）をかざして入館します。KIT-LC CARD を忘れた場合は、1階インフォメーションカウンターに申し出てください。

### 所蔵情報の検索（LINKIT-Ⅲ）

所蔵情報の検索には「LINKIT-Ⅲ」を利用します。館内に設置されている検索端末の他、学外からでも利用でき、スマートフォンにも対応しています。



[linkit.kanazawa-it.ac.jp/drupal/](http://linkit.kanazawa-it.ac.jp/drupal/)

### 貸出返却

2階レファレンスカウンター前にある自動貸出返却装置を利用してご自身で手続きしてください。貸出にはKIT-LC CARD が必要です。貸出期間と貸出冊数は次表のとおりです。

利用者区分	貸出期間	貸出冊数
高専第1～4学年	1週間	制限なし
高専第5学年	2週間	

延滞図書（返却期限を過ぎた図書）がある場合は、返却するまで新たな貸出はできません。

### 利用状況の確認（マイライブラリ）

貸出中の資料や貸出履歴など、ご自身の利用状況を「マイライブラリ」で確認できます。LC ウェブサイトからアクセスしてください。

### 図書の予約

貸出中の図書に予約をすると、図書が返却された際、優先的に利用することができます。また、長期間貸出予定の図書に予約をした場合、返却予定日が来ていなくても、優先的に利用できます。「LINKIT-Ⅲ」検索結果画面から申し込んでください。

### 図書の購入

学生図書購入要望票に必要事項を記入し、提出してください。学生図書購入要望票は、LC ウェブサイト「学内専用ページ」→「ダウンロード（資料・案内）」よりダウンロードできます。

### 文献複写

所蔵していない文献の複写物を外部機関から取り寄せることができます。詳細は、LC ウェブサイト「資料の探し方」→「レファレンスサービス」を確認してください。

### LC ウェブサイト

詳しい利用方法や最新の情報を掲載しています。分からないことがあったらまずはウェブサイトを確認してください。



[www.kanazawa-it.ac.jp/kitle/](http://www.kanazawa-it.ac.jp/kitle/)

**館内施設****■インフォメーションカウンター.....1F**

総合案内及び各種受付窓口です。展示室やAV室、グループ学習室などの利用予約は、こちらで受け付けています。学外の友人や家族がLCの見学を希望した場合は、こちらに申し出てください。

**■総合フロア.....2F**

レファレンス資料、人文・社会・自然科学、資格・就職、文庫・新書、白書・規格、英語多読図書など、一般的な教養図書があります。

**■学術雑誌コーナー.....2F**

専門分野に関する国内外の学術雑誌があります。興味のある分野の研究動向の調査や、論文作成の際に役立ててください。

**■ブラウジング／新聞コーナー.....2F**

ブラウジングコーナーには、趣味・娯楽・教養雑誌があります。新聞コーナーでは、全国紙や北海道から沖縄までの全国の地方紙など、60余紙を閲覧することができます。

**■レファレンスカウンター.....2F**

図書の貸出、返却、予約をはじめ、資料や文献の探し方、資料が見つからないなどの相談や問い合わせに応じえています。

**■学習支援デスク.....2F**

専門基礎学力向上のための相談窓口です。教員がサブジェクトライブラリアン（SL）として決められた時間帯にデスクに待機し、学習相談や個別指導などを実施しています。SLの担当スケジュールは、LCウェブサイトを確認してください。

**■ライティングセンター.....2F**

文章作成についての相談窓口です。小論文や就職活動での自己PR文、手紙など、さまざまな文章の添削やアドバイスをしています。受付時間はライティングセンター前の掲示を確認してください。

**■検索コーナー.....2F**

所蔵情報を検索できるシステム「LINKIT-Ⅲ」を利用するための検索端末が設置されています。また、グループ閲覧席も設けています。使用後は、整理整頓を心掛けてください。

**■STEM・ビブリオ・プラザ.....2F**

科学技術の発展をテーマ別に、所蔵する貴重書（「工学の曙文庫」）でたどる企画展示をしています。また、科学の定理・法則・原理などを体験・体感できるコーナーや、科学に関する書籍コーナーも併設しており、このフロア全体が科学、技術、工学そして数学の融合とその本質を洞察する「広場」となっています。

**■Digital Contents Factory（DCF）.....2F**

CG・映像・音楽などを制作・編集できる高性能パソコンを設置し、学生のデジタルコンテンツ制作活動を支援しています。また、AV資料を利用することもできます。利用を希望する場合は2階DCFカウンターにお申し出ください。

**■PMC（ポピュラー・ミュージック・コレクション）**

次ページ参照。

**■Knowledge Square、グループ学習室.....3F**

グループで勉強会などが行える部屋です。使用後は、整理整頓を心掛けてください。

**■分野別フロア.....5～10F**

専門分野の図書が分野別に置かれています。各フロアにはグループ学習室や個別学習室もあり、個人での自習やグループでの勉強会ができます。使用後は、整理整頓を心掛けてください。

10階	化学・バイオ系、生命・心理系
9階	環境・都市工学系、建築計画・デザイン系
8階	力学応用系、材料工学・加工工学系、建設工学系
7階	機械工学系、資源・エネルギー工学系
6階	電気工学系、電子・通信工学系
5階	情報工学系、経営管理工学系

# Library and Work Commons 高専 白山麓キャンパス

高専白山麓キャンパスにあるLibrary and Work Commonsは、LCと連携したサテライト図書館として、皆さんの学習をサポートしています。

**利用方法**

白山麓キャンパスの生活ルールに則って利用してください（入館の手続きはありません）。

**所蔵情報の検索（LINKIT-Ⅲ）**

LINKIT-Ⅲを利用して検索します。Library and Work Commonsにある資料のみ検索したい場合は、詳細検索モードを使用し、「所蔵館」を「白山麓キャンパス」に設定して検索してください。

**貸出返却**

Library and Work Commons 1階に設置してあるPCを利用して、ご自身で手続きしてください。貸出にはKIT-LC CARD（学生証の裏面）が必要です。

# PMC Popular Music Collection KIT-LC 3階

## 音楽シーンを語る時、 忘れてはならない曲の数々。

ライブラリーセンター3階にあるPMC（ポピュラー・ミュージック・コレクション）は、26万枚を超えるアナログレコード中心のコレクション。全国の音楽愛好家からの寄贈によって構成され、現在も所蔵枚数は増え続けています。PMCフロアには、常時1万5千枚のレコードやCDが排架されているほか、情報検索システム「LINKIT-Ⅲ」で希望のタイトルを探せるようになっています。試聴にはボディソニック（体感音響装置）というオーディオ設備が用意されています。また、各自のレコードやCD、携帯音楽プレーヤーを持ち込んで聴くこともできます。

### 利用時間

月曜日～金曜日…… 8:30～22:00  
土曜日…………… 8:30～17:00  
日曜日・祝日……10:00～17:00

### 利用の手順

- ① 聴きたいレコードやCDを選ぶ。
- ② レコードやCDと学生証をカウンターに提示する（レコード返却時まで学生証は預かるシステム）。持ち込みの場合もカウンターに学生証を提示する。
- ③ ボディソニックで試聴する。
- ④ 聴き終わったレコードやCDをカウンターへ返却すると学生証が戻される。

※レコードは大変傷つきやすいものなので、大切に取扱ってください。

### ■所蔵レコード

#### ポピュラー

ジャズ&フュージョン  
海外のロック&ポップス  
イージー・リスニング  
映画&TV音楽  
カントリー&ウエスタン、フォーク  
シャンソン、カンツォーネ  
日本のロック&ポップス  
その他

#### クラシック

交響曲  
管弦楽曲  
協奏曲  
室内楽曲  
器楽曲  
歌劇  
声楽曲  
音楽史  
現代曲  
その他

#### その他

童謡・ホームミュージック  
日本のメロディ  
日本の民謡  
邦楽曲  
民族音楽  
音楽以外のもの

# 情報処理サービスセンター 6号館240室

金沢工科大学園のキャンパスには、ギガビットのバックボーンネットワークを核にした高速ネットワークが張り巡らされ、大容量のサーバーをはじめ、教育・研究用のワークステーションや高性能パソコンが接続されています。また、キャンパス内随所に無線LANのアクセスポイントが設けられ、教材をはじめ、修学に必要なさまざまな情報をサーバーからダウンロードしたり閲覧することができます。

情報処理サービスセンターでは、ICTを活用した高度な教育・研究環境構築に向けた各種支援を行っています。

詳しい情報：<http://uranus.mars.kanazawa-it.ac.jp/dpc/>

## ■窓口取り扱い時間

6号館240室

月曜日～金曜日…8:30～17:20

土曜日……………8:30～13:00

## ネットワークの提供 6号館240室

ネットワークを利用するには、情報倫理（インターネットを活用する上でのルールやマナー）に関する学習コース（INFOSS）を受講し、理解する必要があります。

### ■無線LANによるネットワーク接続（要申請）

キャンパス内に設置されたアクセスポイントを経由し、学内ネットワークやインターネットを利用することができます。

（関連情報：<http://uranus.mars.kanazawa-it.ac.jp/dpc/wireless-lan/>）

### ●無線LANのアクセスポイント対象エリア

金沢キャンパス 各教室（401～406室）、多目的実験室I（117室）

白山麓キャンパス 校舎棟全域

ライブラリーセンター 1階ラウンジ、2階総合フロア、4～11階分野別フロア  
自習室（7号館1階）

レストラン LA TERRA（21号館1階）

※昼食時間帯は利用できない

カフェテリア IL SOLE（21号館2階）

※昼食時間帯は利用できない

コンビニエンス ACQUA 下フロア（27号館1階）

※昼食時間帯は利用できない

etc.

### ■VPNによるネットワーク接続（要申請）

「Remote-VPN サービス」を利用して、自宅のパソコンからインターネットを経由し、学内ネットワークに接続することができます。（関連情報：<http://uranus.mars.kanazawa-it.ac.jp/dpc/ras2/>）

## AVに関する各種サービス

情報処理サービスセンターAV室(12・402)ではゼミ、研究を目的とした映像・音声に関する各種サービスを行っています。

詳しい情報：<http://mercury.kanazawa-it.ac.jp/av/>

### ■視聴覚機器貸出(事前申請が必要)

各種メディアプレーヤー、プロジェクター、カメラなどを貸し出しています。

### ■視聴覚資料制作

プレゼンテーションなどの視聴覚資料の出力サービスを行っています。

- 動画データ変換
- 静止画データ
- ビデオプリント
- その他AV資料制作など

### ■映像・音声に関する技術相談

なんでも気軽に相談してください。

### ■AVIS(Audio Visual Instruction System)の紹介

学内ネットワークを利用し、AV資料(学内で行われた各種講演会や講義・各プロジェクトの活躍など)を視聴できます。

# コンピュータネットワーク利用 について

情報処理サービスセンター

金沢工大学園のコンピュータネットワークは、インターネットに繋がり、教職員や学生が学内外の関係者との、さまざまなコミュニケーションに活用しています。

このインターネットを中心とした「コンピュータネットワーク社会」においても、一般社会と同様に他者に迷惑をかけた、不快な思いをさせないために各利用者が

遵守すべきルールやマナーがあります。情報倫理に関する学習コース Infoss の受講などを通して情報リテラシーを身に付けましょう。

また、インターネットサービスやアプリなどは、利用規約などを良く理解した上で利用し、被害者と加害者のどちらにもなることのないよう気を付けてください。

## 金沢工大学園「コンピュータネットワーク利用規範」

情報処理サービスセンターは、正規の利用者が金沢工大学園のネットワークならびに情報処理サービスセンターが管理運用するサーバーコンピュータへのアクセスを保証し、一方で不正なアクセスを排除し安定した運用を確保する責任を負っています。

この責任には、利用者が遵守すべき行動の基準（規範）および違反した場合の懲戒について利用者に告知することが含まれます。この規範に違反した場合、その行為の結果に係わらず利用者IDの使用停止や取消処分を行う場合があります。

金沢工大学園のネットワークは、インターネットを経由して世界中の膨大な数のネットワークに接続しています。利用者は、ネットワークを使用する際のすべての行為に対して責任を負うとともに、法律・法令の遵守が義務づけられています。

- (1) 利用者IDを虚偽に申請したり、不正に他人の利用者IDを使用しない。
- (2) 自分の利用者IDを他人に使用させない。他人に使用させた結果として、他人の行為に対しても、自分が全責任を負う。
- (3) システム資源を大量に消費することにより他の利用者の正常な使用を妨害したり、コンピュータシステムの正常な運用を妨げるような行為により、他の利用者に迷惑もしくは損害を与えない。（求められていないゴミメールやチェーンレターの送信を禁止する。また、故意にコンピュータシステムを混乱させる行為や有害なプログラムの持ち込みを禁止する。）
- (4) 営利、非営利を問わず、商用を目的とした利用はしない。
- (5) 他人のプライバシーを侵害したり、他人を誹謗中傷しない。
- (6) 嫌がらせや、公序良俗に反する行為、その他脅迫的行為をしない。
- (7) 著作権の対象になっているものに対して、著作権者の許可や正規のライセンスなしにこれを侵害しない。

また、利用が急増している Twitter、LINE、Instagram、Facebook などのソーシャルメディア利用についても注意が必要です。ソーシャルメディアに公開した情報を閲覧しているのは友人だけとは限りません。違法行為、個人への中傷などの書き込みは、炎上と呼ばれる誹謗中傷、個人攻撃に発展する事もあります。また、投稿した画像がコピーされた場合は、それらを消去する事は不可能であり、永遠にネット上を漂う事となるので、自分自身・関係者のプライバシーを守るという意識も必要です。ソーシャルメディアを利用する際、書き込む内容には十分注意する事を心掛けましょう。



# 自己開発センター 8号館2階

## 在校中に資格を取ろう。

各種資格の取得についてサポートをしています。

学内での資格試験の申込手続きはもちろん、試験会場についても、できる限り学内で受験できるようにしています。また、年に1回「LICENSE」という資格の情報誌も発行していますので、時間のあるときに見てみてください。一部の資格については試験対策講習会も開講しています。

初代所長の「資格は実力の証明、学歴は無限の可能性への保証」という言葉にあるように、資格取得は毎日の勉強へのモチベーション維持や就職活動の際のアピール材料としてなど、様々な場面で心強い味方になってくれるはずです。ぜひ在校中に資格取得にチャレンジしてください。

資格に関する質問・相談も受付しています。気軽に訪ねてきてください。

詳しい情報：<http://www.kanazawa-it.ac.jp/shikaku/>

### 利用時間

月曜日～金曜日…… 8：30～17：20      土曜日…… 8：30～13：00

### 推奨資格

※資格詳細などは自己開発センターへお尋ねください。

#### ●情報関係

情報処理技術者（基本情報ほか）  
CG-ARTS 検定  
（CGクリエイター／CGエンジニア／マルチメディアなど）  
デジタル技術検定

#### ●機械関係

機械設計技術者（3級）  
CAD 利用技術者（2次元・3次元）  
組み込みソフトウェア技術者試験（ETEC）

#### ●電気・電子関係

電気主任技術者  
電気工事士  
消防設備士  
工事担任者  
電気通信主任技術者  
陸上無線技術士  
特殊無線技士

#### ●土木・建築関係

宅地建物取引士

#### ●語学関係

IELTS  
TOEIC  
実用英語技能検定  
日本漢字能力検定  
日本語検定

#### ●実務関係

危険物取扱者  
Microsoft Office Specialist（MOS）  
品質管理検定  
知的財産管理技能検定  
秘書技能検定  
日商簿記検定  
実用数学技能検定  
カラーコーディネーター検定  
低圧電気取扱業務特別教育認定講習

# 数理工教育研究センター 23号館4・5階

## 学生一人ひとりの数理リテラシーを 充実させる。

「普段の授業でわかりにくい点がある」「数学、物理、化学や生物の理解を深めたい」など、数理分野の学習に関する質問や相談に本センターの“チューター（個別指導教員）”が、いつでも・わかりやすく・丁寧に応えてくれます。

また、「大学の数理・データサイエンス・AI教育課程」の授業に直結した演習等の学習プログラムを各種開設し、皆さんの学習状況にあった学習サポートやアドバイスをしています。

また、数理に関連する問題集やポイント集、eラーニングを無償で提供し、これらの教材を活用した皆さんの自学自習もサポートしています。

このほか、学生を中心とした自主的な知的活動を展開する「数理考房」では、学生さんたちの数理に対する知的好奇心の向上に繋がる各種プロジェクト活動を行っています。

些細なことでも数理の学習についての質問、相談等があれば、数理工教育研究センターを訪ねてください。

センターホームページ：<https://www.kanazawa-it.ac.jp/efc/index.html>



### 利用時間

月曜日～金曜日…… 8:30～18:00      土曜日…… 8:30～13:00      （日曜日・祝日は休館）

### 主な支援活動

#### ■ 学習支援機能

##### ● チューターによる個別学習指導

予約不要！個人でもグループでも、数学や理科の質問することができ、センターの教員（チューター）が丁寧に学習のサポートをしてくれます。

※ Zoom を利用した遠隔での学習支援については予約が必要です。

##### ● おたスケータイ（わからない問題を写真で送信して質問！）

数学や理科、化学に関する質問をメールで受け付けます。予習・復習等でわからない問題を携帯で写真に撮り、以下のアドレスに送信すると、ヒントが48時間以内にネットチューターから届きます。

おたスケータイ！ 写真を送っていつでも、どこからでも質問！  
efc-support@milst.kanazawa-it.ac.jp



#### ■ 各種学習支援講座・プログラム

##### ● 授業科目の各種学習サポート

- 学生同士の学びあいの場の提供
- 動画などによる学習支援教材の提供 . etc

##### ● 数理リテラシー特別講座

- 専門分野への導入となる特別講座  
正課の授業では学べない専門分野につながる学習内容です。

##### ● ステップアップのための講座

- EMaT（工学系数学統一試験）講習会 . etc

#### ■ 学習教材の提供

無償で配付しています。学内ネットワークからのダウンロードも可能です。 ※ 詳しくはセンターまでお問い合わせください。

- 基礎力アップ数学問題集
- 物理、化学のポイント集（副読本）
- 歴史に学ぶ「力学」
- KIT 数学ナビゲーション／KIT 物理ナビゲーション

基礎的な数学、物理の内容を網羅した Web コンテンツ。  
基本的な数学、物理の公式を整理して掲載しているので、辞書のように利用できます。

<http://w3e.kanazawa-it.ac.jp/math/>  
<http://w3e.kanazawa-it.ac.jp/math/physics/>

「KIT数学ナビゲーション」

「KIT物理ナビゲーション」



#### ■ 数理考房（学生プロジェクト）

数学や物理に興味・関心を持つ学生が中心となって、いろいろな知的プロジェクトを企画し、実現することで自分を成長させる場です。現在は、「数検にチャレンジ！プロジェクト」、「理工学基礎プロジェクト」、「染色体解析プロジェクト」「物理プロジェクト」の4プロジェクトが活動しています。

## 夢考房 41号館

# ライセンス取得から始まる、ものづくり。 サポート万全、夢考房。

夢考房は、自由に利用できる作業環境。ものづくりの喜び、失敗の経験、試行錯誤の数々、仲間たちとの議論は工学の原点です。

夢考房では、手工具から各種工作機械までを取り揃え、多様なものづくりに対応する機能があり、常駐する技師や学生スタッフから適切なアドバイスを受けることができます。

なお、金沢工業大学の夢考房プロジェクトの活動の場ともなっているため、見学や参加を希望する学生は、訪ねてみて下さい。

### ■夢考房の機能

- 「ものづくり」を行う場所として活用できます。
  - 「ものづくり」に必要な道具が揃っています。
  - 各種材料・部品を提供するパーツショップもあります。
  - 安全な「ものづくり」を支援する技師と学生スタッフがいます。
- 気軽に相談してください。
- 11種類の夢考房ライセンス講習会を開講しています。ぜひ、受講しましょう。

その他、ものづくり、安全作業に関することは、何でも相談してください。

### 利用方法

学生証で入館手続きをすれば、全学生が自由に使用可能。但し、安全に作業を行うために、使用する工具・機械によって「夢考房ライセンス」を取得しなければならないものもあります。

### 利用時間

月曜日～金曜日……8:40～21:00 土曜日……………8:40～17:00

休日……………9:30～17:00

詳しい情報や開館日は、HPで確認できます。

<http://www.kanazawa-it.ac.jp/yumekobo/>

### 夢考房ライセンス講習会

#### ■申し込みは夢考房のホームページで!!

開講時間は、月曜日から金曜日の17:15～20:00、土曜日および休業中は13:00～15:45の2時間45分。講習会の予約は、開講日4日前の8:00から受付開始。2日前の7:50時点で定員を超えた場合は、抽選となります。やむを得ぬ理由で予約をキャンセルする場合もホームページで行います(行えない場合は、夢考房まで知らせてください)。無断欠席した場合は、ペナルティとしてそれ以降30日間予約ができません。

### 主な機能

- ものづくり相談
- 測定
- 金属加工
- 木材加工
- 樹脂加工
- 3Dプリンタによるプラスチック造形
- 溶接
- 塗装
- レーザー加工
- 模型製作
- 自転車の修理
- テニスラケットのガット張り
- スキー&スノーボードチューンナップ
- 電子回路/プリント基板製作
- パーツショップ

### 夢考房プロジェクト

- ソーラーカープロジェクト
- 人力飛行機プロジェクト
- ロボットプロジェクト
- エコランププロジェクト
- 建築デザインプロジェクト
- フォーミュラカープロジェクト
- カニカボットプロジェクト
- 義手研究開発プロジェクト
- 小型無人飛行機プロジェクト
- 組込みソフトウェアプロジェクト
- 人工衛星開発プロジェクト
- RoboCup@Homeプロジェクト

# スポーツ考房（トレーニングルーム） 第2体育館2階

## 気軽に トレーニングルームへ。

トレーニングルームでは、多種多様なエクササイズマシンを揃え、毎日楽しく元気に過ごせる健康づくりやチャンピオンスポーツとして勝つための身体づくりができます。また、腰痛や肩こり、ダイエットなど個々に合わせたアドバイスも行っているので気軽にスタッフに相談してください。

まずは、利用者講習会に参加しよう！

詳しい情報：<http://mercury.kanazawa-it.ac.jp/sports-k/>

### 利用時間

月曜日～金曜日 ……17：30～20：00

土曜日 ……9：00～16：00

（学生休業中は変則日程になります）

- 体育授業中は利用できません。
- 入学式、卒業式などの行事は休館になります。

### 利用者講習会

水曜日 ……16：15～17：15 （受付時間 ……16：00～）

木曜日 ……17：15～18：15 （受付時間 ……17：00～）

- 申込方法：受講日の2日前8:30から、トレーニングルーム予約サイトよりお申込みください。

<http://license.etc.kanazawa-it.ac.jp/sp-entries>

### 設備

- ストレングスマシン ……18種類
- カーディオマシン ……14台
- ランニングコース（1周155m）
- 身長体重計、体脂肪計、血圧計
- バランスボール、ストレッチボール、ダンベル、縄跳びなど

# 自然学苑・セミナーハウス

## 大自然を満喫。

### 天池自然学苑

天池自然学苑は、本学園から車でおよそ 25 分。金沢市南東部の広大な丘陵地に、約 21 万平方メートルにわたって広がっています。研究施設の他、体育館、ラグビー場、野球場、ゴルフ練習場があります。

#### 【利用の問い合わせ】

高専事務局

#### 【施設管理】

金沢工業大学施設部（6号館1階）

●学苑面積／約 206,000m<sup>2</sup>

#### ●体育施設

体育館、ラグビー場

野球場

ゴルフ練習場

●駐車場／約 200 台収容

### 池の平セミナーハウス

池の平セミナーハウスは、金沢から車でおよそ 3 時間。上信越高原国立公園の雄大な自然の中、目の前には「須弥山」と呼ばれた美しい山容の妙高山を望めます。そして豊富な温泉。

#### 【利用の問い合わせ】

高専事務局

#### 【施設管理】

金沢工業大学総務課



# FM-N1 コミュニティFMラジオ放送局

## インターネットやスマートフォンで同時配信。 映像や文字情報も楽しめる最先端の 「マルチメディア・ラジオ」

FM-N1は、KITが中心となって野々市市や地域の企業と共に1995年に開局したコミュニティFMラジオ放送局です。現在、全国に約340局あるコミュニティFM局の中でも、FM-N1は最先端を走るラジオ局です。2008年より番組を電波による放送だけではなく、インターネットやスマートフォンに同時放送も行い、パソコン画面で映像や文字情報なども楽しめます。さらに、ツイッターの活用など、1つの番組をさまざまな媒体で楽しめる「マルチメディア・ラジオ」を実現しています。

金沢工大28号館にオシャレで開放的な本社スタジオを有し、送信アンテナは6号館LC屋上にあります。本社の5つのスタジオは加賀五彩に色分けされ、1F交流フロアはライブなど多様な用途で賑わっています。2FはFM-N1で番組制作をするWAVEプロジェクトの活動拠点で専用スタジオも備えています。また、白山麓キャンパスの第6スタジオSHIRAYAMAでは、国際高専の外国人教員が英語で放送し、また、学生が参加して高専や白山麓の話題を発信しています（第3・第4・第5火曜放送、各日曜再放送「課外授業の勧め」）。

### 工大生・高専生が作り手となるFM局

FM-N1は24時間放送し、番組は100%自主制作です。番組はインターネットによって全世界に発信できるものの、FM-N1の理念、目指すところはあくまでも地域密着・地域貢献。FM-N1の番組制作・発信をするための、金沢工大生からなるWAVEプロジェクトがあることも大きな特徴です。スタッフをはじめ、話題豊富な地域の一般サポーター、生徒や学生等多くの参加者達のセンスと若さ元氣あふれた番組を一週間に約150本制作発信しています。参加はいつでもOK、君も番組づくりに参加しよう。

### 番組制作に参加する2つの方法

#### ■基礎講習を受けて、KIT Campus Wave

KIT Campus Waveは、学生のWAVEプロジェクトが制作している金沢工業大学提供の生放送番組。発声練習や番組制作一般の知識（機材の扱い方や適正で正確な放送表現と技術）などを教えてくれる基礎講習会を受講し、番組制作にあたります。

基礎講習会の開催については、FM-N1（28号館1階）にお問い合わせしてください。

#### ■緊急時には

大災害が発生した場合は、このFM-N1が活躍する。学園からの情報も放送されます。

#### FM-N1聴取方法

- ラジオは FM76.3MHz
- インターネット同時配信は FM-N1 ホームページから (<http://fmm1.jp/>)
- スマートフォン・タブレットは各種アプリから (Listen Radio など)



# 扇が丘診療所 11号館1階

## キャンパス内の診療所

学内に設置されている内科の診療所です。体調不良時の診察や健康診断などを実施しています。

### 基本情報

診療時間：平日 月～金 午前9:00～12:00  
水曜日のみ午後も診療（13:30～16:00）

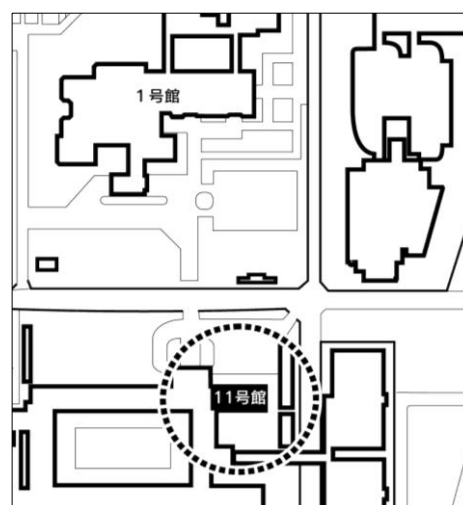
休診日：土・日・祝

体調不良で受診を希望する場合は必ず電話で確認の上、来所してください。

直通電話：076(246)1393

窓口対応時間：平日 8:30～17:00

持参するもの： ●学生証  
●健康保険被保険者証（遠隔地被保険者証）



### その他

- ・対応が困難な場合は、近隣の医療機関への紹介を行っています。困っている症状があるが「どこを受診すれば良いのか分からない」場合は、相談してください。
- ・就職等のための健康診断証明書の発行を行っています。
- ・診療所内の自動血圧計、身長体重計、体組成計は窓口対応時間であれば自由に使用できます。
- ・必要に応じ車椅子・松葉づえ・体温計などの貸し出しをしています。

### ■学園内にAEDを設置しています



AED（自動体外式除細動器）はAutomated External Defibrillator の頭文字をとったもので、心室細動などによる心停止者に電気ショックを与え、心臓の動きを正常に取り戻させる機器です。設置場所は1号館1階、7号館1階、11号館1階（診療所前）、21号館1階（食堂）、23号館2階、24号館2階、26号館1階、ライブラリーセンター1階、31号館1階（ICT事務室前）、40号館1階、41号館1階、第1体育館、南校地守衛棟。この他に、白山麓キャンパス校舎棟1階（エントランス・風除室）およびイノベーションハブ、八東穂キャンパス、天池自然学苑、池の平セミナーハウスなどにもあり、左記のAEDマークが掲示してあります。

# 金沢工業大学内簡易郵便局 5号館1階

学内には簡易郵便局があります。ATM（貯金自動預払機）によるキャッシュサービスも利用できるため仕送りにも便利です。不在のために受け取れなかった郵便物をこの簡易郵便局に転送し、キャンパスの中で受け取ることもできます。また簡易郵便局に直接送れば取り次ぎもします。

## 学内簡易郵便局窓口取り扱い時間

月曜日～金曜日……………9:00～16:00（貯金・保険）

月曜日～金曜日……………9:00～17:00（郵便）

土曜日……………9:00～12:30（郵便）

（土曜日は切手などの販売、転送された郵便物の引き渡しのみ）

## 学内簡易郵便局窓口取り扱い業務

●切手・はがき・印紙の販売 ●ゆうパックおよび郵便物の取り次ぎなど（日本郵便（株）） ●貯金、振替、為替、交通反則金、国民年金（（株）ゆうちょ銀行） ●保険（（株）かんぽ生命保険）

## 不在郵便物を学内簡易郵便局へ転送する場合

「郵便物等お預かりのお知らせ」のはがきの「他の郵便局で受け取り」欄に

**金沢工業大学内簡易郵便局**

と、記入してポストへ投函するか郵便局窓口へ。

## 郵便小包などを学内簡易郵便局に直接送付する場合

次のような宛先とし、氏名と携帯電話番号または学籍番号を記入してください。

〒921-8812 石川県野々市市扇が丘 7-1

金沢工業大学内簡易郵便局留置

学生氏名（携帯電話番号または学籍番号）

荷物が届いたら、学内テレビ掲示または携帯電話へ連絡します。

## 学内簡易郵便局への問い合わせ先

076-246-2142（直通） 076-248-6372（FAX）

## ATMコーナー

### ●ゆうちょ銀行……………5号館1階

■取り扱い時間（※他の金融機関へ送金が可能）

月曜日～金曜日……………9:00～17:30

土曜日……………9:00～12:30

日曜日・祝日……………休み

### ●北國銀行……………8号館1階

■取り扱い時間

月曜日～土曜日……………9:00～18:00

日曜日・祝日……………休み

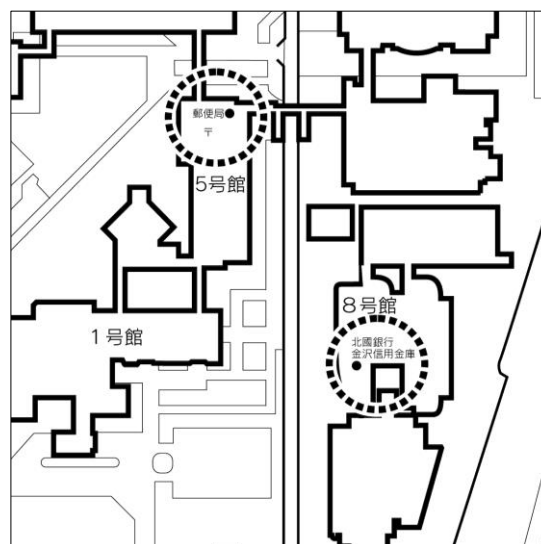
### ●金沢信用金庫……………8号館1階

■取り扱い時間（※出金のみ可能）

月曜日～金曜日……………9:00～18:00

土曜日……………9:00～17:00

日曜日・祝日……………休み





# サービス施設

## レストラン LATERRA 21号館1階

ボリュームのあるメニューから、ヘルシーなメニュー、そして単品メニューも充実。自分に適した食事がチョイスできます。さらに、サラダバー・惣菜バーでは自分で好きな量を取ることができるので、野菜不足もこれで解消。

<http://kit-group.jp/>

**営業時間**／月～金…8：00～10：00  
 (モーニングタイム)  
 10：00～15：00  
 (ランチタイム)  
 16：00～19：00  
 (ディナータイム)  
 土……………10：00～13：00

## カフェテリア ILSOLE 21号館2階

落ち着いた雰囲気ですランチを楽しみたい時は、イルソレで。

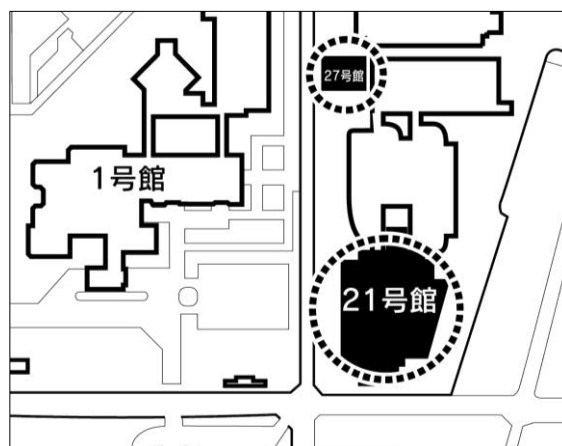
セットメニューは、週替わりで毎日2種類あるので、選ぶ楽しみがあります。また、その場で豆を挽く本格的なコーヒーも楽しめるので、授業の合間にブレイクタイムをどうぞ。

**営業時間**／月～金…10：00～15：00

## Yショップ アクア店 27号館

焼きたてパン、豊富な種類のお菓子やドリンク、また専用マシンによる本格コーヒーの提供も行っています。朝のモーニングコーヒーや3時のおやつは、コンビニエンス ACQUA で！

**営業時間**／月～金…8：30～19：00  
 土……………8：30～13：30



## KITブックセンター 21号館2階

本・雑誌は8%引き、文具は20%引きで販売しています。教科書はもちろん、専門書、資格本、就職本が充実しています。話題の本など、きめ細かいラインナップが自慢です。文具では製図用品など特殊なものも揃えています。高専体操服の注文販売もしています。もちろん、商品の取り寄せにも迅速に対応してくれます。詳しくはHPをご覧ください。

<https://www.kit-group.jp/>

営業時間／月～金…8：30～17：00

営業時間／土……………8：30～13：00

## KITサービスセンター 21号館2階

高速バス等のチケット購入、国内・海外旅行のお申し込みが出来ます。また、学生向け総合保険の窓口、自動車学校の紹介、金沢工業大学生・国際高等専門学生向けのKIT指定学生アパート・寮の紹介（住まいサポートデスク）など、様々なサービスを提供しています。

[https://www.kit-group.jp](https://www.kit-group.jp/)

営業時間／月～金…9：00～17：30

／土……………9：00～13：00

# その他の施設

## 自習室 7号館102室（7号館1F）

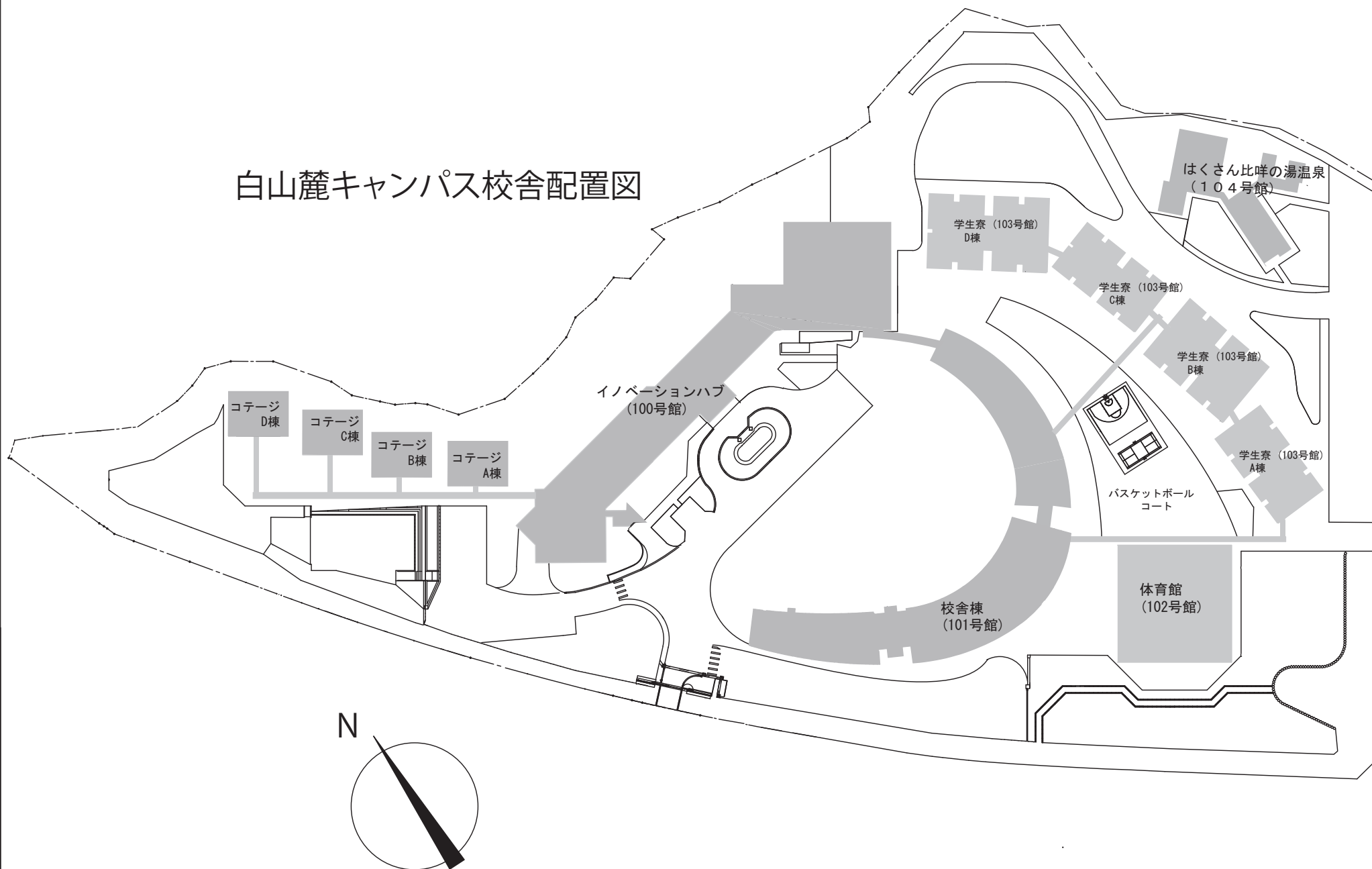
365日24時間利用することができます。ただし、第1～3学年の利用は21時までです。入室には終日、利用者カード（学生証）が必要です。室内には、情報コンセントも設置されています。使用後は、整理整頓を心掛けてください。

# キャンパス マップ

白山麓キャンパス校舎配置図

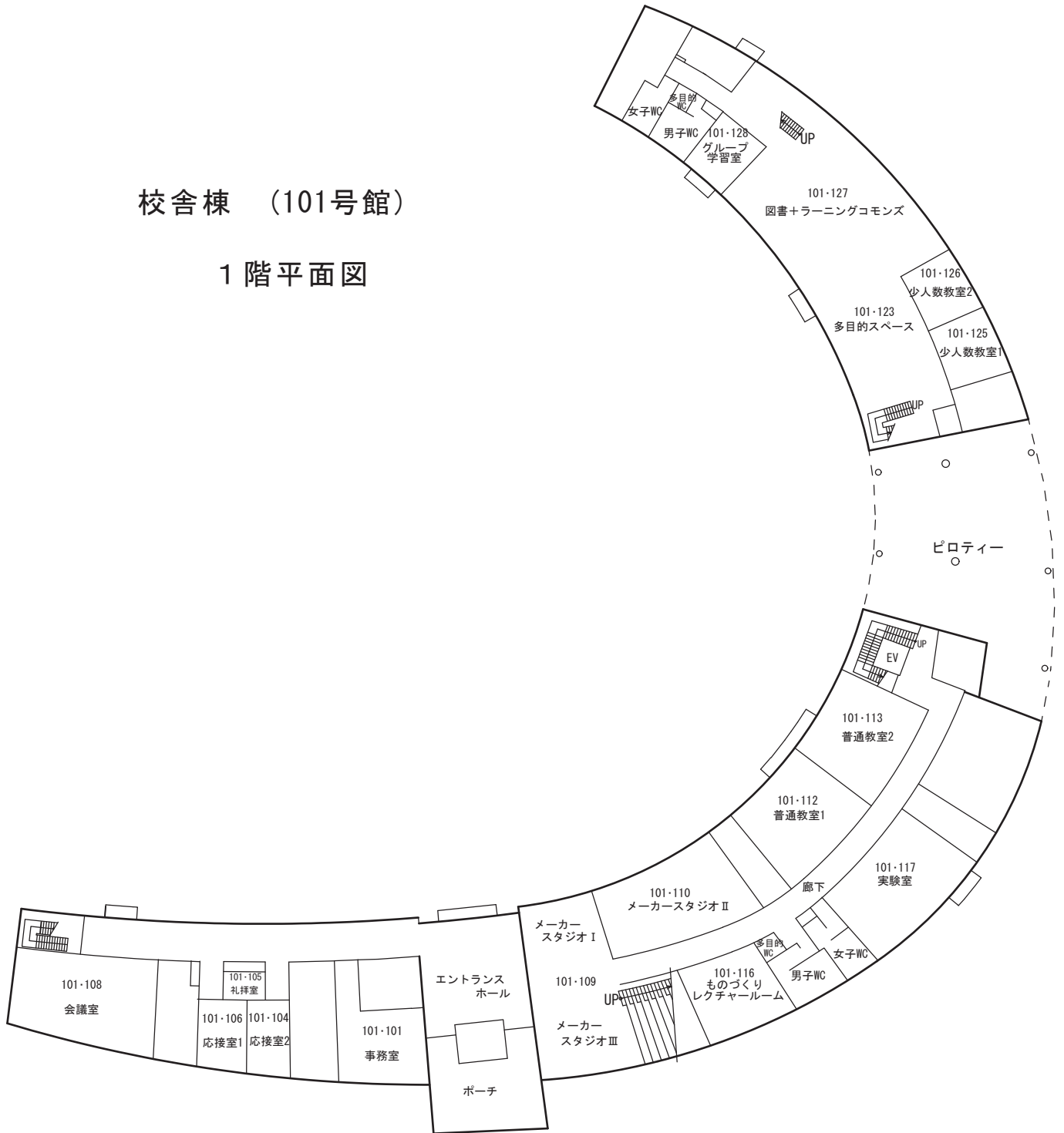
金沢キャンパス校舎配置図

# 白山麓キャンパス校舎配置図



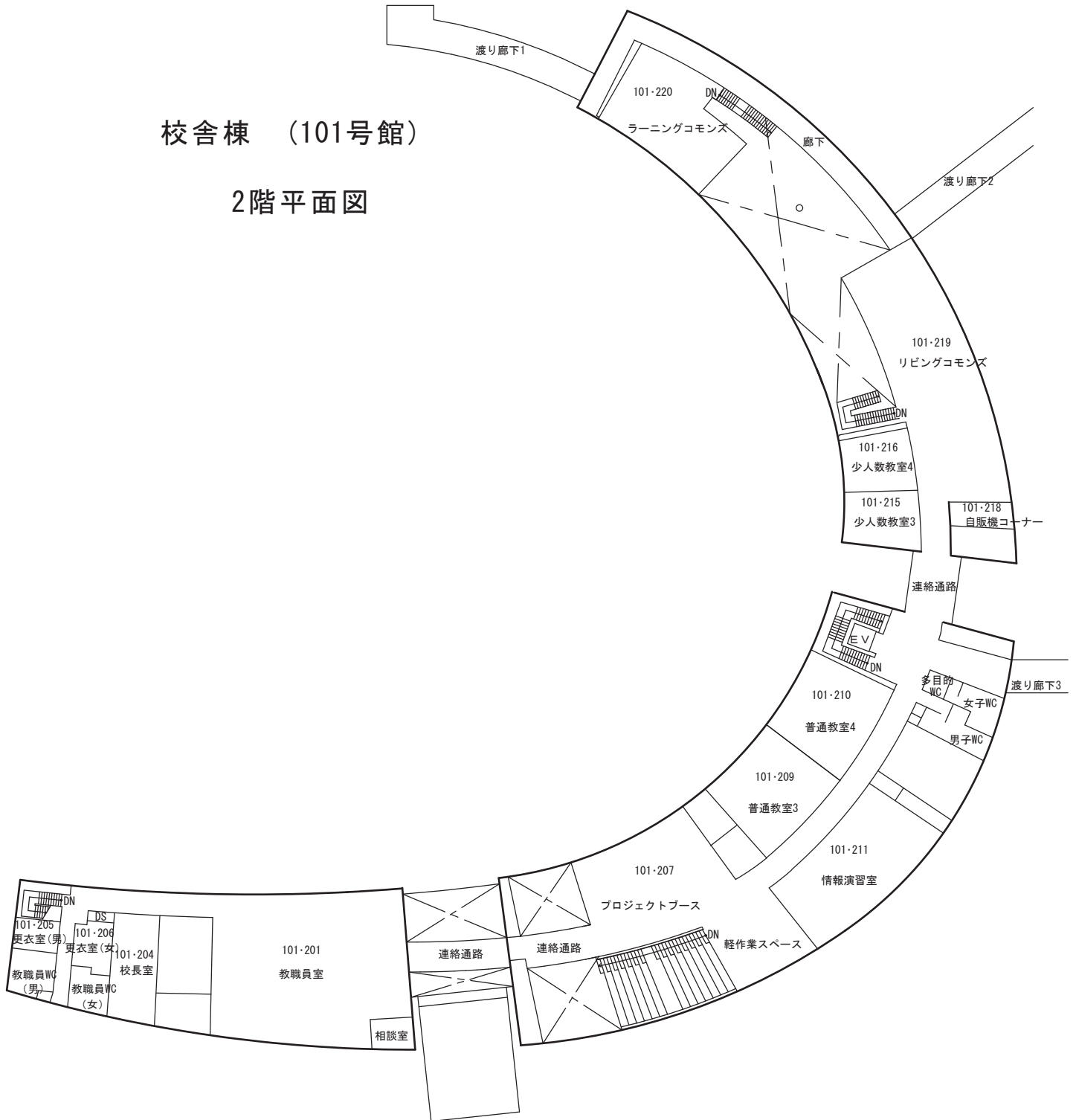
# 校舎棟 (101号館)

## 1階平面図

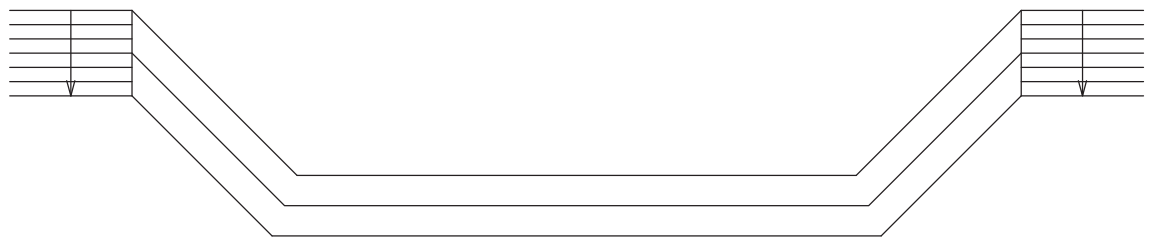
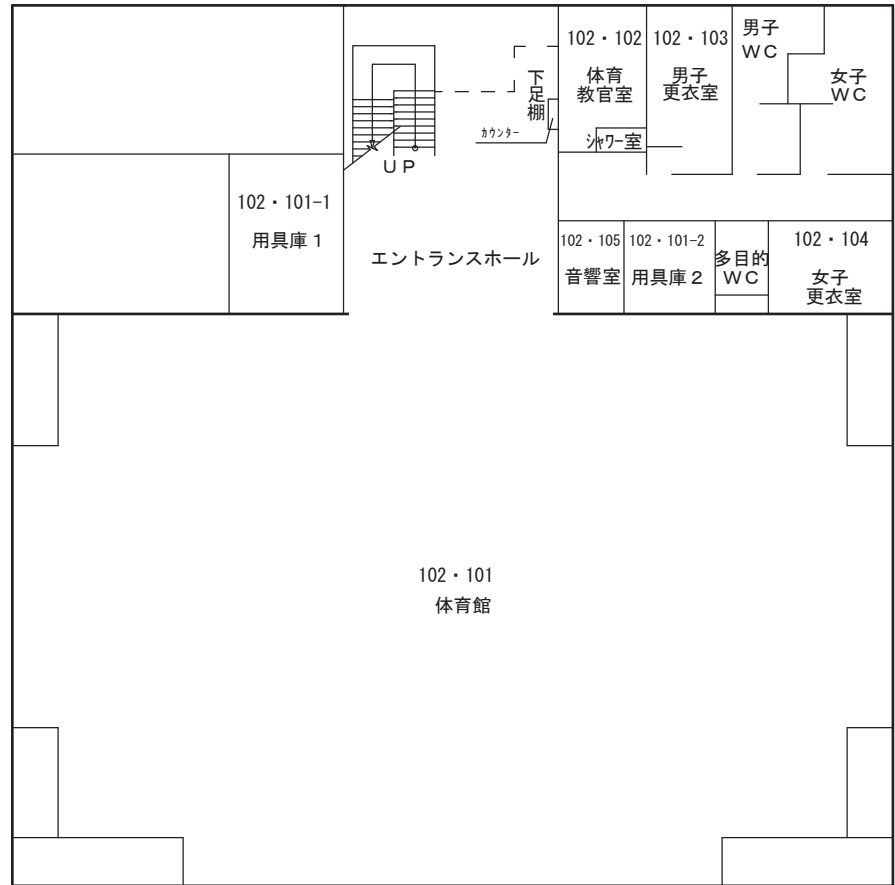


# 校舎棟 (101号館)

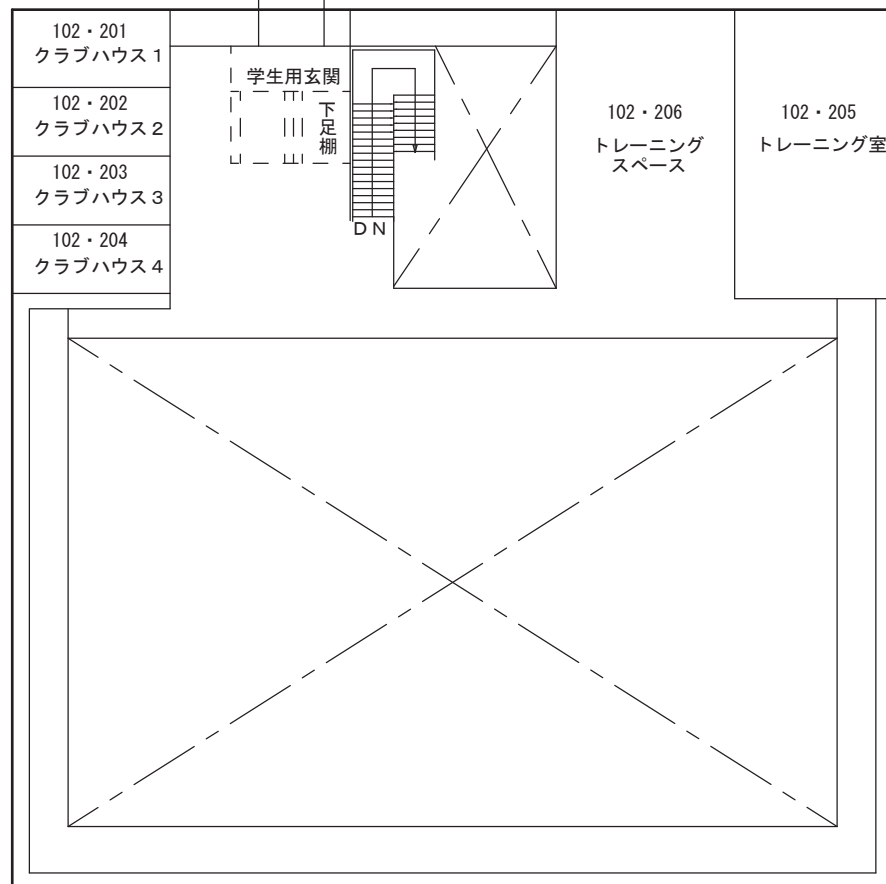
## 2階平面図



# 体育館 1階 (102 号館)

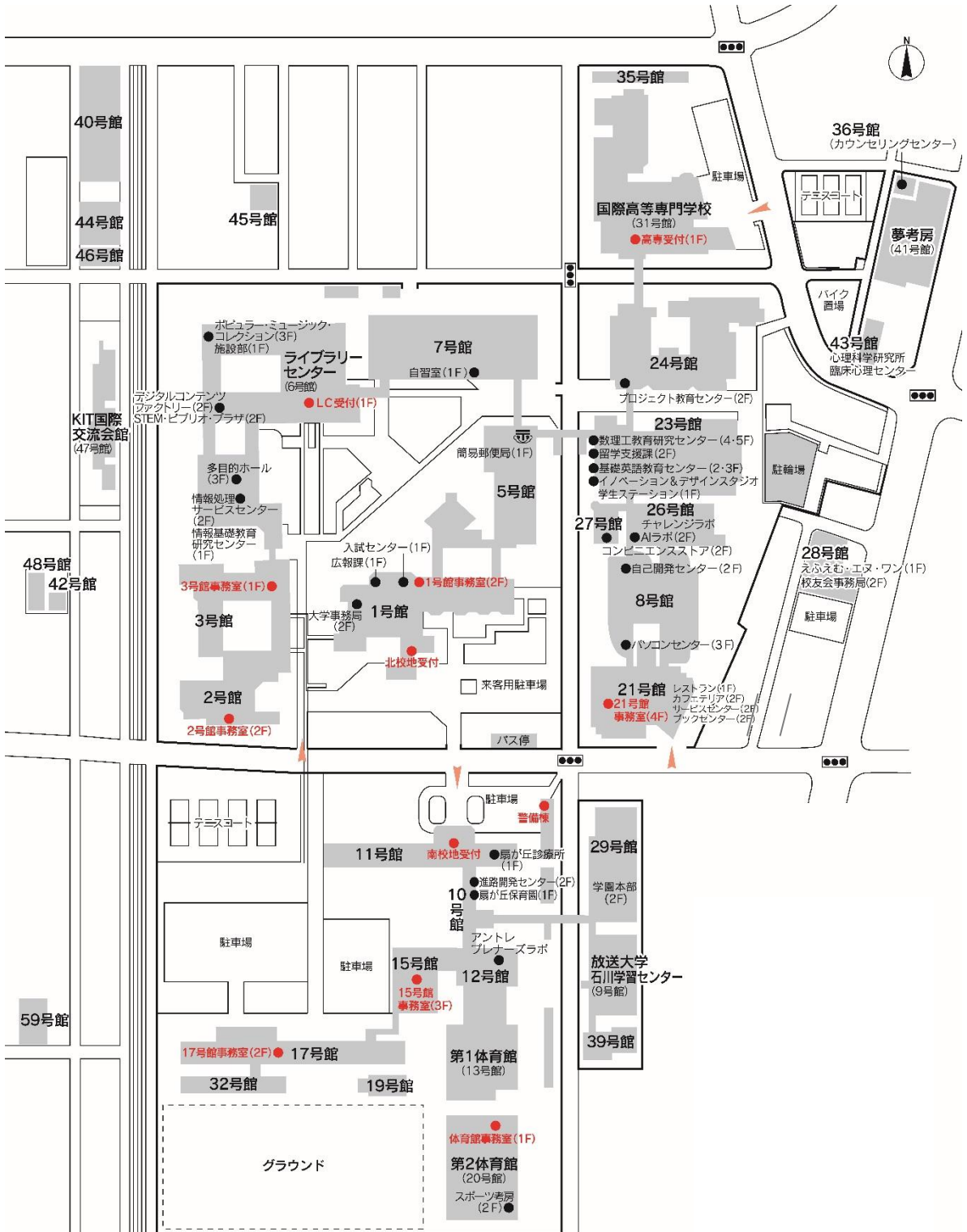


## 体育館 2階 (102 号館)





# 金沢キャンパス校舎配置図



# ティーチング スタッフ 2022

# 校長



校長  
教授

**ルイス・パークスデール**

Lewis Barksdale

## ■略歴および専門分野

アメリカンスクール イン ジャパン（東京都）出身  
米国フロリダ州エカード大学比較文化科卒。ハワイ大学大学院修士課程（英語教授法）修了。テキサス大学大学院博士課程（外国語教育）満期退学。名古屋金城学院短大、高等部、中等部で英語教員を務め、その後ハワイ大学で英語学を担当。金沢工業大学教授を経て平成26年、金沢工業高等専門学校校長就任。専門は外国語教育。第2言語習得における学習者ストラテジーの研究に従事。

## ■横顔

理知的で物静かであるが非常に鋭い観察力を持つ先生である。長年に亘って金沢工業大学の英語教育を牽引してきた。人生の4分の3を日本で過ごしているため、日本のことは日本人以上に深く理解し愛している。

## ■趣味

ワイン、読書（歴史・科学・小説）、クラシック音楽

## ■近況

年齢を重ねていくことの楽しみの一つは、発達させるのに時間が掛かる新しい嗜好を身につけていけることである。自分でも驚いたことに、最近私はヨーロッパ19世紀のオペラに興味を持ち、有名な作品を聞き始めた。同時期の日本の伝統芸能に人形浄瑠璃と歌舞伎があるが、これらも奥深いものである。これからもこのような芸術作品を探求していきたい。

# 副校長



副校長  
教授

**向井 守**

Mamoru Mukai

## ■略歴および専門分野

野田中学校（石川県）出身  
大阪学院大学外国語学部英語学科卒。セントマイケルズ大学大学院修士課程（第二言語としての英語教授法）修了。昭和59年本校講師就任。助教授を経て、平成9年教授。平成24年金沢工業高等専門学校副校長就任。専門は外国語としての英語教授法（TEFL）と第二言語修得（SLA）。現在教材開発の研究に従事。

## ■横顔

いつも明るく笑顔を絶やさない。学生にも優しく、親身になって話してくれる。本校の英語教育と国際交流の草分け的存在であり、海外の協定校にとっては“顔”的存在である。英語のスピードは、母国語の日本語よりも速いという定評がある。

## ■趣味

映画、旅行、スポーツ鑑賞

## ■近況

英語を学問としてではなく、伝達手段のための言語として修得できるような雰囲気づくりを目指している。



教授  
博士(工学)

## 伊藤 恒平

Kouhei Ito

### ■担当科目

流体力学、材料工学、エンジニアリングデザイン

### ■略歴および専門分野

的場中学校(北海道)出身  
防衛大学校航空宇宙工学教室卒。防衛大学校理工学研究科(航空宇宙)修了。筑波大学大学院博士後期課程(コンピューターサイエンス)修了。陸上自衛隊野整備中隊、川崎重工業会社研修員、防衛庁技術研究本部第3研究所光波誘導研究室を経て、平成18年本校助教授就任。平成21年教授。専門は制御工学、システム工学。

### ■横顔

「身は奴隷の境涯にあって鉄鎖につながれていてもその心は自由である。いかなる暴君と言えどもその志を奪うことはできない」。志を持ち、学生が志を持てるよう学生教育に専心努力していきたい。

### ■趣味

マイクロマウス(ロボット)製作、ロボコン参加

### ■近況

全日本マイクロマウス競技とそれに伴い行われる地区大会に出場するのが毎年の楽しみ。



教育点検主事  
クラスター研究室主任  
教授  
博士(理学)

## 伊藤 周

Meguru Ito

### ■担当科目

コンピュータスキルズ、物理、エンジニアリングデザイン

### ■略歴および専門分野

北辰中学校(石川県)出身  
慶應義塾大学理工学部物理学科卒。東京大学大学院理学系研究科理学部博士後期課程(天文学)修了。国立天文台ハワイ観測所研究員、ビクトリア大学(カナダ)研究員を経て、平成24年10月本校講師就任。平成27年10月准教授。平成31年教授。専門は光学、天文学。「近赤外シラレットエンベロープの統計的研究およびレーザーガイド星システムにおける光ファイバー伝送の特性」で学位取得。現在は水中におけるレーザーアプリケーションの開発と工学教育に関する研究に従事。

### ■横顔

天文望遠鏡用装置の開発を大学院で志したところ、なぜか海外にある研究所、大学を渡り歩くことに。海外にいた経験も踏まえて学生にものづくりの楽しさを伝えたいと考えている。

### ■趣味

読書、ゲーム、写真

### ■近況

最近あまり写真を撮っていないことに気づき、一念発起しようとしているところ。白山の風景は季節ごとに異なる美しさを見せてくれますが、冬の雪景色が一番好きです。



教授  
哲学博士・Ph.D.(歴史学)

## 上田 清史

Kiyoshi Ueda

### ■担当科目

歴史文化、歴史文化(英語)

### ■略歴および専門分野

第三中学校(東京都国立市)出身  
米国・ミズーリー州立大学歴史学部卒業。カナダ・トロント大学東アジア学部修士課程修了。カナダ・トロント大学歴史学部博士課程修了。カナダ・トロント大学歴史学部助手。東京大学社会科学研究所客員研究員。法政大学法学部兼任講師。イスラエル・イェルサレムヘブライ大学東アジア学部客員教授。上智大学国際教養学部非常勤講師を経て、平成29年9月本校教授就任。専門は近現代日本史。

### ■横顔

幼い頃から国内外の色々な所で生活し、学び、研究し、人生のほぼ半分を国外で過ごしてきました。テニス選手として五大陸・四十数カ国を訪れています。

### ■趣味

「歴史」への理解を深める事。

### ■近況

金沢特有の「強い風・横降りの雪・冬の雷」をまれに見る自然現象と感嘆し、日々過ごしています。学生には歴史の授業を通して色々な観点・見方があることを「発見」してもらい、自由な発想で考えてほしいと願っています。



教授

## 宇都宮 隆子

Takako Utsunomiya

### ■担当科目

英語表現技法、総合英語

### ■略歴および専門分野

城南中学校(石川県)出身  
フェリス女学院大学文学部英文学科卒。セントマイケルズ大学大学院修士課程(第二言語としての英語教授法)修了。金城学園遊学館高等学校非常勤講師、NCN米国大学機構北陸地区スクーリング講師、金沢工業大学講師を経て、平成23年本校准教授就任。平成28年教授。専門は英語教授法(TESOL)。

### ■横顔

学生の皆さんを笑顔にする授業、必死な顔にさせる授業、どちらも私の理想とするところですが、なかなかもって難しいものであります。

### ■趣味

旅行、美術館めぐり、デパ地下散策

### ■近況

小学生の頃、夏休み毎日通ったラジオ体操。あの頃は、音楽に合わせてただ体を動かしているだけでしたが、今になると、その1つひとつがなぜそのような体の動きをしなくてはいけないのかが、体が硬くなってきただけによくわかります。「イタタ…」と言わずにすむよう、規則的な運動をしなくてはと思っています。



教授  
工学博士

## 大塚 作一

Sakuichi Ohtsuka

### ■担当科目

エンジニアリングデザイン、コンピュータスキルズ、メディア情報

### ■略歴および専門分野

野田中学校（石川県）出身  
金沢大学工学部卒業。同大学院工学研究科修士課程修了。工学博士（北海道大学）。昭和55年日本電信電話公社（現NTT）入社。NTT研究所、株式会社NTTデータ等を経て、平成19年より国立大学法人鹿児島大学教授。令和3年本校教授就任。専門は、視覚心理学、ヒューマンインタフェース、ディスプレイ工学など。（社）電子情報通信学会平成14年度業績賞、平成18年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）、など受賞。

### ■横顔

大学では電子工学を専攻しました。電電公社に入社後、研究所で専門としたのは画像通信でした（本研究で博士号を取得）。その後、ディスプレイ研究に必要な視覚特性を研究するために専門分野を学際的な視覚心理学に変えております。また、職務経験としては、研究グループリーダーなどを歴任し、NTTデータ在職中は新規事業の受注も担当しました。鹿児島大学に異動後は、ICT機器の普及と人間の認知特性の変化についても研究しています。これからの時代も常に変革が求められていると感じています。

### ■趣味

鉄道、写真、など

### ■近況

久しぶりに大学まで生活していた金沢に戻るのを楽しみにしております。



教授  
博士（情報科学）

## 木原 均

Hitoshi Kihara

### ■担当科目

解析基礎、基礎数学、微分積分

### ■略歴および専門分野

水巻南中学校（福岡県）出身  
広島大学学校教育学部中学校教員養成課程卒業。北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士前期課程修了。北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程修了。北陸先端科学技術大学院大学研究員、研究生を経て、平成20年8月本校講師就任。平成24年准教授。平成31年教授。専門は数理論理学。博士論文「Substructural Logics an algebraic study」で学位取得。

### ■横顔

学生たちの素朴な疑問や問いかけを大切にしており、常に笑顔を忘れないように心がけている。中学時代は勉強嫌いだったが、今では教える立場となり、学生には自信を持ってもらいたいと考えている。

### ■趣味

読書、ジョギング

### ■近況

金沢は山や海が近く、また文化や歴史が深いので、毎日とても楽しく過ごしています。



学生主事  
教授

博士（芸術）

## 小高 有普

Arihiro Kodaka

### ■担当科目

エンジニアリングコンテキスト、エンジニアリングデザイン、コンピュータスキルズ、ビジュアルアート

### ■略歴および専門分野

森本中学校（石川県）出身  
金沢美術工芸大学美術工芸学部産業美術学科工業デザイン卒業。企業内デザイナー、デザイン事務所勤務後、デザイン事務所設立。金沢工業大学非常勤講師、本校非常勤講師、金沢美術工芸大学非常勤講師を経て、平成24年本校准教授就任。令和2年教授。専門は産業機械、住宅設備、公共設備などの工業デザイン。金沢美術工芸大学大学院博士後期課程（プロダクトデザイン）修了。『工業系高専における『創造性』喚起のためのデザイン教育導入の研究』で学位取得。

### ■横顔

美しい形と素材には目が無い。「モノ」から伝わるメッセージ、「コト」から始まるアクション…、日々生活の中で感じる何かを大事にしています。

### ■趣味

釣り、野球、車

### ■近況

オンとオフはできるだけ切り離そうと努力している。オフで体力を充電するつもりが、消耗し続けている。体調には十分配慮したいです。



教授  
博士（工学）

## 小間 徹也

Tetsuya Koma

### ■担当科目

機械製図、応用物理、エンジニアリングデザイン

### ■略歴および専門分野

泉中学校（石川県）出身  
金沢工業大学機械工学科卒業。金沢工業大学大学院博士後期課程（高信頼ものづくり専攻）修了。パナソニック（株）勤務を経て、平成20年本校講師就任。平成27年准教授。令和2年教授。専門はメカトロニクス。「ダンピング機能を備えたULV用増速式リニア型発電サスペンションの開発とその実証研究」で学位取得。

### ■横顔

ねばい（あきらめの悪い）性格でカーブがなかなか投げられない固い人間と本人は思っているが、人の意見に左右されやすい楽道家とも言われる。

### ■趣味

スナック写真、スキー

### ■近況

昨春に買ったズボンがまたキツくなってしまいました…。あまり食べないようにしないといけません。今年度もよろしくお願いたします！



教授

イアン・スティーブソン

Ian Stevenson

#### ■担当科目

リスニング・スピーキング、ブリッジイングリッシュ

#### ■略歴および専門分野

ニューハンプシャー大学人文学部卒。デンバー大学大学院修士課程（国際政治学）修了。セントマイケルズ大学大学院修士課程（第二言語としての英語教授法）修了。マギール大学ビジネススクール日本校（MBA）修了。テキサスA&M大学大学院修士課程（教育学、STEM専攻）修了。韓国、コロンビア、アメリカ、東京での英語教師およびワシントンDCでの研究助手を経て、平成21年本校講師就任。平成24年准教授。平成26年教授。専門は英語教授法（TESOL）。

#### ■横顔

先生も学生も、常に学び続け、自分の知識や技術を増やしていくことが大切です。また、自分自身に挑戦し、失敗してそこから学ぶことも重要です。

#### ■趣味

ランニング、読書

#### ■近況

私は、2009年から国際高専で英語を教えています。その間、多くの事を学びました。これからもさらにさまざまな事を学ぶことを期待しています。



教授

工学博士

千徳 英一

Eiichi Sentoku

#### ■担当科目

Maker Studioの管理

#### ■略歴および専門分野

鳥越中学校（石川県）出身  
金沢工業大学機械工学科卒。同大学大学院博士課程（機械工学）修了。金沢工業高等専門学校教授、副教育改革主事を経て、平成13年金沢工業大学教授、基礎実技教育課程主任を経て、平成29年本校教授就任。  
専門：セラミックス、切削加工学、工学設計、粉体粉末冶金協会参事1988年～現在  
論文・著書：サーメット工具のすくい面摩耗機構に関する研究（学位論文）、プロジェクトデザイン入門、I・II、実践、共立出版。

#### ■横顔

本学機械工学科6期生で恩師に「努力、持続、感謝」の工作魂を学び、現在も忠実に守っている。教育で最も重要なことは、学生との信頼関係であると考え、日々の学生とのコミュニケーションを大切にしている。

#### ■趣味

アマチュア無線（JR9RPD）、石川県無線赤十字奉仕団と石川県電波適正利用推進協議会に所属し、皆さんと無線交信を楽しんでいます。また、写真を撮るために旅行を楽しんでいます。

#### ■近況

現象を深く観察し、ある仮説を立てる。これが実験で確認できたとき大きな感動を覚える。学生と共に学び、考える「教学半」の精神で毎日を過ごしている。



教授

瀧本 明弘

Akihiro Takimoto

#### ■担当科目

保健体育

#### ■略歴および専門分野

額中学校（石川県）出身  
日本体育大学体育学部体育学科卒。金沢工業大学助教授を経て、平成18年本校教授就任。専門は体育方法学、個人運動学、球技。著書に『パスの達人』。論文に“本学学生の体力に関する縦断的研究”など。

#### ■横顔

スポーツマンらしく、明るく親しみやすい先生。学生をやさしく導くように教育される。しかし、目標を決めたときのきびしさや、粘り強さには定評があり、金沢工大のハンドボール部を毎年北信越のNo. 1に育てあげた。得意の運動分野も広い。

#### ■趣味

服飾研究、カラオケ、健康整体

#### ■近況

北信越学生ハンドボール連盟副会長。石川県ハンドボール協会常任理事。えふえむ・エヌ・ワンで毎月2回生放送に出演。



教授

博士（工学）

谷口 萌未

Moemi Taniguchi

#### ■担当科目

アントレプレナーシップ

#### ■略歴および専門分野

中国出身。長岡技術科学大学情報・制御工学専攻博士後期課程修了。北陸先端科学技術大学院大学助手を経て、平成7年日本電気（株）入社。海外新規事業の企画、立上げ、ベンチャー投資などを担当、マーケティングとグローバルビジネス開拓の経験を積み、平成24年金沢工業大学准教授を経て、平成26年本校准教授就任。平成27年10月教授。専門はマーケティング、グローバルビジネス企画・マネージメント、経営学。

#### ■横顔

変化が好きです。何事も楽しく前向きに臨みたい。工学で学位を取得後、企業で新規ビジネス開拓に従事。長く海外ビジネスに携わっていたため、しっかりビジネスマインドになりました。

#### ■趣味

旅行、ショッピング、料理、ホームパーティー、飲コミュニケーション、落語、卓球、屋外活動

#### ■近況

忙しい毎日ですが、自分の時間もしっかり作りたい。効率を上げるために知識を活用することを常に意識するよう学生に、そして自分に要求しています。



教授  
博士（工学）

## 林 道大

Michihiro Hayashi

### ■担当科目

材料力学、エンジニアリングデザイン、機械工学、機械要素設計

### ■略歴および専門分野

紫錦台中学校（石川県）出身  
金沢大学工学部機械システム工学科卒。金沢大学大学院博士後期課程（システム創成科学）修了。地元の機械メーカーにてF A・物流関連機器の開発設計などを経て、平成23年本校准教授就任。平成26年本校教授就任。専門は機械設計工学、ロボット工学。「発見的手法によるマニピュレータの動的効果を考慮した軌道生成」で学位取得。

### ■横顔

普通のサラリーマン生活が長かったので「先生」と呼ばれることに慣れていません。呼んでも返事が無かったら、もう一度大きな声で呼んでください。

### ■趣味

モータースポーツ、工作

### ■近況

健康維持のため、少しだけダイエット中です。ただし、おいしいものは体に良いらしいので、誘われれば断れないかもしれません。



教務主事  
教授

## 藤澤 武

Takeshi Fujisawa

### ■担当科目

エンジニアリングデザイン、データベース

### ■略歴および専門分野

奈古中学校（富山県）出身  
富山大学工学部電子工学科卒。イントラネットやインターネット関連の業務に従事。ネットベンチャー企業の執行役員や役員、独自の動画テクノロジーを用いた動画配信サービスをメインとしたWEBサービスの構築業務を経て、平成23年本校准教授就任。平成26年教授。

### ■横顔

慎重な割には好奇心が強く色々と手を出してみたい。そのせいか仕事では火中の栗を拾うことが多い。

### ■趣味

音楽鑑賞

### ■近況

これからは仕事もプライベートも無理せず、そして体にいい事を始めたい。と長年、言い続けている。



教授  
博士（工学）

## 藤島 悟志

Satoshi Fujishima

### ■担当科目

コンピュータアーキテクチャ、情報数学、プログラミング

### ■略歴および専門分野

板津中学校（石川県）出身  
豊橋技術科学大学知識情報工学課程卒。豊橋技術科学大学大学院博士後期課程（機能材料工学専攻）修了。関西学院大学博士研究員、豊橋技術科学大学助教を経て、平成21年本校准教授就任。平成31年教授。専門は知識情報工学。「化学構造のTFS表現による薬物構造データマイニングに関する研究」で学位取得。現在、データマイニング、知識発見、BMI/BCIに関する研究に従事。

### ■横顔

老後の生活を見据えて、必要な知識を習得中。

### ■趣味

旅行、野球、読書

### ■近況

ライフワークバランスの重要性を認識し、実践していきたい。



修学支援主事  
教授  
博士（学術）

## 札野 寛子

Hiroko Fudano

### ■担当科目

日本語、日本語コミュニケーション、生活と文化

### ■略歴および専門分野

武生第三中学校（福井県）出身  
国際基督教大学（ICU）教養学部語学科卒。同大学大学院教育学研究科博士前期課程（教育方法学）修了。East Texas State University大学院修士課程（英語学）修了。U. of Oklahoma大学院に在籍。名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士後期課程（日本語教育学）修了。ICUおよびオクラホマ大学日本語教育非常勤教育助手を経て、平成2年金沢工業大学講師就任。同助教授を経て平成18年同教授。令和2年本校教授就任。専門：日本語教育、プログラム評価、プログラム論、アカデミックジャパニーズ研究。論文・著書：「日本語教育プログラム評価に関する研究」（学位論文）、著書に『日本語教育のためのプログラム評価』、『科学技術基礎日本語：留学生・技術研修生のための使える日本語』『21世紀のカレッジ・ジャパニーズ大学生のための日本語で読み書き、伝えるスキル』他

### ■横顔

何語であれ、とにかく言葉を学ぶこと、そして文構造などについて考えることが大好きです。時間ができたら、学生時代にかじったスペイン語をもう一度勉強したいと考えています。

### ■趣味

ウォーキング、ヨガ、音楽鑑賞

### ■近況

最近では、日本語を教えるための技術向上や教材開発に加えて、少子高齢化の進む日本での外国人留学生や労働者の受入れ拡大に伴う社会的使命を踏まえた日本語教育プログラムの役割やその在り方の検討に取り組んでいます。



教授  
Ph. D

## ポーリン・ベアード

Pauline Baird

### ■担当科目

ブリッジイングリッシュ、リーディング・ライティング、生活と文化

### ■略歴および専門分野

シリル・ポッター・カレッジ・オブ・エデュケーション 教員免許（読書指導）取得、[ガイアナ]ガイアナ農業学校 ディプロマ（農業科学）取得、[米国]アンドリュース大学卒業（英語）、[米国]セントマイケルズ大学大学院修士課程（第二言語としての英語教授法）修了、[米国]ポーリング・グリーン州立大学大学院博士課程（英語修辞法）修了、[米国]グアム大学英語・応用言語学部講師（カリブ語と文化的修辞学 英語／文学）、金沢工業大学英語講師（EEC）を経て、平成30年本校教授就任。

研究テーマ： 文化的修辞学、ESL修辞学、女性と地域に根ざした修辞学（ストーリー・アズ・メソドロジー）

### ■横顔

姉妹であり、友人であり、作家であり、犬派の先生。旅行と教えることが大好き。10年ぶりに日本に戻り、国際高専で教えることにしたのは、日本で教えることが大好きだから。教えることと旅を通して、3つの大陸（南米、北米、アジア）、太平洋の島々（グアム、パラオ）、カリブ海（トリニダード・トバゴ）にて、多くの素晴らしい学生と出会い、指導してきました。これまで学生、職員、教員とともに多くの素晴らしい学びの冒険ができましたので、これからもそうありたいと願っています。

### ■趣味

散歩、旅行、ガーデニング

### ■近況

著書に「Wah Dih Story Seh? An Oral Traditional in the Guyanese village, Buxton」、「Navel String」、「Whispers in Our Ears」、「Encounters」（Afro-Caribbean Proverb Journals）の4冊があります。自身にとって初めての子供作家であるLael Willsを指導し、「The Move: The Diary of a 12-year-old Girl from Brooklyn」を出版しました。月刊コラムニスト：BuxtonFriendship Express News Magazine。カルチュラル・ストーリーテラー兼プロデューサー：YouTubeとFacebookで「Wah Dih Story Seh」を配信中。



国際理工学科長  
校長補佐  
教授

## 松下 臣仁

Omihito Matsushita

### ■担当科目

エンジニアリングデザイン、エンジニアリングコンテキスト

### ■略歴および専門分野

岩出中学校（和歌山県）出身  
関西外国語大学外国語学部英米語学科卒。セントマイケルズ大学大学院修士課程（第二言語としての英語教授法）修了。イリノイ工科大学大学院修士課程（デザイン方法論）修了。平成15年本校講師就任。平成21年准教授。平成28年教授。専門は英語教授法（TESOL）、デザイン方法論。

### ■横顔

いつも穏やかでありながら頼りがいがあります。長いアメリカでの生活から役に立つ英語の使い方を教えてくれます。また留学中は留学生アシスタントとして働いていた経験から世界中に友達がいいます。世界各地の話題が授業の中で紹介されるでしょう。

### ■趣味

サッカー（インターハイ出場）、映画鑑賞

### ■近況

授業を通じて国際高専生のスクールライフを豊かにし、共に語り合う機会を持っていきたいと思っています。



研究プロジェクト主任  
教授

## 山崎 俊太郎

Shuntaro Yamazaki

### ■担当科目

エンジニアリングコンテキスト、エンジニアリングデザイン

### ■略歴および専門分野

豊玉第二中学校（東京都）出身  
筑波大学基礎工学類卒業。同大学院理工学研究課物理学専攻修了。NEC中央研究所 研究統括マネージャー。NECスマートエネルギー事業本部 副事業本部長。金沢工業大学客員研究員／金沢工業高等専門学校客員教授を経て、平成30年1月本校教授就任。専門はスマートエネルギー、蓄電システム、モバイルネットワーク、光通信など。

### ■横顔

前職では研究開発、国際標準化、国内営業、海外企業買収など様々な経験をして来ました。こうした経験を教育現場で活かせればと思い転職しました。金沢工大地方創生研究所を兼務、高専生の活動フィールド拡大にも貢献します。アウトドアライフが好きなので、白山麓キャンパス勤務の依頼は喜んでお引き受けした次第です。

### ■趣味

サイクリング、ゴルフ、登山、スキー など

### ■近況

白山麓キャンパスでのEngineering DesignⅡの授業では、地域社会と連携した農業法人経営に取り組んでいます。キャンパスに隣接する休耕田を利用した「高専紅ハルカ」の生産販売は、多彩でユニークな学びの時間をつくりあげるとともに、地域活性化にも貢献しています。





准教授  
博士（情報科学）  
**井上 恵介**  
Keisuke Inoue

**■担当科目**

コンピュータスキルズ、データ構造とアルゴリズム、オペレーティングシステム、AI基礎、コンピュータシステム

**■略歴および専門分野**

佐鳴台中学校（静岡県）出身  
東京工業大学工学部情報工学科卒。北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科情報システム学専攻博士前期課程・博士課程（情報システム学）修了。平成24年3月本校講師就任。平成29年准教授。専門分野：アルゴリズム

**■横顔**

北陸に慣れてきた。

**■趣味**

特になし

**■近況**

早朝散歩をしています。



准教授  
**ハヤト・オガワ**  
Hayato Ogawa

**■担当科目**

エンジニアリングデザイン、エンジニアリングコンテキスト

**■略歴および専門分野**

ロチェスター工科大学工学部卒。ウィスコンシン州立大学大学院修士課程（工学）修了。EM Aオートメーテッドデザイン社勤務を経て、平成20年10月本校助教就任。平成24年講師。平成29年准教授。専門は電気工学。

**■横顔**

両親は日本人であるが、生まれも育ちもアメリカ合衆国であり、国籍は日本とアメリカの両方を持っている。全ての教育をアメリカで受けてきたので、考え方や行動は全くアメリカ人の様であるが、時折見せる日本的な礼儀作法や心づかいが周囲に好感をあたえている。

**■趣味**

スポーツ、料理、旅行

**■近況**

金沢の街は実に日本的で、食べ物も美味しいのでとても気に入っています。英語で学生達と工学の学習を深めていきたいと思っています。



准教授  
**潟辺 豊**  
Yutaka Katabe

**■担当科目**

国語表現、文学、日本語、日本語コミュニケーション

**■略歴および専門分野**

羽咋中学校（石川県）出身  
金沢大学文学部文学科卒業。兵庫教育大学大学院教科領域教育修士課程修了。加賀聖城高校教諭。富来高校教諭。津幡高校教諭。金沢桜丘高校教諭。鶴来高校教諭。林業に従事（5年間）を経て、平成29年9月本校准教授就任。専門は中世仏教説話。

**■横顔**

山好きが高じて、10年ほど前に白山麓へ一家転住しました。サルやカモシカが時々訪れる小さな家で暮らしています。

**■趣味**

焚火など

**■近況**

庭に植えてから5年くらい、全く枝の伸びなかった無花果が、急に枝葉を伸ばして美味しい実をたくさんつけました。植物は根が伸びると急成長するみたいです。人も同じで、内面が充実してくると、ある日突然変貌するのでしょうか。若いときには、すぐに結果は出なくても焦らず根を伸ばしてください。



准教授  
博士（工学）  
**袖 美樹子**  
Mikiko Sode

**■担当科目**

エンジニアリングデザイン

**■略歴および専門分野**

野々市中学校（石川県）出身  
金沢工業大学情報工学科卒。(株)日本電気、(株)NECエレクトロニクス、(株)ルネサスエレクトロニクス勤務。早稲田大学大学院基幹理工学研究科博士後期課程修了。平成26年金沢工業大学准教授を経て平成29年本校准教授就任。専門：グラフ理論、数理計画、半導体デバイス設計 論文・著書：「Power/Ground Networks Optimization Design Methods with Noise Immunity」(学位論文)。

**■横顔**

心のきれいな、真っすぐな人が好きです。自分に自信を持ち信念を曲げず人生を歩んでいける人材を育てたいと考えています。

**■趣味**

街を観察し、街の在り方を見て歩く事。

**■近況**

交通が不便な地方を自動運転等の技術で改革を起し活性化したい。その為に、Bus StopプロジェクトやSmart Cityプロジェクトを主催しています。一緒に活動してくれるメンバーを募集しています。



准教授

## ロバート・ソングー

Robert Songer

### ■担当科目

コンピュータスキルズ、コンピュータアーキテクチャ、データベース、ソフトウェア工学、プログラミング演習

### ■略歴および専門分野

ロチェスター工科大学工学部ソフトウェア工学科卒。ランゲージ・インテリジェンス社での技術スペシャリストとしての勤務を経て、平成21年5月本校助教就任。平成24年5月講師。平成27年北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科卒業。平成29年准教授。専門はソフトウェア工学。

### ■横顔

日本と日本文化に深い興味と敬意を持つ、さわやかなエンジニアである。自らの名前を侶羽渡尊賀と書くほど、日本に憧れをもって金沢に来ている。また学生時代には金沢工業大学に夏期留学のため訪れている。

### ■趣味

文化探求、旅行、写真、ゲーム、AI

### ■近況

学生時代に訪問した金沢に、今度は社会人として戻ってこれたことがとても嬉しいです。これからも多くの人とのつながりの大切さを学んでいきたいと思いません。



准教授

## 津田 明洋

Akihiro Tsuda

### ■担当科目

リーディング・ライティング、ブリッジングリッシュ

### ■略歴および専門分野

名古屋大学教育学部附属中学校（愛知県）出身。玉川大学文学部比較文化学科卒。セントマイケルズ大学大学院修士課程（第二言語としての英語教授法）修了。平成26年9月本校講師就任。令和3年准教授。

### ■横顔

アメリカでの学生時代は世界中からの留学生を支援するスチューデントアシスタントとして仕事もしました。そのやさしさと真面目さから、たくさんの留学生から信頼され慕われました。清潔感にあふれた津田先生は様々な点でロールモデルとなることだろう。

### ■趣味

読書、旅行、映画鑑賞、ドライブ、音楽、バスケットボール観戦

### ■近況

留学中はアメリカのバーモント州という極寒の地で暮らし、また雪の多い金沢という新天地での生活を送り始めました。金沢・石川のいろいろな顔を見てみたいのでぜひ教えてください。



准教授

博士(工学)

## アラール・ホセイン

Alaa Hussien

### ■担当科目

解析基礎、代数・幾何学、応用数学、計測工学

### ■略歴および専門分野

エルミニア大学（エジプト）工学部電気工学科卒。エルミニア大学大学院修士課程修了。金沢大学大学院博士課程修了（電気工学）。ミニア大学（エジプト）電気工学部講師、金沢大学自然科学研究科助教、ウム・アル・クラ大学（サウジアラビア）工学部助教を経て、平成27年本校講師就任。平成30年准教授。専門は電気工学。

### ■横顔

専門は電気工学であるが、研究テーマは機械工学に強く関連している。また、教育学に強い興味を示し、学生との効果的コミュニケーションのための技術を学ぶため、訓練コースを受講してきた。

### ■趣味

サッカー、読書

### ■近況

古い日本の伝統文化を残す金沢の街が大好きです。国際高専の学生には、専門の学習、日頃の会話を通して楽しい学校生活を送ってもらいたいと願っています。また、エジプトの文化、人、そして風習などを皆に話し、興味を持ってもらえたら、と思っています。

# 講師



講師

キース・イコマ

Keith Ikoma

## ■担当科目

総合英語

## ■略歴および専門分野

トンプソンリバーズ大学卒業。トリニティ・ウエスタン大学修士課程修了（キリスト教学）。専門はカナダ文学。キリスト教学。秋田県立秋田工業高等学校等にてALTとして5年間の勤務を経て、平成30年10月本校講師就任。

## ■横顔

出身はカナダのバンクーバーです。名前からおわかりですが日系カナダ人です。祖父母が日本からカナダに移住したという家族のもとで育ち、幼い頃から日本の文化、食べものに興味をもちました。大好きな日本の食べものは焼いたおもちです。秋田県で5年間英語を教え、今金沢での新たな生活に胸ときめかしています。金沢の歴史、文化、そして食べものも学びたいと思います。

## ■趣味

旅行、読書、外国語

## ■近況

2018年に秋田から引越して、新天地の石川県を探索したいです。日本では43県に行ったので残りの県にも行きたいです。最近、生涯学習のために日本語や教育についての本を読んでいます。教育は人間関係だと思います。



講師

ブランドン・ウォルフアース

Brandon Wohlfarth

## ■担当科目

物理、エンジニアリングデザイン、基礎数学、機械工作

## ■略歴および専門分野

ローズハルマン工科大学を卒業（航空宇宙工学を専攻し、機械工学の学士号を取得）。ローズハルマン工科大学でエンジニアリングマネジメント修士課程を修了。ロールスロイス社でメンテナンス、修理、オーバーホールエンジニアリングのインターンとして勤務。ローズハルマンでユニオンと学生活動事務所のアシスタントを務める。令和2年10月本校講師就任。専門は航空学における機械工学とエンジニアリングマネジメント。

## ■横顔

私はアメリカで生まれ育ちました。高校時代から日本の文化に興味を持っていたので、日本で工学、数学、科学を教えることで、私にとって大切な2つの事柄を融合させることができたと思います。ローズハルマン在学中に金沢工業大学に留学し、日本と国際高専について学ぶことができました。国際高専の一員となり、学んだことを次世代のエンジニア集団の育成に役立てたいと思っています。

## ■趣味

旅行・スポーツ・アウトドア（キャンプ・ハイキング・スキー）

## ■近況

今年は日本、そして国際高専での2年目ということもあり、新しい環境について学ぶことにワクワクしています。また、語学力を向上させるために日本語を勉強しています。みんなと一緒に魅力的な学習環境を作っていきたいと思っています。



講師

デイビス・エバンス

Davis Evans

## ■担当科目

ロボット基礎力学、機械製図、材料力学、流体力学

## ■略歴および専門分野

カリフォルニア州バカビル出身。ローズハルマン工科大学機械工学科卒。金沢工業大学大学院博士前期課程（工学研究科機械工学専攻）修了。大学では専門分野以外に、ロボティクスや日本語、日本文化についても学ぶ。平成27年7月本校助教就任。令和4年講師。専門は機械工学。

## ■横顔

祖母が日本人留学生のホームステイのホストファミリーだったので、幼いころから日本の学生と一緒にいろいろな経験をしました。また、高校生と大学生の時には多くの国々、例えば、イギリス、フランス、韓国、そして日本を訪問しています。家庭教師として、色々な人に教えた経験も多いです。

## ■趣味

旅行、キャンプ、ビデオゲーム

## ■近況

金沢には2014年の夏にKITのサマープログラムで初めて来ました。そして、すぐ翌年2015年の夏にはKITの仲間になりました。



講師

ドーサフ・ガトリ

Dorsaf Gatri

## ■担当科目

生物

## ■略歴および専門分野

チュニス・エルマナール大学卒業（バイオテクノロジー）、島根大学大学院修士課程（環境科学）修了。令和3年本校講師就任。

## ■横顔

私はチュニジアで生まれ育ちました。シディ・ブ・サイドというとても美しい観光地の近くに住んでいました。日本に住んで5年になりますが、金沢に引っ越してきたのは最近なので、この地域を探索するのが楽しみです。日本の自然、食べ物、そして人々の優しさが大好きです。

## ■趣味

旅行、読書、Netflixを見ること、いろいろなレストランを試すこと、写真、ヨガ

## ■近況

新学期を迎えるのがとても楽しみで、教材の準備に追われています。また、運動も再開したいし、写真の腕も磨きたいと思っています。



講師  
博士（工学）

## 久島 康嘉

Yoshihiro Kushima

### ■担当科目

エンジニアリングデザイン、エンジニアリング  
コンテキスト、代数・幾何学、ロボット基礎力  
学、制御工学

### ■略歴および専門分野

灯明寺中学校（福井県）出身。  
金沢工業大学ロボティクス学科卒。金沢工業大  
学博士前期課程機械工学専攻修了。金沢工業大  
学大学院博士後期課程（工学研究科機械工学専  
攻）修了。令和2年本校助教就任。令和3年講  
師。専門は制御工学。「下肢の筋出力の方向を  
考慮した機能的電気刺激による運動制御に関す  
る研究」で学位取得。

### ■横顔

アメリカ生まれですが日本育ちなので英語はまだまだ  
勉強中。甘いもの、特にチョコレートが好きなので海外  
に行くときは日本未上陸のショコラトリーへ足を運  
ぶのが楽しみの一つです。

### ■趣味

スポーツ、映画鑑賞、旅行、ドライブ、カメラなど

### ■近況

金沢に住み始めてからもう10年近く立ちますが、金沢  
についてまだまだ知らないことが多いので少しずつ勉  
強していきたいです。



講師

## 黒田 譜美

Fumi Kuroda

### ■担当科目

国語表現、日本語、日本語コミュニケーション、文学

### ■略歴および専門分野

南ヶ丘中学校（岐阜県多治見市）出身  
金沢大学文学部文学科卒。金沢大学文学研究科  
博士前期課程修了。平成27年度本校講師就任。  
専門は中国文学。主に中国南方の地方劇、語り  
物の研究に従事。

### ■横顔

学生のときオーケストラでヴァイオリンを弾いていま  
した。音楽は聴くのも演奏するのも好きです。

### ■趣味

読書、音楽鑑賞

### ■近況

教壇に立つにあたって、よき表現者でありたいと思う  
一方、皆さんの表現を受けとれる、よき聞き手、よき  
読み手でありたいと思っています。若者言葉について  
いけないこともあります。皆さんとの交流を通じて  
新しい知識を得られることを楽しみにしています。



講師

## ジェームス・テイラー

James Taylor

### ■担当科目

リスニング・スピーキング、エンジニアリング  
コンテキスト

### ■略歴および専門分野

リーズ大学人文学科卒。リーズ大学大学院修士  
課程（他言語話者に対する英語教授）修了。黄  
石理工学院および大連ノイソフト情報大学を  
経て平成28年本校講師就任。専門は第二言語とし  
ての英語教授法。

### ■横顔

中国の工科大で英語を教えた経験もあります。日本  
の高専で若い未来のエンジニアとともに学んでいき  
たいと張り切っています。今、日本語の勉強にも力  
を入れています。イギリスのケント出身である。国際高  
専で初めてのイギリス人英語教員であり学生は彼のク  
イーンズイングリッシュを経験することができるだろ  
う。

### ■趣味

ラグビーリーグ、クリケット、サッカー観戦、読書、  
旅行、ラジオ

### ■近況

高専という日本の優れた教育機関で英語を教えること  
に喜びを感じています。英語と理工系科目を融合させ  
た新たな授業を進めたいと思います。



講師

## エドワード・バスケル・Jr.

Edward Basquill Jr.

### ■担当科目

リスニング・スピーキング、ブリッジイン  
グ

### ■略歴および専門分野

[米国]ニューヘブンスザンコネチカット州立大  
学卒業（歴史学）。同州立大学大学院修士課程  
修了（初等教育）。[米国]セント・マイケルズ  
大学大学院修士課程修了（英語教授法）。韓国  
アパロン英語学校講師。広島県でALTとして英  
語を教授。中国広州市シアンジャン中学校で世  
界史教員を経て、平成29年10月本校講師就任。

### ■横顔

特技はウクレレです。背中にウクレレを背負って、颯  
爽とキャンパスを歩く姿は独特なものがある。授業で  
きっとその腕前を見せてくれるでしょう。いつでも声  
をかけると、にこやかに返してくれる先生です。もう  
一つの特技は、お菓子作りやパンを焼くことです。同  
僚の先生方からも、その味は太鼓判を押されています。

### ■趣味

読書、ファンタジー小説を書くこと、ビデオゲーム、  
カポエイラ（ブラジルで行われる男性の舞踏）、ペー  
キング、ロッククライミング

### ■近況

共に学び、楽しい1年にしましょう。



講師

## ハズワン・ハリム

Hazwan Halim

### ■担当科目

物理、エンジニアリングコンテキスト、コンピュータシステム

### ■略歴および専門分野

[マレーシア]マラ工科大学工学部電気工学科卒業。マラ工科大学大学院修士課程修了（電気工学）。[マレーシア]セギ大学講師を経て、平成29年10月本校講師就任。

### ■横顔

私はマレーシアの出身です。マレーシアは気温が摂氏25度から28度の、一年中暖かい熱帯の国です。日本のような四季がある国に住むことは、私にとっては全く初めての経験です。私は子供のころから日本の先進技術にずっと関心を持ってきました。これについてさらに学び、知見を深めたいと思っています。日本にいるという折角のこの機会を活かすつもりです。

### ■趣味

旅行とバイクに乗ることです。

### ■近況

この4年間、3Dプリンティングやプログラム言語やロボティクスなど、さまざまなことを学んできました。最近ではピアノ演奏を習うことに関心を持つようになりました。



講師

## ジャスティン・ハン

Justin Han

### ■担当科目

エンジニアリングデザイン、応用物理、材料工学、機械要素設計

### ■略歴および専門分野

ローズハルマン工科大学機械工学科卒。金沢工業大学大学院博士前期課程（工学研究科電気電子工学専攻）修了。平成24年9月本校助教就任。平成31年講師。専門はロボティクス工学。

### ■横顔

一見すると日本人だと思われそうですが、実際はニューヨークで生まれ育った中国系アメリカ人です。長い間日本に興味があり、大学で日本について勉強しました。日本で若者を教え、交流できる事にワクワクしています。平成22年のKITサマープログラムで金沢に来て、とても気に入ったので戻って来ました。

### ■趣味

ロボット、アニメ・漫画、新しい物を試すこと

### ■近況

前回の滞在時、日本について人や本などからたくさん学びました。今回もっといろいろなことを知るのを楽しみにしています。



講師

## ナグワ・ラシード

Nagwa Fekri Rashed

### ■担当科目

化学

### ■略歴および専門分野

ミニア大学理学部卒（エジプト）。ミニア大学大学院修士課程（化学工学）修了。ダージャナ・インターナショナルスクール（サウジアラビア）及びセイハネットワーク株式会社（英会話講師）を経て、平成27年10月本学講師就任。

### ■横顔

文明の発祥地であり、日本と気候、文化も大きく違うエジプトの出身である。日本の文化、人々、教育等エジプトとの違いに強い興味を持ち日本への理解と愛情を深めている。高専生にはぜひともエジプトに興味をもってもらいたいと願っています。様々な場面でエジプトのお話しをしたいと思います。

### ■趣味

読書、旅行、インターネット、屋外スポーツ

### ■近況

日本に住んでいるうちにいつの間にか日本を第二の故郷と感じるようになりました。化学の授業を通して、学生たちの輝かしい未来のためにささやかながらでも貢献したいと思っています。



講師

## ステファニー・レノルズ

Stephanie Reynolds

### ■担当科目

リーディング・ライティング、総合英語、テクニカルコミュニケーション

### ■略歴および専門分野

[米国]バーモント大学英語文学学部卒業。[米国]セント・マイケルズ大学大学院修士課程修了（英語教授法）。[石川県・金沢市]金沢工業大学。[石川県・金沢市]北陸大学での英語講師を経て、令和2年9月本校講師就任。

### ■横顔

出身はバーモント、米国です。10年間以上、金沢の大学で英語を教えています。授業運営や教材作りで新たな挑戦と楽しみにきました。屋外で探検することが好きだ、特に山登りとスキーです。私の故郷の文化や伝統や食べ物や手芸を紹介したいと思っています。

### ■趣味

スキー、山登り、水泳、料理、DIY

### ■近況

英語は素晴らしいコミュニケーションツールです。他の言語を理解して使いこなせるようになれば、世界が開けてどこにでも友達ができるようになります。一緒に頑張る英語のコミュニケーションを学びましょう。



助教  
**フィリップ・ケザウ**  
Philip Cadzow

**■担当科目**  
保健体育  
**■略歴および専門分野**  
オタゴポリテクニク・アウトドア活動及びスポーツ科ディプロマコース修了。ガーデンズニューワールドチリアー助手。フォックス氷河ガイド等の勤務を経て平成30年本校助教就任。専門はアウトドア活動及びスポーツ指導。

**■横顔**  
ニュージーランド登山、氷河歩き。ハイキング、リーダーシップ活動、アドベンチャー活動のインストラクターとしての経験をもつ。またほとんどスポーツもこなす完全アウトドア派である。アウトドアの本場であるニュージーランドの様々なアウトドア活動を本校に紹介してくれる。  
**■趣味**  
スポーツ、登山、スキー  
**■近況**  
ニュージーランドの青少年に指導したリーダーシップ活動やアウトドア活動を国際高専の学生諸君に体験し、そのたのしさあるいはそこから学ぶ人間関係や自然の美しさを感じ学んでほしい。



助教  
**アン・イソベル・タン**  
Anne Isobel Tan

**■担当科目**  
ラーニングメンターとして国際高専学生の日常の学習指導を実施  
**■略歴および専門分野**  
ロチェスター工科大学卒業。専攻はパッケージング科学で副専攻はマーケティングと日本語。ニュージャージー州のMenasha社においてデザインエンジニアとしてインターンシップを行う。また、ノースカロライナ州のSyngenta社とコネチカット州のBIC社においてパッケージングエンジニアとしてインターンシップを行った。平成30年6月本校助教就任。

**■横顔**  
新しい場所で新しい人に出会うこと、異文化を体験することが一番好きなこと。新しいことを学び様々な人とつながりを持つことが好き。  
**■趣味**  
写真撮影、グラフィックデザイン、外国語、クラブト、読書、冒険  
**■近況**  
ここ国際高専にいるのはとても楽しい。学生たちが勇気をもって冒険に挑み、世界中の人達とつながりを持っていけるよう尽力をつくりたいと思っている。



助手  
**アピラク・サンゲンチャイ**  
Apirak Sang-ngenchai

**■担当科目**  
ラーニングメンターとして国際高専学生の日常の学習指導を実施  
**■略歴および専門分野**  
チェンマイ工学大学を経てラジャマンガラ工科大学ラナ校卒業（電子工学及びテレコミュニケーションにおける科学技術教育プログラム）Chiang Mai Maker Club、Maker Asia Co. Ltd.での勤務を経て令和2年本校助手就任。専門は電子工学及びテレコミュニケーションにおける科学技術教育プログラム。

**■横顔**  
日本のJST主催の国際交流プログラムで金沢工業大学のサクラサイエンスプログラムに参加しました。また2019年度のラーニングエクスプレスに国際高専の学生とともに活動しました。そんな知っている人々のいる石川に戻ることができ、そして共に経験を積むことに喜びを覚えています。  
**■趣味**  
D. I. Y.、ものづくり  
**■近況**  
私はタイの古く美しい首都として知られるチェンマイから来ました。私は2017年9月金沢工大で実施されたサクラサイエンスプログラムに参加しました。その活動の場となった夢考房がとても気に入りました。私は、ものづくりが大好きで夢考房に一日中でもいることができます。いつの日かICTの学生とともにものづくりが出来たらと思っています。



助手  
**ジヨムキット・ジュジャロエン**  
Jomkit Jujaroen

**■担当科目**  
ラーニングメンターとして国際高専学生の日常の学習指導を実施  
**■略歴および専門分野**  
令和2年5月にロチェスター工科大学を卒業し、電気・機械工学技術の理学士号を取得。ニューハンプシャー州レバノンのSimbex LLCで研究開発エンジニアのインターン、ニューヨーク州ロチェスターのSandstone Technologiesでテスト開発エンジニアのインターンを経て、令和2年10月本校助手就任。

**■横顔**  
学生時代はダブルメジャーだったので、機械設計から電気設計、さらにはプログラミングまで、様々な工学分野に挑戦することができました。そのおかげで、新しい趣味を探したり、新しい技術を研究したりするのが楽しくて仕方がありません。知識を追求することは、充実した人生を送るために重要なことだと思っています。  
**■趣味**  
読書、音楽鑑賞、映画鑑賞、ウェイトリフティング、格闘技、モデルキット製作、料理、コーヒーを飲むこと  
**■近況**  
国際高専で先生方と一緒に学生の学習をサポートできることを大変光栄に思っています。学生たちには、工学と人生の核となる価値観を教えたいと思っています。